大正六年九月十四日第三種郵便物認可 • 昭和十六年五月廿五日印刷納本 • 昭和十六年六月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

6

日本建築協會

第24輯第6號
昭和16年6月1日

㊗ ルーフイング・フエルト公定價格　昭和15年10月15日

種別＼要項	重量	面積	製造業者販賣價格	卸賣業者販賣價格	小賣業者販賣價格
アスファルトルーヒング	20瓩	21平方米	圓 4.70	圓 5.20	圓 5.70
	25瓩	〃	5.85	6.45	7.10
	30瓩	〃	7.05	7.75	8.50
アスファルトフエルト	10瓩	〃	3.15	3.47	3.80
タールフエルト	10瓩	42平方米	2.85	3.14	3.45

イ、本表價格ハ、ストレートアスファルト又ハコールタールノ浸透量原紙重量ノ80%以上ノモノノ價格トス

ロ、製造業者及卸賣業者販賣價格ハ買主店先渡價格トス
但シ樺太、朝鮮、臺灣、南洋群島、關東洲、滿洲又ハ支那向ノ場合ニ於テハ賣主最寄港船積渡價格トス

ハ、包裝費及荷造費ハ賣主負擔トス

（砂付便利瓦及特許ギルソイド共從來通り）

三星印

三星印砂付便利瓦・三星印ルーフイング及フエルト
專賣特許ギルソイド防水工事責任施工（陸屋根地下室）
アスファルト應用各種加工品・床舖工事三星サイドリユーム
耐火・耐熱・防音・保溫・　—石綿代用品—　三星岩綿各製品

大阪田島應用化工株式會社

營業所　大阪市北區中之島五丁目三〇　電話土佐堀 1323 5682 6221 7294

田島應用化工株式會社　日本岩綿工業株式會社　日本木材化學工業株式會社
三星產業株式會社　三星セメント工業株式會社　合資會社宮城アスファルト研究所

建築と社會

第24輯　第6號　　昭和16年6月發行

六月號

目　次

神社建築樣式の變遷……藤原義一…(1)
神社建築の性格……田邊泰…(11)
鳥居……藤島亥治郎…(15)
神社建築雜考……井上一雄…(18)
神社と石燈籠……川勝政太郎…(26)
軍艦「冲の島」祠殿に就いて……藤島亥治郎…(29)
牡丹江神社に就いて……伊藤文四郎…(31)

住宅と空襲對策……中尾保…(33)

大和路の茶室・1・……八窓庵……岡田孝男

☆紫烟室☆

石原產業見學記……大下順三郎…(57)
神社建築漫稿……津田鑿…(58)
ブック・レビュー……小林清…(60)

市民防空壕展覽會……(35)
外國の防空壕寫眞……(41)
防空資材誌上展覽會……(45)

☆新建築欄☆

石原產業海運株式會社（大阪）・牡丹江神社（滿洲・牡丹江）・アメリカに於ける防護建築の一例・アメリカに於ける農場經營の一つの傾向

會報……(62)
後記……(69)

會　　告

細則一部變更に關する件

昭和十六年五月十三日開會ノ臨時總會ニ於テ細則中第五條並ニ第十條ヲ下記ノ通リ變更昭和十六年六月一日ヨリ實施ノコトニ決議相成マシタカラ此段會告イタシマス

昭和十六年六月一日

社團法人　日本建築協會

細則第五條中第一項並ニ第二項ヲ第一項トシ下記ノ通リ變更

本會ハ會報及雜誌「建築と社會」ヲ毎月一回一日ニ刊行シ之ヲ會員及賛助員ニ配布ス

同條第三項ハ第二項トナリ現行通リ

細則第十條中「**書記及傭員**」ノ五字ヲ「**ノ事務員**」ノ四字ニ變更シ尚同條ニ下記ノ通リ一項ヲ加フ

「**前項事務員ノ服務ニ關スル處務規程ハ常務會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム**」

六月見學に關する件

本幹事會主催の六月見學は豫告の通り大鐵沿線養豚場見學の都合でありましたが同所工事の關係上延期することになりました。隨て六月は中止たします。右不惡御諒承願ひます。詳細は七月號會告御覽下さい

會勢幹事長　谷　　民　　藏

神社建築様式の變遷

藤原義一*

はしがき

神社建築様式の變遷は大體三つの段階に分けて考へることが出來る。一は大社造より、大鳥造、住吉造を經て神明造に至るまで、二は春日造、流造、八幡造、聖帝造等の様式出現、三はそれ以後に於ける諸様式發達といふことである。第一の段階たる大社造より神明造に至る間は、上古に於ける我國家屋の發達に伴ふ自然的變遷の特色を有し大和民族の建築様式として最も純粋な性質をもつ。第二の春日造以下の様式は在來の神社建築が佛寺建築の影響を受けつゝ成長した建築様式で、様式の發展といふ中に神佛交流の姿を見出すものである。第三は多岐多様の發展を遂げた建築界の様相をそのまゝ反映して神社建築にも幾多の様式や變形種類を生じた段階で、主として鎌倉時代以降に屬し、獨り神社佛堂といふのみならず、宮殿邸宅等あらゆる方面の建築様式と接觸して、一面には傳統を尚び一面には傳統にとらはれず、神社といふ個性を失つたかに見えて而も最も國民の生活に浸透してゐた神社の實體がそこに見出されるのである。以上の段階に於ける神社建築様式の極く大要を解説する。

大社造より神明造まで

(1) 大社造

切妻造の屋根のみを地上に建てた「天地根元宮造」と呼ばれる原始的家屋に柱を立てゝ軸部壁體を造り、床を張つたといふのが、大社造の外觀である。即ち切妻造妻入で、而も妻の入口は中央の柱の片方に偏して設けられてゐる。內部は正方形の平面で、中心に「心の御柱（シンノミハシラ）」と呼ぶ太柱が立ち此の柱から奥の半分、即ち內部平面を四つに割つた一つの隅が神座とされてゐる。これは上古住宅の一隅に座を設けて神を祀つてゐた頃の風習を傳へるもので、神社として神を祀る建物の未だ出來ない前の様式を示すものである。崇神天皇の御時初めて三種の神器を宮室から分ちたまふて、神社と宮室との別が出來たのである。

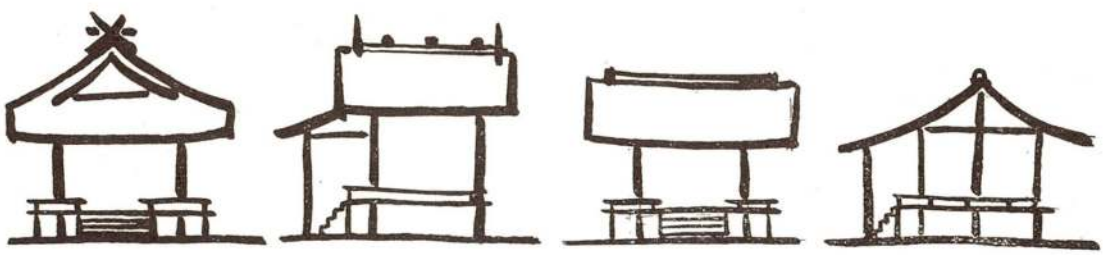
大社造の典型は出雲大社本殿で、創建以來幾回かの改築を經て現在の本殿は延享元年の建立、即ち今から約200年程以前に造られた建物であるら様式としての古制をよく傳へてゐる。島根縣八束郡大庭村にある神魂神社本殿も大社造で、應安元年の建立にかゝり、即ち鎌倉時代に屬し大社造としては現存最古の建築である。

(2) 大鳥造

切妻造妻入、外觀は大社造と同様の性質をもつが、內部に內陣と外陣との區別が出來、且つ入口は正面の中央に設けられてゐる。即ち住宅から分離された神社としての最初の形體を備へたものである。大阪府下の大鳥神社にこの造りの本殿があつて國寶とされてゐたが、明治38年8月惜しくも燒失してしまつた。

(3) 住吉造

大鳥造と同じであるが、內陣外陣の深さが大鳥造の各一間であるのに對して、住吉造は各二間の



*姫路市技師



地主神社本殿
室町時代の春日造、優美な彫刻を多く用ふ。前方に幣殿を附す。同時代のもの



兵庫縣・一乘寺境內
辨天堂（春日造）と妙見堂（流造）

深さをもつ。それだけ大鳥造より進展した様式といふことが出來る。實例は大阪市住吉區住吉神社にあり、寶永5年の建立にかゝり、第1殿より第4殿に至る4棟あり、住吉造の代表建築とされてゐる。

（4） 魂明造

住吉造までは何れも妻入の形式である。「天地根元宮造」に於ては妻入は必然の形である。然るに周圍に柱が立つ様になれば入口は必ずしも妻に設けねばならぬことはない。初の中は習慣的に妻につけてゐても、やがて屋根の流れの方、即ち平（ヒラ）に入口を設けるやうにもなつてくる。平に入口を設ける、即ち平入（ヒライリ）が出來た。この形式が神門造で伊勢の內宮外宮の御様式がこれである。切妻造平入で、千木勝男木あり、兩側面に長く突出してゐる棟木の先端を支へるために棟持柱（ムラモチバシラ フタバシラ云ふ）を立てゝゐる。科拱のない頃は直接支柱をもつて支へたのである。



紀伊・廣八幡神社々殿
室町初期、本殿流造と末社春日造

2 新樣式出現

佛教建築が輸入せられてより，我が建築界は獨り佛寺のみならず、宮殿邸宅等各方面に亘つて、劃期的發展を遂げ、古き傳統を護つて來た神社も時流に抗しがたく次第にその影響を受ける様になつた。殊に本地垂跡説が説へられる様になつてからは神佛の混淆甚だしく、各地に神宮寺が造られる有様であつたが、こゝに於て寶龜2年（即ち奈良朝の末）藤原百川が勅を奉じて神社建築の規定を設けた。それによると社格を大中小の三社に分ち、それに應じて境內及び社殿の大きさ、千木勝男木の數等を定めた。そのときの規定より想像すると社殿は神明造であつたと考へられる。

かくの如くにして神社建築の様式は他様式との混淆が禁ぜられて、一度は昔の姿に立ち返つたのであつた。間もなく都が奈良より京都に遷され、佛教界の狀勢は大いに變つたが、佛教は衰へず、むしろ別の性格を得て發展の途に就き、佛寺建築は依然普及し、様式や技術は著しく一般化した。前に百川の制定した神社規定はいつしか忘れられ佛寺建築は佛寺に限られず既に一般化しつゝあり再び神社建築の中に流れ入り、かくて春日造、流造、八幡造、聖帝造なる四様式が出現した。

（1）春日造

春日造は大鳥造或は住吉造の正面に廂屋根を附して向拜としたもの、即ち切妻妻入の建物の正面



梅田神社本殿（京都府）
流造、建武年間。



近江・道風神社本殿
流造、暦應二年建立。

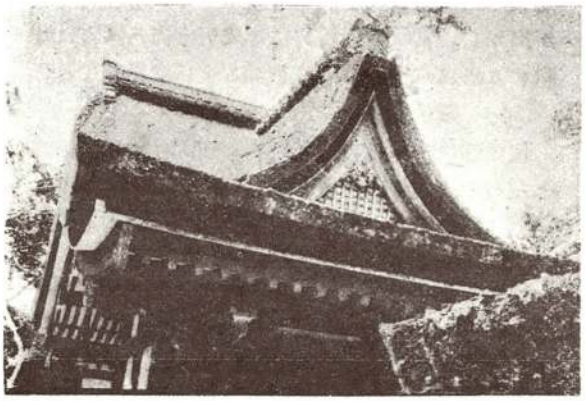
に廂屋根を葺き下ろしたもので、正面から見るとやゝ入母造の様に見える。棟には千木勝男木を上げるが屋根には反りが出來、木部には丹や黄土を塗つて彩色を施し、舟肘木などを用ひた。

奈良の春日神社本殿は此の様式の代表的なもので春日造の名の由つて來るところである。當社は和銅二年御蓋山の山上に武甕槌命を祀つたのが草創と云はれ、神護景雲二年現在の地に社殿が出來祭神も四座となつた。爾來50餘回の改築を經て現在に至つたのであるが、春日造の様式となつたのは平安前期の頃と考へられてゐる。現在の社殿は文久二年の建立にかゝり、細部に江戸時代末期の手法は見られるが、全體としてよく古式を存し、殊に正面の破風が廂の奥を通つて軒先まで突き抜けてゐるところは、切妻造の破風をそのまゝにして廂を取り附けた順序、即ち春日造の成り立ちをよく物語るものである。

春日造出現當初の建物は現存してゐない。最も古い遺構は鳥取縣の三徳山三佛寺にあり、現在納經堂と呼ばれてゐるが、元はこの山の鎭守か何かの社殿であつたらしい。平安末期（或は鎌倉時代に入るかも知れぬ）の建物で春日造の様式を有してゐる。鎌倉時代以降に造られた春日造は多數遺物があり、大和の圓成寺境内の春日堂及び白山堂（堂と呼ぶのは寺院に屬する建物として取扱はれてゐる關係上特に呼ぶにすぎない）、靈山寺境内十六所神社にある住吉神社及び龍王神社々殿近江地主神社本殿等は著名である。

（2） 流　造

流造は神明造から變化したもの、神明造即ち切妻造平入屋根の前流れが前の方に伸びて向拜となつたもの、屋根には反りが出來、千木勝男木は稀



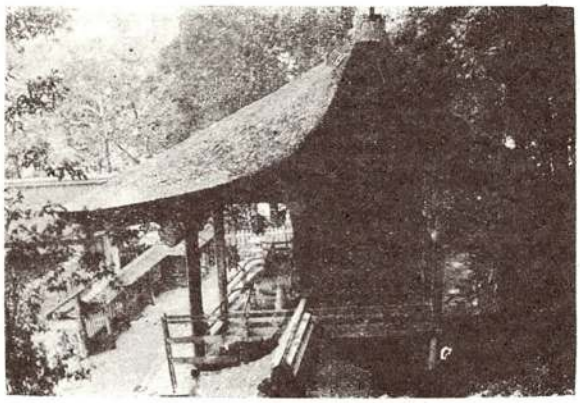
山城・水度神社本殿正面屋蓋
流造の正面に千鳥破風を置く。室町時代。



水度神社本殿
背後より望む。



近江・高木神社本殿
鎌倉末の流造。



近江・八阪神社本殿
室町時代、流造

な場合の他は失はれ、彩色を施し、科拱を應用する。多く佛寺建築の影響である。

流造の代表的な實例は京都の加茂御祖神社本殿で、文久三年の建立、創建以來幾回も改築を經て鬼板、破風、懸魚、肘木、勾欄等隨所細部に江戸末期の特色を現はしてゐるが、全體として流造の形體をよく傳へるものである。

流造最古の實例は宇治上神社本殿、平安後期の建築で、流造としてのみならず、神社建築としては現存最古の建築である。1間社流造の社殿が三殿並び、これに後世鞘屋が造られ、外觀は一棟の建物に見える。

鎌倉時代以降流造の社殿は最も多く造られ、實例も最も多く遺つてゐる。神社遺構の過半數は流造である。最も簡單な樣式であるために、神社建築樣式として最も普及したものであらう。

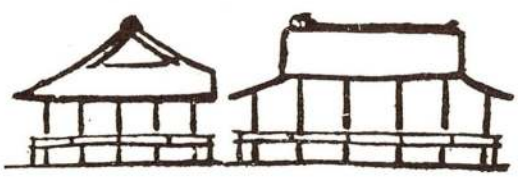
（3） 八幡造

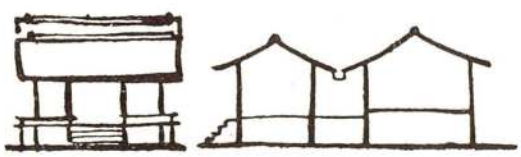
八幡造は三間社神明造の本殿の前に、三間一面切妻造の拜殿を置いたもの、側面から見れば切妻が二つ軒を接して並び、軒先の接合點には共通の大樋を造つて谷の雨水を受けるやうになつてゐる。兩殿の中間は相の社（アヒノマ）で接續されてゐる。屋根には反りがあり、棟、科拱その他佛寺建築の影響によるものが多いが、實例としてはあまり古いものはなく、遺構の數も流造や春日造に比すれば極く少數であるから、發生當初の八幡造は大體としての樣式を知るのみである。

大分縣宇佐町の宇佐神宮は八幡造の好例で三殿並び、何れも八幡造である。草創は第一殿神龜2年、第二殿天平元年、第三殿弘仁11年と傳へられるが、八幡造となつたのは第三殿以降と考へられる。現在の社殿は幾かの改築の後、最後に安政から文久にかけて出來たものである。故に江戸時代末の手法を多く見る。左右兩殿の正面には各一間の向拜があり、中央殿には向拜はない。向拜のない方が古式である。京都府下の石清水八幡宮も八幡造である。貞觀元年宇佐八幡宮に准つてはじめて正殿三宇禮殿三宇併せて六宇の寶殿が造られた。これは即ち八幡造三殿に他ならぬ。創始以來造營14度修理16度を經て、寛永18年に現在の社殿が出來た。當社の創始並に形式が宇佐八幡宮に關聯する事は八幡造の沿革を知る上に參考となる。

（4） 聖帝造

聖帝造は一に日吉造といふ。三間社神明造の前と左右の三面の廂をめぐらした形、更に云ひ換へれば、流造の左右に廂を附したともなる。正面か







御上神社本殿



春日神社本殿（近江）

らは入母造屋に見え、背面から見れば左右に廂の縋つた面白い形をしてゐる。入母屋造の後面の軒を垂直に切斷すればこんな形になるであらう。春日造以下の三樣式に比較して、上古樣式とは餘程距つた感があるが、住吉造や大鳥造の正面に廂を附した春日造に對して、神明造の三方に廂を附したものと考へれば甚だしい差はない。併し乍ら、聖帝造は單に神明造又は流造より直接發達した形と考へるばかりでなく、その發達の反面に、寢殿邸宅風建築の存在を無視することの出來ぬ理由があるである。

聖帝造は近江坂本の日吉神社本殿を以て代表せらる。日吉造の名のあるのはこれに由る。神社の創立は天智天皇七年で、後延曆寺が出來てより、その守護社となつた。聖帝造とされたの延曆寺以降のことである。後世改造を重ね、天正14年現在の社殿が出來た。此樣式も八幡造と同樣あまり古い遺構もなく、數も本殿附近の小數を除いては殆どないから詳しいことは判らぬが、又出現當初の聖帝造に比すれば相當變遷を經てゐることを認めねばならぬ。

春日造以下の樣式に就て、その發達の順位は、春日造、流造を同格とし、八幡造これに次ぎ、聖帝造は最後と考へられる。八幡造は相の間の出來てゐるのは大いに進んだ形式で、その點から云へば聖帝造と同列に考へるべきであるが、當初は神明造の前面に拜殿を並べて建てたに止まり、相の社はなかつたと考へられる。

3. 中古以後に於ける諸樣式

春日造流造等が出現して神社建築界は漸く多彩を加へ、中でも春日、流の兩樣式は全國に最も普及して行つた。平安時代に入り、寢殿風の邸宅建築が發達し、聖帝造の中に早くもその影響が認められ、やがて寢殿風の入母屋造社殿が造られる樣になつた。その實例は平安時代のものはないが鎌倉時代以降になると若干現存する。

八幡造社殿はあまり造られなかつたが、八幡造の精神を掬んで本殿と拜殿とを適當に結合し、又は相の間、弊殿等をその間に造つた社殿が往々現はれた。鎌倉時代以降のことであるが、この樣式には禪宗建築に於ける開山堂の樣式などが大いに與つてゐる。

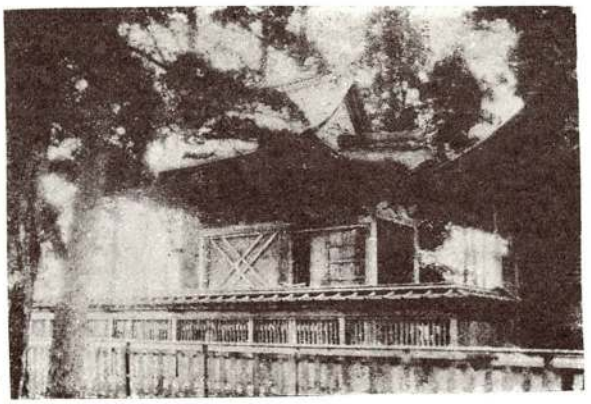
又昔は祭神の數によつて、三座四座の社殿を並べ建てることが行はれたが、（宇佐八幡、春日神社、宇治上神社等何れもこれである）鎌倉時代より、幾棟かの社殿を單獨に並べることより一步進めて、それ等を互に連續する樣式が出現した。

或は本殿拜殿等か結合してそれが一層複雜な外觀を呈するに至つたもの、或は時代の傾向に伴ふて奇想天外の構想を凝らせたもの、神佛は密接不離の關係にあり、兩者の樣式は形態に於ても細部手法に於ても完全に融合し、その間に區別つけ難き社殿も造られた。又社殿を佛堂とし、佛堂をそのまゝ社殿とする場合も尠らず、宮殿邸宅等の建物を社殿として使用することも珍らしくはなかつた。

平面の變化に應じて屋根の形も複雜となり、或は單一な平面に入母屋、千鳥破風、唐破風等を重ね用ひて複雜な外觀を現はすといふものもあり、



兵庫縣・御靈神社本殿
入母屋造、室町時代



古四王神社本殿

それ等の様式には傳統に基くもの、又は全然別の意圖より造り出したものなどあり、多岐多様の建築界の容相をそのまゝに、各種の神社建築が現はれた。それ等の中の主なものを記せば次の如くである。

（1） 入母屋造

第1に近江の御上神社本殿がある。三間三面入母屋造檜皮葺、正面に一間の向拜があり、四方椽をめぐらし、棟には千木勝男木を上げてゐる。椽束の礎石が蓮花彫刻から成り、これに建武4年の銘がある。蓮花が佛寺のものであることは云ふまでもなく、又向拜には蟇股や手挾などの彫刻が用ひられてゐる。佛寺式とは云ふものゝ、この時代に於ては殆ど區別はなく、かゝる彫刻は神社建築至るところに用ひられた。同時に本殿には住宅風の影響も認められるのである。

御上神社本殿と殆ど同じ形體を有し、而も徹底的に佛寺化した建築は山梨縣の金櫻神社里宮境内東宮本殿である。三間三面、入母屋造檜皮葺、正面に一間の向拜があり、三方に椽側を附す。年代は鎌倉末、出組斗拱を組み、軒支軒あり、蟇股、間斗束、木鼻その他繪様彫刻を用ひ、外觀、細部手法等佛寺建築少しも異るところはない。

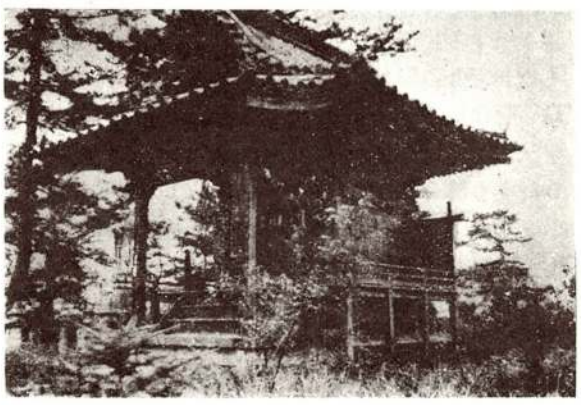
滋賀縣大石村春日神社本殿は二間社入母屋造である。春日神社と云つても必ずしも春日造でないことは住吉神社といふのに春日造があつたり、八幡神社本殿が流造であつたりするのと同じである。この本殿は文保2年の建立即ち鎌倉時代の建築で、構造に於ても、彫刻裝飾に於ても獨創且つ優秀な手法が行はれてゐる。

兵庫縣有馬郡貴志村御靈神社本殿は文明2年の建立で、入母屋造、前三例の平入建物であるのに對して、これは妻入となつてゐる。正面から見れば春日造の如く見える。

秋田縣大曲町の古四王神社本殿は元龜元年の建築、入母屋造妻入で、正面に唐破風造の向拜を附してゐる。入母屋造社殿の一例であると同時に、内外に頗る珍らしい構造及び裝飾意匠を行つてゐる。

大阪府下で入母屋造の社殿を擧げれば、1は泉北郡草部の日部神社本殿で、鎌倉末、正平頃の建築、三間三面妻入本瓦葺、正面に向拜あり、斗拱蟇股その他繪様蠻形を使用し、極彩色裝飾を施し全く佛堂式である。

他は南河内郡川西村錦織神社本殿で、年代は日部神社とほゞ同じ頃、入母屋造の前流れの伸びた軒先に唐破風をかけ、その上の方に千鳥破風を置



鶴林寺行者堂前方より斜めに望む



古熊神社本殿
側面より見る。正面の蟇股が一つ見える。



古熊神社楼門
側面より見る。

いてゐる。本殿も蟇股をはじめとて、彫刻装飾を豊富に用ひ、又極彩色を施し、飾金具などもちりばめてゐる。

錦織神社本殿と同じ様な屋根の形式を有するものに福岡縣太宰府の太宰府神社末社志賀社本殿がある。長祿2年の建立、僅かに方一間、前に向拝を有するのみの簡單な建物であるが、入母屋造屋根の前流れの上に千鳥破風を置き、軒唐破風をかけてゐる。軒廻り及び勾欄の腰組には複雑な斗拱を用ひ、蟇股等の彫刻を備へ、意匠甚だ豊富である。

兵庫縣鶴林寺境内にもと鎭守で今は行者堂と呼ばれる小さな一間社の建物がある。世に行者造と稱され、春日造より變化したる珍らしい形式として知られてゐるが、結局入母屋造の正面に向拝屋根が繋つてゐる一例にすぎない。但し室町初期の優秀な建築である。

（2） 連結様式

河内の建水分（タテミクマリ）神社、大和の宇太水分神社及び吉野水分神社等にある本殿の様式で水分（ミクマリ）造と呼ばれてもよいものである。

宇太水分神社本殿は元應2年の建立、即ち鎌倉時代の建物で第一殿より第三殿に至る三棟より成り、各殿一間社春日造で左右一例に接近して並び何れも獨立して建ち、直接には接續してゐないが各殿の脇障子の意匠などによつて、連續の意味は充分に表はされてゐる。

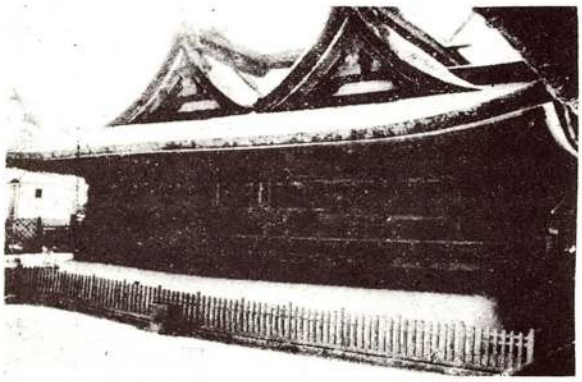
建水分神社も三殿並立し、中殿は春日造、左右兩殿は流造、そして三殿は渡廊をもつて連絡してゐる。建武元年楠正成の建立と傳へられる。

吉野水分神社本殿は一間社の中殿と三間社の左右殿とが相並び、何れも流造で、互に軒を並べて接續し、全體一つ屋根の九間社流造の様に見える。そして各殿の屋根の正面に千鳥破風を置いてゐる。慶長5年の建立にかゝり、桃山式の彫刻及び極彩色装飾が行はれてゐる。宇太水水から建水分を經て吉野水分に至り、三殿接續の經過を明瞭に知ることが出來る。

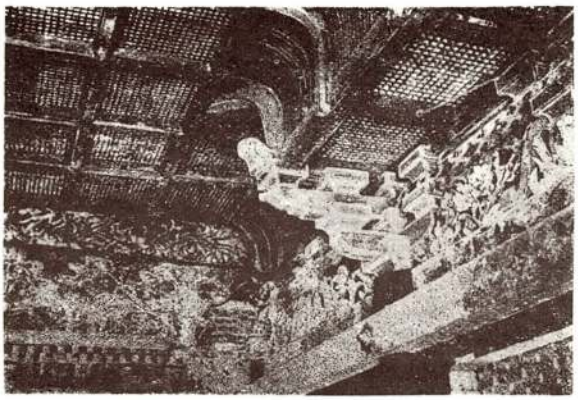
尚ほ連結様式の部類に入るべき社殿は、大和の添御縣坐（ソフノミアガタニマス）神社本殿で、一間社流造が一間の相の間を置いて三殿連續し、五間社流造の様に見える。年代は室町時代初期。

山口縣の住吉神社本殿。一間社流造が五殿、各一間の間隔をおいて連結し、九間社流造の様に見える。年代は應安3年、即ち鎌倉時代末。

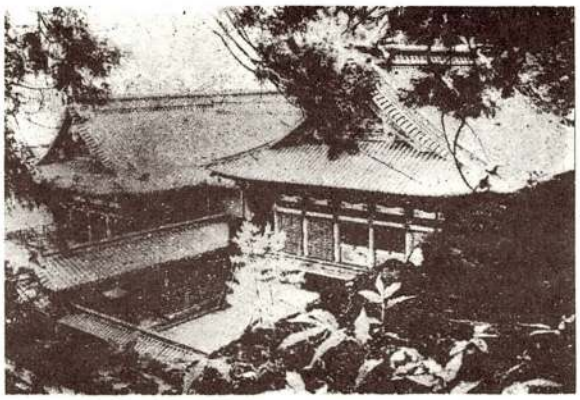
山梨縣の大井俣神社本殿。三間社流造が三殿、各一間の間隔をもつて連結し、十一間社流造の如



吉備津神社本殿



大崎八幡神社、社殿内部



日光東照宮社殿、權現造の好例

く見える。年代は享祿4年即ち室町時代。

京都市の平野神社本殿。一間社春日造が四殿、各一間の間隔をもつて連結し、七間社の様に見える。年代は向つて右の二殿は寛永3年、左の二殿は寛永9年に出來た。

（3） 本殿拜殿等結合樣式

八幡造に於て既に本殿拜殿の結合樣式が兆し、やがて相の間も完成したのであつたが、これと意圖を同じうし、且つ佛寺建築に於ては祠堂と禮堂とを相の間を以て結合したところの開山堂建築の出現等にも刺戟されて、拜殿、本殿、幣殿等を接合する社殿が現はれた。これ等はやがて權現造の出現する先驅ともなつたのである。

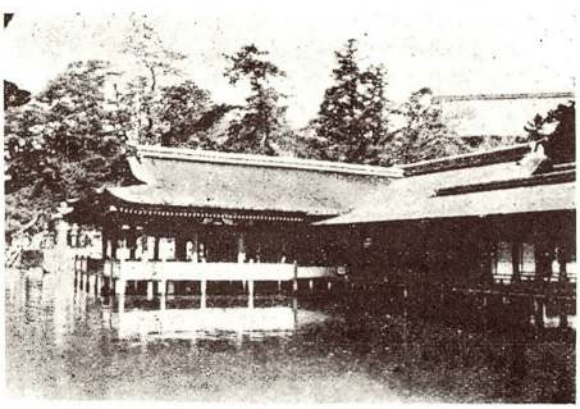
山口市の今八幡宮社殿。本殿と拜殿と樓門とが接近して前後に建ち、各建物は短廊及び相の間を以て接續してゐる。本殿は三間社流造柿葺、拜殿は桁行三間切妻造柿葺、樓門は重層入母屋造柿葺拜殿の如く床を造り、又向拜を設け、左右に翼廊を備へてゐる。年代は文龜3年即ち室町時代。かくの如く社殿が接續し、殊に樓門が床を備へ、本殿拜殿と一連に造られてゐるのは山口地方に於て見る珍らしい樣式である。

山口市に於ける古熊神社々殿も同樣の樣式をもつ。但しこれは樓門が拜殿の如く造られ樓門と本殿との間には幣殿として相の間が設けられてゐる。本殿は入母屋造、正面三間の科拱間には、梅松、竹の彫刻ある蟇股が並んでゐる。本殿の建立年代は文明頃と考へられ、樓門は未だ國寶となつてゐないが本殿と同時代の建物であり、本殿と分離して取扱ふことの出來ない重要な意味をもつてゐる。

天正10年豐臣秀吉によつて再建せられたる兵庫縣柏原町の八幡神社々殿は、三間社流造の本殿の前に、入母屋造妻入の拜殿が接續し、拜殿正面には一間の向拜があり、唐破風造りで、全體檜皮葺、正に權現造の一步前といふ社殿である。



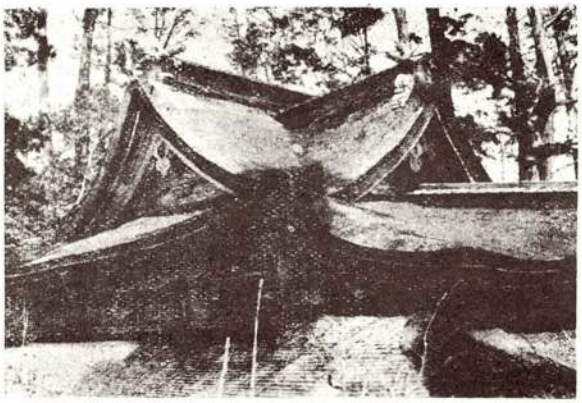
嚴島神社々殿



嚴島神社々殿



飯道神社本殿



飯道神社の屋蓋

福岡縣宗像神社邊津宮社殿は五間社流造の本殿の前に桁行六間の拜殿が丁字形に接したもの、天正間の建立。

天文年間に造られた同縣筥崎宮もこれと同様九間社流造本殿の前に桁行四間の拜殿が丁字形に接したものであるが、その前に接近して更に樓門が建ち、稍々今八幡宮式に似たところがある。

慶長10年に造られた和歌浦天滿神社本殿は、五間三面母屋造檜皮葺、正面に千鳥破風をかけ、本殿のみで既に權現造の風貌を備へてゐる。

（4） 吉備津造

本殿拜殿結合樣式の一特色をなすものに吉備津神社々殿がある。本殿は應永年間の建立。桁行正面五間背面七間梁間八間の大殿で、屋蓋は入母屋造を前後に二棟並べ、これと直角に更に大棟を交らしめ、三つの棟が工字形をなして交る。即ちこれのみにて後世の權現造の屋根の形體を成してゐる。その前面に重層の拜殿が接し、兩殿合せて一種獨特の形體を持ち、その建築手法及び細部に於て、和樣あり天竺樣あり、內部に於ても床、天井柱等の構造裝飾に神佛の要素を巧みに取つて新機軸を出してゐる。獨り神社建築と云ふより、室町時代の生んだ日本建築の一大傑作である。これを吉備津造又は比翼入母屋造といふ。

（5） 權現造

權現造は拜殿本殿等を結合して成る社殿として最も完成した樣式と云ひ得る。その意圖は遠く八幡造に發し、開山堂建築に刺戟され、今八幡宮、古熊神社から更に柏原八幡神社和歌浦天滿神社等に至つて權現造出現の氣運全く成り、遂に慶長12年13年に於て、仙臺の大崎八幡神社及び京都の北野神社々殿が造られるに至つた。

即ち權現造は入母屋造の本殿と拜殿とが棟を平行にして前後に並び、兩流屋根の幣殿が、その棟を本殿拜殿の棟と直角に交へて結合する。幣殿は拜殿と同じ高さに床を造られることがあり、又床を低く落して石敷とすることがある。これを石の間といふ。普通權現造では、拜殿正面の屋根に千鳥破風を置き、又軒唐破風をかける。北野神社に於ては拜殿の左右に樂の間といふ別棟が附屬する。即ち棟數が甚だ多い。故に八棟造の別名もある。日光東照宮をはじめ、全國多數の東照宮はおほむね權現造である。德川家康即ち東照權現を祀るといふ意味で權現造なる名を生じた次第であるが、東照宮よりは權現造の樣式は古いのである。

（6） 祇園造

京都の八坂神社は一に祇園社ともいふ。貞觀年中に創められ、現在の本殿は承應3年の建立、七間四面の身舍の周圍に廂を附した形、單層入母屋造檜皮葺、前後面に三間の向拜を有してゐる。廂には蔀を下げ椽を設け勾欄を附してゐる。前に擧げた入母屋造の部類に入るべき樣式であるが、世にこれを祇園造と呼んでゐる。昔紫宸殿に模して造つた形式を傳へるものとの說がある。

（7） 香椎造

福岡縣の香椎宮本殿の樣式をいふ。入母屋造の屋根を主體として正面に千鳥破風を置き、前面左右に獅子間と稱する切妻屋根の兩翼を出し、これに廂を繞らせ、又前面にも向拜の廂を繞らせてゐる。

享和元年の再建にかゝり、屋蓋の複雑な形に特色がある。

（8） 淺間造

官幣大社淺間神社本殿。慶長9年に成り、五間四面四注造の屋上に三間社流造の社殿を重ねてゐる。上層には椽勾欄をめぐらし、正面に三間の向拜を有す。下層内部より階段で上層社殿に上る。即ち二階造の破天荒の様式である。

（9） 嚴島神社々殿

海岸の水面上に造られ、潮が滿ちてくれば朱塗の社殿は全く海中に浮ぶ。その稍々沖に鳥居が建つてゐる。

社殿は本宮を中心として、向つて左方に客神社が控え、右方には能舞臺があり、その配置は極めて自由である。

本宮は本殿の前に拜殿が建ち、その中間に幣殿があつて接續し、權現造に似たところがあり、又拜殿の前方には祓殿が突出し、その先に更に高舞臺、平舞臺、門客神社等が附し、甚だ複雑で變化に富んでゐる。

客神社も本宮と同様に本殿幣殿拜殿祓殿より成り、廻廊、長橋、内侍橋、反橋等があつて互に連り、天神社、大黒社等がその間に點綴し、天然と人工の美、調和と對照の妙を極めてゐる。

當社の創立は飛鳥時代に溯るが、平清盛が再興し、貞應に燒けて仁治に再建、その後毛利元就が改築し、客神社のみは仁治再建のまゝとなつて現在に至つた。即ち平清盛の計劃が基となつてゐるだけに、社殿の配置や地形や各種の意匠に大宮人の好みと信仰とが傳へられてゐるのである。

（10） その他樣式

その他、近江の竹生島の都久夫須麻神社、甲賀郡雲井村の飯道神社本殿の如く、複雑な屋蓋と華麗な桃山式彫刻に滿ちた社殿もあり、何れも一樣式を成すものであり、又京都の吉田神社齋場所太元宮の如く、八角殿で入母屋造茅葺、棟には千木勝男木を上げ、更に寶珠をも載せた珍らしい樣式の社殿、或は佛寺の堂宇をそのまゝ本殿しとたもの、宮殿を賜つて移したものなど、詳細に亘れば尚ほ色々な樣式はある。（昭和16年4月6日）

神社建築の性格

田邊泰*

1

神道は宗教ではないが、日本特有の宗教的存在として、日本精神文化の最も重要なる要素であることは茲に新しく云ふ必要はない。

然しその神道による建築、即ち神社建築なるものは亦混頓とした我が建築界に於て、精神的にも形式的にも最も純粋なる日本的性格を持つ建築であると云ふことに就て、史的に或は技術的に余の管見を略述して見度いと思ふのである。

元來神社の起原が祖先崇拜に源を發し、その建築は我が上代に於ける原始的住宅から發生してゐることは、文化史上或は建築史上既に異論の無い所である。そして住宅の發生は何れの國でも大凡類似の經路をとつてゐるのであるが、その國乃至は地方の氣候・風土等と云ふ地理的條件と、その國その地方の民族本來の性格等に依つて夫々特質ある形式のものが構成され、漸次文化の發達に伴つて或は政治其他の影響に依つて發展してゐるのである。

我が神社の發生が既に遼遠なる上代にあり、然も神社建築の原始的構成要素が上代の原始住宅の構成とその軌を一にすると云ふことは、發生當初から如何に國民の生活と密接な關係を持つ存在であつたかゞ窺はれるのである。それ故我が國に於ては神道そのものは、國民精神文化の中樞を宗教的に表現したものであり、神社建築は國民生活文化の中樞を造形的に表現したものであると云ふことが出來るであらう。

形式的に宗教建築と住宅とに就て、その發生を詳細に調査すれば、住宅を起原とする宗教建築は或は我國だけではないかも知れない。古代希臘の神殿建築も、その起原はプレ・ヘレニツク時代のミノア期即ちクリート島の文化のうちの住宅形式に發見することが出來るのである。然しその精神は大いに異るものであり、又歷史的過程のうちに彼は其後殆んど純粹性を失ひ、變化してゐるのを見るのである。然るに我が神社建築に至つては、2600年の歲月を、殆んど變化もなく、原始日本的性格を連綿として持續して居るのであつて、これも文化の低い未開國ならば或は當然かも知れぬが我が國の如き飛躍に飛躍を重ねた國家としては、實に驚異と云ふ他は無い。

建築史上明かなる如くこの神社建築界へも度々強力なる誘惑、乃至影響は及ぼされたのであつた。欽明天皇の朝、佛教が渡來して以來、飛鳥・奈良の佛教隆盛時代を經過して、次の弘仁時代に至つて初めて神社建築界に革命を來したのであつた。即ち一部神社建築界に佛教建築の影響を受けた樣式の發生したことで、この傾向は鎌倉・室町・桃山・江戶と進展し、桃山時代に權現造の形式の創造に至つて、神社建築への佛教建築的要素混入は頂點に達したかの如き觀があるのである。

然し以上の如く單なる概念的に或は發達史的にだけ見るならば、神社建築は漸次原始日本的性格は失はれ、殆んど佛教建築と選ぶ所が無い樣にも考へられるのであるが、それ等樣式を更に技術的に分折して考察すれば、佛教建築と異る日本的性格堅持してゐるものであることが自ら分明するのである。

2

古來日本的性格としては、二つの異るものゝあることは既に長谷川如是閑氏の指摘されてゐる所である。即ち古い日本人本來の傳統を何等發展せしめず、そのまゝ生かさうとする性格と、外來の新しい文化を容れてそれ等を日本的に同化して發展せしめてゐるものとである。

今日の我が國の文化が一見殆んど外來文化のみの如くに見られ、日本人が如何にも猿眞似の上手な國民の如くに見られるのは、蓋し明治以後の急激な外國文化の輸入による、前記二性格のうち後者が今日目立つてゐるからに過ぎない。然しこれ

*工學博士・早稻田大學教授

等にも增して歷史を見れば、如何に多くの外來文化が今日の諸文化の骨となり肉となり血となつてゐることかは明瞭であらう。

古い傳統の捨て切れない一面はただ東洋的とか保守的とか云はれる部分であらうが、これこそ日本的性格の鞏固な一面であり、同時に他面敢然とした進取的氣象をも兼ね備へてゐるのであつて、これは單に物質的乃至衣食住等のみを指すものではなく、精神生活方面に於ても同樣である。

かう云ふ意味から云へば神社建築の如きは、日本古典の最高峯にあるものとして、捨て切れない傳統を珠玉の如くに大切に保存してゐるものと云へやう。然し茲に注意を要することは古典と云ふ意義であるが、西洋のそれと自ら異つて居り、我が國に於ては古典であり同時に今日も尙生命を持つてゐることである。

神社がその建築に日本的性格の一面を遺憾なく表現してゐることは事實であるが、我が國最古の古典建築樣式を今日まで生命あらしめてゐるのは何故であらうか。このことに就ても茲に一言して置く必要があると思ふ。

元來神社建築は形式的には、木造建築であり素木造であり、直線式であり、構造意匠共に單純明快であること等を擧げ得るのである。そして一方精神的には神の住居（すまゐ）として上代人の住家に類する形式を採用し、これに神を祀つて、所謂「在すが如く」に奉仕するのが本義である。云ひ換へれば國民の住居即ち物質生活の容器が、神社となれば精神生活の象徵にまで昂揚され、尊崇の對象とされ、然もその意義は西洋のそれの如く單なる記念的のものではなくして、祖先崇拜に源を發してゐるのであるから、國民の精神生活と密接不離である。

神社が我等祖神の靈の住居（すまゐ）として設けられたものである限り、何時の世に至つてもこれに何等の變改の加へられないことは當然である。そして又國民の精神生活のふるさとであるから停止さるゝ時の無いことも亦當然である。されば我が國に於ては西洋其他と異つて、古典樣式が尙今日隆々として生命を持つと云ふのも、かう云ふ精神的理由に基くものと云ふべきである。

今日傳ふる上代の神社建築の傳統形式たる大社造・大鳥造・住吉造・神明造等の代表的社殿は、何れも江戸時代又は近時の重建にかゝるものであるから、幾分後世の手法は混入されてゐるが、その形式は大凡上代の遺風を傳へ、三千年に近い歲月を然も多數の造替が行はれたであらうにも拘らず、依然として原始形式を保存してゐることは、實に我が國にして初めて見らるゝ意義あることゝ云はねばならぬ。

3

建築が造形藝術として發展さるゝ過程には、文化の發達に伴つて形式の進化又は新樣式の發生等の起ることは當然である。我が國の神社建築界が如何に原始樣式に固執してゐるとしても、形式の進化は或は抑制し得ても、一方に起る新樣式の創造を止むることは出來ないであらう。然も奈良時代頃から思想界の一角に擡頭した本地垂跡說は、弘仁時代に至つては大成され、神佛融和の思想は一世を風靡したのであつたから、茲に神社建築界に革命の機運の生ずるのは當然の勢であつた。即ち外形的には神宮寺の建立と並んで、寺院境內に鎭守の建立を見、或は神社建築にして瓦葺、彩色使用、曲線應用、寺院建築細部手法採用等々、一見して如何にも樣式的に混頓とした神社建築界を現出した如き觀を呈したのである。

建築史に云ふ所の春日造・八幡造・流れ造・日吉造等の形式は弘仁時代に完成された佛教建築要素を多分に混入した神社建築樣式なのである。然しこれ等神社はたゞ無節操に進步的の佛教建築樣式を禮讚し、無反省にその樣式を採用することを以て足れりとしたものであらうか。神社建築の性格を知る爲めにはこの發生新樣式に對しても考へて見る必要がある。

これ等樣式のうち春日造は彩色、曲線、細部と云ふ僅かの部分を除けば、その構成上の根本樣式は切妻造で、然も妻入りの所謂日本神社の古式を持つものと見ることを得るもので、正面に向拜を附した所は僅かに佛寺式の進步を見せた所とも云ふべく、神社の樣式上の根本性格には何等變更を來して居ないのである。又流れ造としても切妻造り平入りで、正面に向拜を流れとして架してゐるに過ぎず、更に又八幡造も切妻造と流れ造との複

合形式に過ぎず、これ等諸様式は一見如何にも革命的の神社様式の如くに見られるものではあるが、建築様式構成上佛教建築への無節操なる模倣を敢てしたと斷ずることは出來ないと考へられる。

更に日吉造の入母屋造式の屋根形式に至つては如何であらうか。若し日吉造が入母屋造を敢てしたと云ふならば、この形式は上代家型埴輪の形式には見られるとしても、神社の形式としては嘗て見なかつたもので、革命的であつたかも知れない。然し日吉造とても詳細に觀察すれば、單なる入母屋造に非ずして、切妻造妻入り形式の正面と兩側面とに屋根を架して大屋根と續けた形式であることは、その背面の縋破風の手法を見れば一見して明瞭である。當時入母屋造はあつたが、敢てこの形式とした所に意義があるのであつて、余はこの形式をして佛教建築手法混入當初の神社建築界に於ける强力なる反省の所産であると考へ度いのである。

佛教隆盛の天平を過ぎて我が建築界は飛躍的に前進したのであつた。然し神道による神社建築界は舊態依然として舊様式を墨守してゐたが、本地垂跡説によつて神佛融和の思想が擡頭し、聊か自由にはなつたが、神社建築を飛躍せしめて佛教建築と類似のものたらしめるかどうかと云ふことに就ては、日本人的反省が强く働いたと見なければならぬ。この反省が弘仁時代發生新様式の神社建築をして、様式的に大飛躍せしめることを遠慮せしめたものではあるまいか。

基督教が羅馬で公認さるゝや教會堂建築として羅馬の裁判所兼商業取引所たるバジリカを採用し遂にバジリカ式教會堂を完成したのであつた。基督教と神道とでは思想の根底も根本的に異るが、單に宗教的建築として技術的にのみ見ても我が國に於ては佛教建築が技術的に如何に優れたものであるとしても、神社が全的にその様式を採用するものと見ることは出來ないであらう。何故ならば傳統に固執する日本的性格は宗教的信念ともなつて居るからである。それ故技術的に幾分新しい外來様式とまではゆかずとも、手法位は採用するとしても、それを形式的にも在來の神社建築に同化せしめずには置かなかつた。即ち神佛混合初期に於て、神社がその様式の上に乃至は形式の上に大過を犯さなかつたのは、この精神によるものと考へざるを得ないのである。

4

次に桃山時代に發生し、江戸時代に至つて完成され、廟建築或は神社建築として隆盛を極める權現造なる様式は、一見如何にも佛教建築的複雑性を多分に持つものであり、又その多くは壯麗なる裝飾を施して、如何にも佛教的なるを思はしむるものであるから、この様式に就ても一考を煩はす必要があると思ふ。

單純明快なる構造意匠を本旨とする我が神社建築が、佛教建築の手法採用以來、建築の細部手法の豊富になつたことは既に述べた。

そして神社建築も亦造形藝術界の一分野にあるものとして、何時の時代か當然新様式創造のあるべきことをも述べたが、權現造の如きは桃山豪華の文化的要素を多分に混入し、然もその文化を背景として、新しく創造された一神社建築様式なのである。

權現造が上代以來の神社乃至は其後發展した神社建築からの漸進的進化様式でないことは、學界既に定説のある所である。即ち形式的には鎌倉時代の禪宗寺院の開山堂形式の暗示によるものとされてゐるが、事實權現造最初の造營が豊國廟であることから考へても、又當時一世を風靡した豊公の權勢を背景として桃山文化のうちに生れたことから考へても、聊か日本神道精神による他の神社建築と異る性格を持つものであることは明かに考へ得られるのである。かくして發生した權現造は桃山時代から江戸時代にかけて、神社建築として應用されたが、果してたゞ英雄的精神乃至は豪華なる文化相の表現に止つて、何等我が國の神社建築としての性格を持たぬものであらうか。

權現造とは本殿と拜殿とを幣殿（相の間）で連結して、この三者を一構への社殿としたものを指すのである。然しその特徴としては日光東照宮等に見る如く、幣殿の床は石の間と稱され、本殿・拜殿よりは數段低く、地盤と同高で石敷とされてゐるものがあり、又石敷でないものも一般に幣殿の床は低く設けられ、所謂落床と稱さるゝものが

多いことである。

これは云ふまでもなく、本殿と拜殿とを分離した日本神社本來の形式を精神的に表現したものと考へねばならぬ。畏きことながら往古の宮城に於て、清涼殿內の東南隅に石灰壇を設けさせ給ひ、伊勢太廟御禮拜の御座とし給ひしも、同樣の御精神と拜察さるゝのである。

權現造が一見如何にも豪華複雜にして、時代的要素或は佛教的要素のみの如くであり、日本神社本來の精神と異る如くに見ゆるも、茲に一沫の精神的反省を形式的に殘せるものと見るべきで、時代文化の程度から考へれば、前記弘仁時代の日吉造の良心的構成と一脈の相通ずるものがあると見るべきである。

5

現在我國に行はれてゐる神社建築の樣式は、その種類は甚だ多く、到底茲に一々擧げて檢討する暇はないが、要するに前記上代發生の四形式と、更に弘仁時代に大成された佛教建築手法混入の四形式とが基本となつて其後發展し、又時には新樣式創造をも敢て爲し、或は春推造其他の如く地方的の特色をも附加して一樣式を形成してゐるものもあるのである。

上代神社の原始的樣式の傳統が、2600年後の今日まで、同じ生命を持續してゐることは、我が日本の國體にして初めて成し得られたことゝ云はねばならぬ。勿論伊勢神宮其他に行はれてゐる20年目每の造替、即ち、式年造營の儀式の如きは、この傳統保持には大いに役立つたであらう。然し式年造營の意義は傳統樣式保存と云ふことが第一義ではなく、神靈の居住（すまゐ）の清淨さを保つて奉仕する意と解すべきである。

余は本稿を終るに際して一言して置き度いことがある。それは神社建築なるものは、建築造形のうち精神的にも、形式的にも最も特殊な立場にあるものであるが故に、その造營計劃に當つては、最も愼重なる態度を持して、充分神社並びに神社建築の特質的の性格を把握してこそ爲さるべきであつて、單なる技術のみで爲さるべきではなく、更に又單なる經濟・文化等の要素のみから爲さるべきでもないと云ふことである。

（昭和16年4月4日奈良の旅舍にて稿）

土藏は地上に露出した防空壕

昔は大きな城下町では盛んに土藏が奬勵されました、取分け大阪では非常に土藏が造られまして舊市內の居宅には必ず二戶前とか三戶前の土藏がつきものでありました。

完全な土藏の屋根に1キロ位の燒夷彈では貫徹しません。又完全な土藏の壁體は少々の彈の破片には大丈夫です。まして火事に充分持ち耐へます。土藏は地上にこそ露出して居りますが防空壕の役目を務めます、然し近年土藏を無視する傾向がありまして折角の土藏が盛に取り除かれたり傷んでも一向修理されやうとはしません。

此際防空壕を造る心算で大いに土藏を修理して下さい。土藏の柱は濕氣で腐る場合があつて自然床下の壁が內部で落ちて居りますから先づ床下の壁を塗り直して下さい。

土扉が重みで下つて居ります吊り直して下さい。いざ大事だと云ふ時に床下の換氣孔等の密閉扉の目塗の土を日頃から準備しなければなりません。

大阪の素封家鴻池家は大鹽平八郎の亂時居宅は類燒を被つて居りますが書畫、什器の各寶は土藏のおかげで完全に殘りました。

土藏は財產の守り神です。卽刻修理して、敵機の襲來に備へませう。不幸中の大幸にも大空襲の後で土藏が燒け殘つても直ぐ開けたら折角燒け殘りの土藏にも火の入る事があります。開ける時期は必ず專門家の指導を待つて下さい。

防空は先づ大切な土藏の修理から

鳥　　居

藤　島　亥　治　郎*

鳥居は神社の象徴である。神籬の様に社殿の無い神社にあつても鳥居の無い神社は絶えて無い。

ゆくりなく野に丘に鬱蒼たる木叢の蔭に白木の鳥居を拝するとき、直ちに神社の存在が氣附かれて思はず襟を正すのである。

元來、神社建築そのものが神社といふ形式に象徴化されて居る。如何に大社造が、神明造が、そのかみの祖神の宮居の俤を止めるとは云へ、それは宮居そのまゝの形ではない。整ひ過ぎた千木に對して餘りに太く大きく、その儘では棟の押へとしては安定を缺くかの感のある葛緒木の如きはそのまゝに古代住居に用ゐられたと思はれぬ。

かくして、古代住居の神格的象徴化が社殿なら鳥居は象徴化の中でもその最たるものと見ねばならぬ。あのまゝの姿で宮居の前に立つものとも見え難い。

たゞ、鳥居の形式が素朴であればあるだけ古い時代の俤には近づいて行く。明神鳥居よりも神明鳥居が、その中でも所謂靖國鳥居が、それよりも尚ほ京都野の宮にある様な黒木の鳥居がそのかみの眞の姿に近いものであることを思はせる。

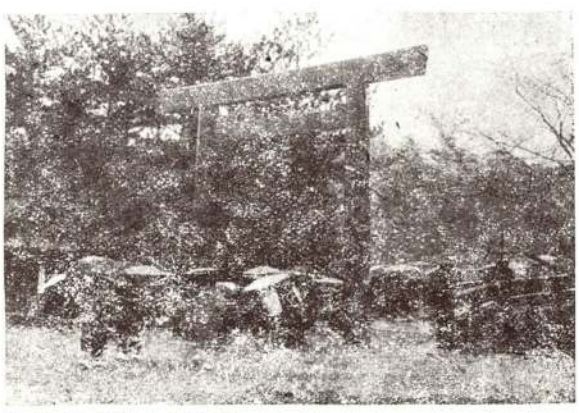
その結果は原始素朴な門の形に近づく。滿洲國吉林附近の民家の門に鳥居と酷似したものがあると云つてその關係を考へるにも當らない。門ならば人類共通の考で滿洲族でなくとも何處ででもこんな形になり得る。

屋敷地まはりに垣を結ひ、その出入口は開けておくと、垣のしまりを着ける爲に左右に二本の柱が欲しくなる。柱二本では傾圮倒壞の惧れがあるからその上に横木を渡す。しかし尚ほ柱が斜になることを防ぐ爲には横木の下に貫を通す。これで鳥居の原形は出來て了ふ。

だから鳥居は神社の門である。神門と呼ぶことすらあるのである。門扉が無いのがいぶかしいだけであるが、伊勢神宮の鳥居門や三輪の鳥居の如きには扉もあり垣もある。ふつうの鳥居でも賀茂の社の鳥居の様に左右に低い垣を結ふものも多い。

鳥居の數を重ねれば神に對する鄭重さを增すことにもなる。一の鳥居・二の鳥居、三の鳥居などと呼ばれるが、これにそれぞれ垣があつたとすると三重に垣を結ひ繞らすことゝなる。こゝに「出雲八重垣」の御歌の如く、高貴な住宅には幾重にも垣を繞らせた事が首肯せられる。上代の古墳に埴輪を二重三重に繞らせたり、周濠を二重三重に穿つのと同じ觀念の下になされる。

此の上代住居の垣や門の様が鳥居として神社にのみ形式的にあれ殘されたのは我が神社觀念の尊さの一つである。けれどもその形式化は漸次強くなつた。上代の門ならば靖國鳥居の様は總て丸太造の掘立柱であるべきだが、それが伊勢鳥居となると斷面五角の笠木や矩形の貫となつて前よりは進んだ門の形式となる。この貫の端は柱を貫いて兩端に飛び出すこともあらうが、それが形式が整ふと鹿島鳥居となる。やがて神社の扁額を上げる爲の額束が出來る。次いで垣の類も省略せられて鳥居だけが孤立して立つことになると不安定な姿となるので、それに安定感を附けようとして柱に轅びが附けられて、茲に八幡鳥居が出來る。やがて大陸建築に基く新らしい感覺を入れて笠木が反



伊勢内宮一の鳥居

*工學博士・東京帝大教授



日吉神社の鳥居

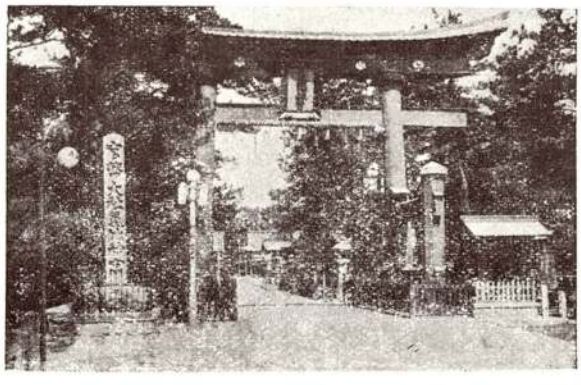
り上つたり、柱の保存上礎石を入れたりした明神鳥居が生じ、なほ保存上、春日鳥居の様に朱塗美はしく杉の樹の間にうかがはれるものが出來たりする。

これらに於て形の整正や材料の精撰が伴つてこゝに鳥居としての基本形式が完成する。世に明神鳥居が最も行はれ、八幡鳥居がこれに次ぐのも鳥居としての最も發達した美しいものなるが爲である。近來は神社建築の本源に歸りその最も純正なものを採らうとして神明造が盛行する爲に神明鳥居の多くが建てられる傾向を生じ、それに伴つて神明鳥居も亦流行する傾向にある。その簡素にして莊嚴な姿が現代人の氣持にもぴつたりと當て嵌まるのである。

爾餘の鳥居形式は特例と見て差支へもあるまい。それらを分類するに、先づ從來の形式にあき足らずして何等かの新奇を求めたもの、何等かの理由で異形式を採つたものなどがあらうが、その多くは本地垂迹說に起因するものが多い様である。その中でも嚴島神社の大鳥居の様に柱の前後に控柱と控貫とを備へた兩部鳥居は意匠の多様性に成功し、且つ構造を強固にした點で最も見るべきであり、その爲であらうか全國に此の形式の汎用を見るのである。しかし、その他の鳥居形式は各社に特別な兩部習合の結果生じたものが多い爲に普遍的なものにならない。明神鳥居の左右に半鳥居狀のものを配した三輪鳥居の様なもの、三本の柱を三方に配して三方正面の中山鳥居の組み合はせの様にした京都太秦蠶の社の鳥居などから佛寺的の特色をどこかに加へたもの、例へば、近江の日吉神社に特有の山王鳥居が上に千鳥形を上げ、京都御所外苑出雲の社の鳥居の笠木を唐破風形とし、京都北野神社境内末社の鳥居の礎石に蓮花を刻むなど、それぞれに意匠賑に、またそれぞれに纏つた形をしたものである。

これを用材の上から見ても勿論木造が本來のものであるべきであるのに、腐朽倒壞の惶れからこれを朱塗とする事が先づ始められ、平安末代頃からは石を、江戸初期頃からは銅や青銅の金屬を、又、陶器を、そして近年からは鐵筋コンクリートをもこれに適用するに至つたが、やはり神々しさは木造に越した事はない。

此の様にして、そのかみの門の意味であつたらうものが形式化し様式化して鳥居と云ふ象徵的なものとなつた。既に神社に不可缺の存在であり、その様式もみだりに改むべきでない。しかし、一歩退いて見るに、鳥居ほどに不思議な構築はあるまい。二本の柱の上に太い笠木が渡るのである。構架式の一部模型の感がある。乃至は破壞したギリシヤ神殿の殘存部と同じ構造とも云へようか。ギリシヤなら兎も角、地震國なる日本にこの様な構造が何等の疑義もなしに公然と行はれてゐるのは一見不可解である。殊に石鳥居で笠木が中間で繼がれて造られてゐるものゝ如きは構造上何としても看過し得ない。現に關東大地震では鎌倉鶴ヶ岡八幡一の鳥居を始めとして倒壞したもの數を知らず、近くは湊川神社の鳥居の笠木が落ちた。又積雪地方では笠木の上に雪が數尺も積つたところで陽光に當ると南側が解けて北側に重心が移る爲に笠木がころりと轉落するさうである。これら構



氣比神宮の鳥居

造上の不合理は改められねばならない。危險な構造なら全國的に禁止又は改正せしむべきである。

こゝに於て兩部鳥居の如きが改めて顧みられる。この鳥居だけが鳥居が前後に倒壞せんとする傾向を防止する。意匠も秀抜であり、これを推奬するに躊躇しない。但し決してこの樣式のみによるべしと云ふのでなく、あくまで傳統を尊重しながら此の樣に構造上の考慮があつてしかも美しい鳥居を昭和の鳥居として創造せよと云ふのである。

今一つ申したい事は徒に大きを誇る近來の惡傾向を排したい事である。嚴島神社の大鳥居が高さ53.3尺なのはあの横に延びた社殿としてふさはしからう。平安神宮の大鳥居が76尺として誇るのは感心しないが、社殿から遠く距つてゐるから强ちに不調和でもない。しかし、何れその中に神域の大擴張が行はれるであらうし、神社に關する事柄を批判し奉るのも恐れ多いが、靖國神社の高さ50尺の二の鳥居が殺風景な參道に立ちはだかつた儘なのは優れた考案と申し兼ねる。しかし、これらは總じて規模の廣大な神宮乃至神社であるから大體に於いて適合はしてゐる。けれども鄉社や村社で社殿は小ぢんまりしてゐるのにその直前に少しもこれと調和しない大袈裟な鳥居が建つたり、又、質素な社殿なのに壯麗な石鳥居を建てたりするのを甚だ屢々見掛けるのは、却つて神德を汚し奉ると批評する他はない。門構へだけいやに立派で本宅のみすぼらしい住宅を見て嫌惡の情を催さぬ人はあらうか。比諭するは失禮乍らそれに類するものであるまいか。これは要するに神官と氏子達とのつまらない虚榮心から來たものに他ならぬ。大いに戒しむべきである。

最後に國寶に指定せられた古い鳥居を參考までに列記しよう。

大阪市四天王寺西門前石鳥居
永仁年中（鎌倉時代）
福岡縣英彥神社銅製大鳥居
慶長　（桃山時代）
栃木縣日光東照宮青銅鳥居
元和四年（江戸初期）
同　表門前石鳥居
元和四年（　同　）
福井縣敦賀市氣比神宮一の鳥居（石）
正保二年（　同　）
京都市八坂神社一の鳥居（石）
正保年中（　同　）
神奈川縣鎌倉町鶴岡八幡宮一の鳥居（石）
寛文八年（　同　）
廣島縣嚴島神社大鳥居（木）
明治八年（　同　）

（川勝政太郎氏原稿 28頁より續く）いても四角型が多い。

× × ×

以上、神社の石燈籠についての二三の問題を考へて見た次第であるが、此等の結果、私は改めて奈良春日神社の石燈籠こそ、我が神社の石燈籠といふものゝ、全くよき記念遺物であることを痛感するものである。（昭和16年5月）

（伊藤文四郎氏原稿 32頁より續く）を綠化する計畫なるを以て其完成の曉は莊嚴なる威容を整備する事を得て以て牡丹江在住者多衆の敬神の念を著く增さしむる事に資する處が尠からず生ずるものと信ぜらるゝのである。更に五族協和を以て進みつつある滿洲の地に於て是をリードする日本民族の精神的向上の對照を如實に示す上よりも、斯る神域を設定して各異民族をして自ら襟を正さしむるのは民族指導の上よりも寔に大切の次第である。此神社建設に喜捨せし滿人の額が旬日を出でずして數萬圓に達したるの事實は何者にも譬へがたき程の彼等の吾政治に對する理解と又滿悅の情が明かに示されてある證左である。斯る見地より考ふるも吾殖民統制上神社の建設は實に一日も忽諸に附べからざる緊要事であると痛感したる次第である。

神　社　建　築　雜　考

井　上　一　雄*

緒

祈るためには物的對照が必要である、その對照物が莊重であればあるだけ祈る心が敬虔になつて行く……

こゝに吾々祖先がその祖先を崇拜の對照とせんとして神社建築が生れたのである。

何の飾り氣もない素木造りの社殿は深遠な森に築き立てられ、その中から心からなる祈りの聲が靜寂を破る相手の響が神秘の音を立て、上代精神を其儘に傳へ來たつたのである、こうした神社建築も國家社會文化の進歩と伴に各時代の趣味、風俗、人情を巧に取入れ直線的構成より曲線的構成へと變遷して來たのであるが太古より德川末期に到る迄は主として人文の進むに連れた謂ゆる自然的に發達したものである。

けだし神社崇拜の思想上の根本的原因は破壞せられず又簡素端麗の風格をも損ぜられずに來たのである。

然るに近世は西洋の文化の進むに隨ひ國粹美術を保持し得ず自から建築樣式のみならず。その使用目的方法を變革の餘儀なきにせられつゝあるのである。

それは近來の神社建築はあまりにも美しく洗練せられ過ぎ、或物は誇張的であり、或物は飛躍的である事の一言につきる。

何かしら祈りの物的對照が形骸的になつて人の心から離れて行く樣に思はれる。

神社建築の古制の持つ形式は傳統的に發展し進化し現在迄傳はつて來たのである。

今後まつたく新しい形式が考へられるであらうか？

例へば.

1. コンクリート造りの平屋根の樣なもの
2. 高層建築物に化含された
3. 社殿を一屬とした樣なもの

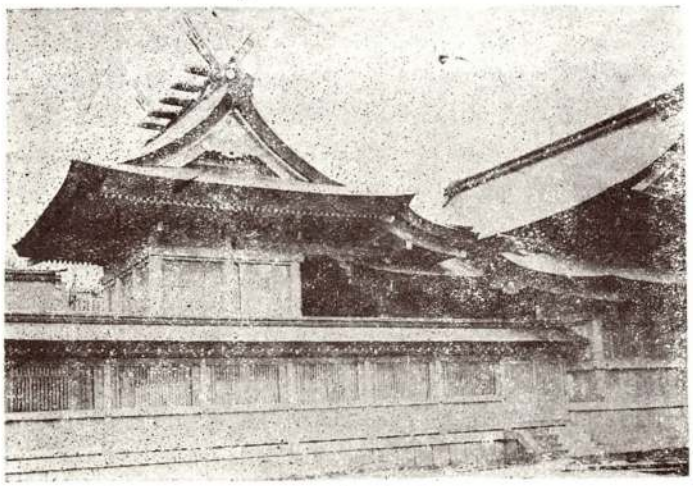
（教會、寺院建築の如く）

原始時代は巨石巨木等の崇拜が盛んであり今尙こうした祭祀の所もあり特に樹木は崇重畏敬の意を表するために注連を引き柵を設け御神體又は御神符と稱せらるゝ物が多いのである例へば稻荷の杉、香椎の綾杉、熊野の竹柏、伊豆山の椰、太宰府の梅、日吉の桂、彌彦の椎、春日の杉など顯著なものもあり、古代の自然物に對する崇拜觀念を表現して居る。こゝに還元すれば古代に還つた新しい建築樣式又は全く新しい神社建築樣式も一應は考へられる樣に思はれる、然し歷史は神社建築の發展を順序よく示して居る、……

木造建築の形式は何時迄續いて行くか？今や事變下嚴として輝く、千木勝男木の下にも空襲は免がれぬであろう。まして市街地に立つ純木造建築の粹を集めた神社の構成は總ての災害に不利である。即ち地震に然り火災に然り、暴風雨に然り、空襲に然り、不適當とされた今日

疑問は續いて行く……

洗練發達の極知はやがて沒落であ



現代式本殿

*井上建築事務所々長

る、形のみ捉はれても又破滅の基である、されば神社の根本精神に還る事に依つて又新しい前途が生れ出づるかも解らない。

千古不滅な世界に稀な程高次であり、眞の建築精神に生きて來た日本人が、眞に時代に即應し日本精神に立脚した樣式を求めて止まない次第である。

神社建築の配置に就て

神社の平面はは甚だ多種多樣であり、それぞれ特殊の目的のために計畫せられ、中には歷史的存在として單に保存せられて居るものもある、又同一性質の建物で地方別神社別に依り名稱を異にする場合もあるが。

之を大別すると

1. 祭禮鎭座のための建設物
   本殿、垣、鳥居、門等
2. 祭祀參拜のための建設物
   拜殿、幣殿、祝詞舍、神饌所、舞殿、手水舍等
3. 奉仕的經營のための建築物
   社務所、參籠所、儀式殿、氏子集會所、寶物殿等

の三部に區分出來る

この外に神輿舍、神器庫等の倉庫等がある以上の諸建築の內現在の神社として必要なものは本殿、本殿周圍の垣、門、鳥居、拜殿、神饌所、手水舍、社務所の七種の建建物である。實際に於ては勿論神社に從つて夫々の事情もあり、規模小なる神社にては本殿のみあつて他を缺き中には本殿すらなく山川樹木等の自然物を神靈の御在處として齋き祀る神社もある。規模大なる神社にても官幣大社大神神社官幣大社諏訪神社（上社）官幣中社金讚神社等の如く本殿建築のない例もある、然し大體は本殿を備へ如上の建築物を必要とするも名稱の上では七種の建築物を完備するとは限らないのである、その各建物の配置を見るに既に建物の性質が神社に依つて複雜多岐であり、また祭式行事も異にする以上配置に於ても劃一的たるを得ず、強いて分類すれば數種の系統の更に錯雜複綜したものである。

その內比較的明較なる例を擧ぐれば大神宮の神明造りなる各社殿の配置、宇佐神宮其他の八幡宮或は日吉神社等である。

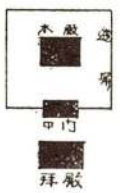
圖1. 石淸水八幡宮或は日吉神社
圖2. 尾張に於ける各社の例
　　眞淸田神社を代表とする
圖3. 京都附近各社の例（所謂制限圖式配置）



第1圖・石淸水八幡宮



第2圖・眞淸田神社



第3圖・制限圖式



第4圖・鹿島神社

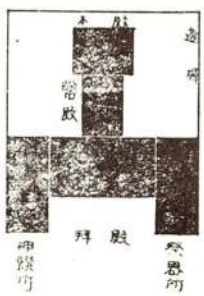


第5圖・日光東照宮





第6圖・近代的



第7圖・護國神社等

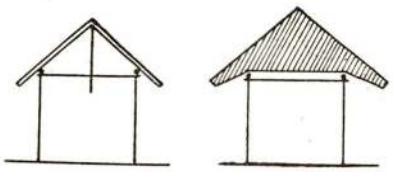


圖4. 霧島神宮等の九洲南部地方の例
圖5. 東照宮等の權現造り風社殿配置
圖6. 近代式社殿
圖7. 近代護國神社等

但し主要建築部が本殿を起點として恒に正面前方に建て竝び本殿背後に塀門及び廊等を除き社殿らしきものゝ存せぬ事で即ち本殿中央の正中線と本殿を原點とする方向指示性の上に諸原則が建てられて居る。

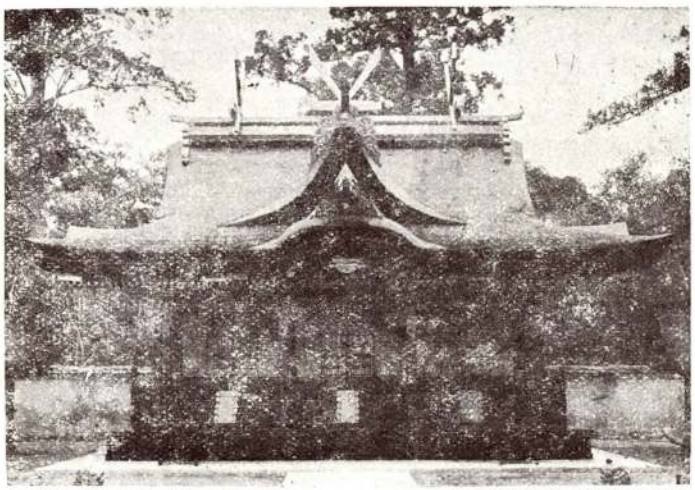
こうした名稱の上に於て樣式の上に於て多種複雜な神社建築も、文獻は兎も角として形體の遺構より見る時は美術學的にも技術學的にもその發達は驚くばかりである。原始時代小屋組は作らず化粧棰を以つて直ちに屋根を支承して居り天井も屋根の形に沿ふて中央が高く、山形をなして居たものが平安期以後となると軒棰は本當の化粧棰となり、二軒三軒となり小屋組はその上に設けられ二重架構となつて來たのである。

前者を單架構（圖1）後者を複架構（圖2）と稱する事が出來天井すら張られて來たのである。その細部の手法に到つては各時代毎に目ぐるしき迄に發展したのである、こゝにその一つ一つの說明を附する事は出來ないが、總して、古代建築の形體は左記の七つの部門に分類出來得ると考へらる。

1.基礎部（基壇、基石等を云ふ）
2.床部（椽廻り、床組等を云ふ）
3.軸部（柱、貫、拱組、虹梁で組成する建物の主要部を云ふ）
4.軒部、軒桁より軒先までの部分
5.屋蓋部、屋根、小屋組等を云ふ
6.造作部、戸。障子、壁、窓並に細部等
7.細部、繪樣彫刻、刳形、彩色、瓦、金具等

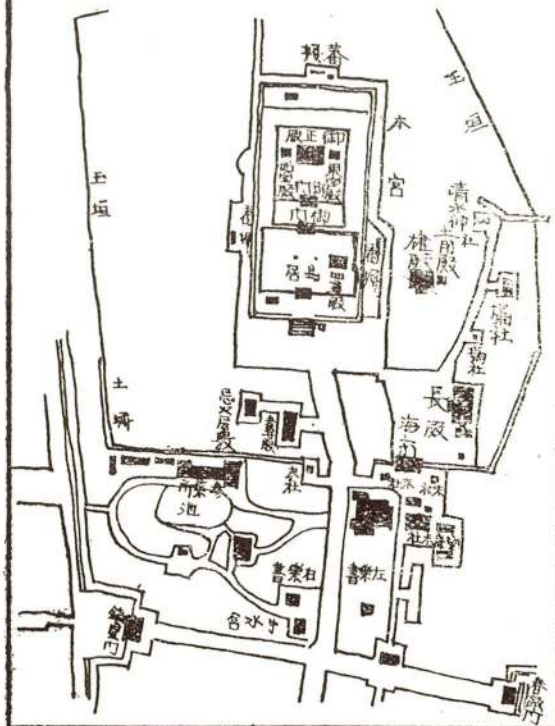
こうした部門を古建築遺構の個々に亘り精密に調査すれば、直ちに地方文化の程度は勿論、各地方各時代に於ける趣味を窺知し、また其構造法及び裝飾法の巧拙精粗如何によつて夫々の世相を推測する事は至難でないと思ふ。それと共に各神社の配置狀態より、祭禮行事土地の慣習等を知り日本文化の足取りを調査する事も出來るし今後新しく生れ出づる神社建築によりよく日本的になさねばならぬ事は社寺建築關係者の與へられた責務であるが殘された立派な建築物に基づかなければならぬ事は言を俟たざる事實である。

圖1. 官幣大社、熱田神宮、神明造、名古屋市
2. 官幣大社、石上神宮、流し造、奈良縣
3. 官幣大社、生國魂神社、流し造り（異例）香椎造り、大阪市
4. 官幣大社、伊弉諾神社、流し造り　兵庫縣
5. 官幣大社、出雲大社、大社造り、島根縣
6. 官幣中社、嚴島神社、丙流し造り、都理造りに屬す、廣島縣
7. 官幣大社、宇佐神宮、八幡造、大分縣
8. 官幣大社、鵜戸神宮、權現造、宮崎縣
9. 官幣大社、大鳥神社、大鳥造、大阪府
10. 官幣大社、春日神社、春日造、奈良市
11. 官幣中社、金鑽神社、無生殿、埼玉縣
12. 官幣中社、北野神社、入棟造り、石之間造京都市
13. 官幣大社、熊野坐神社、王子造り、和歌山市

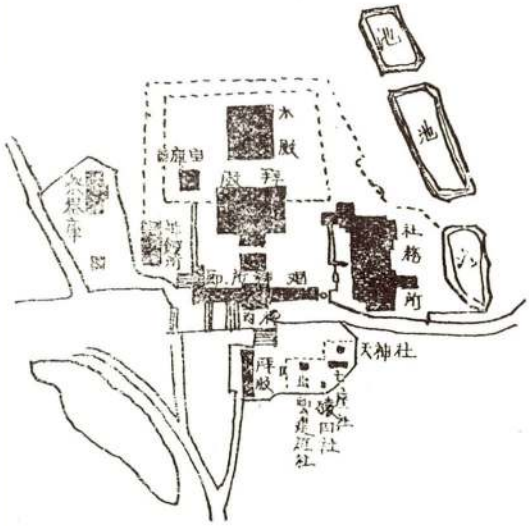

古代の本殿

（以下11行34頁へ續く）

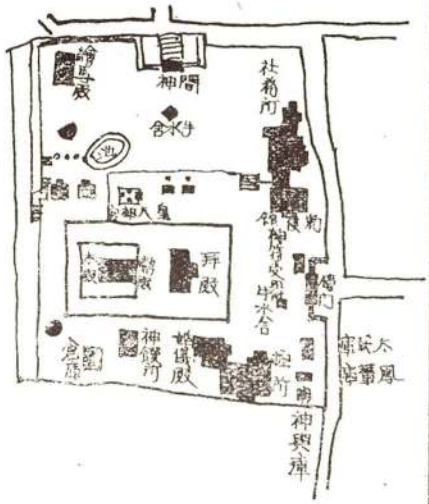
第1圖



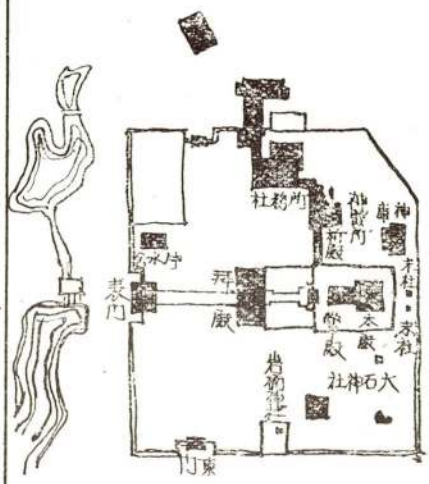
第2圖



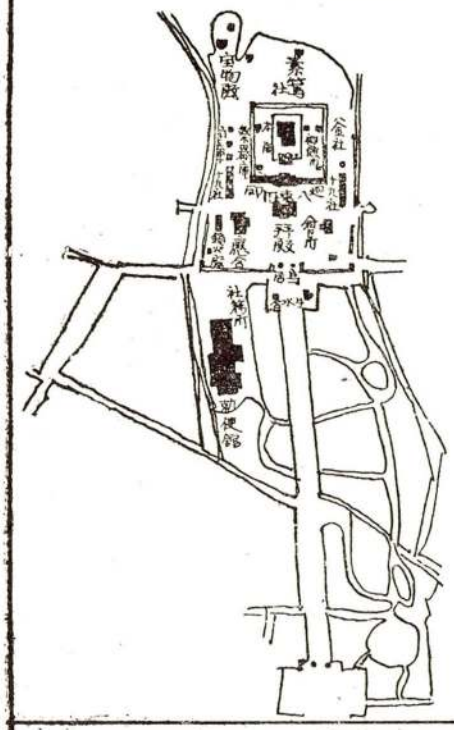
第3圖



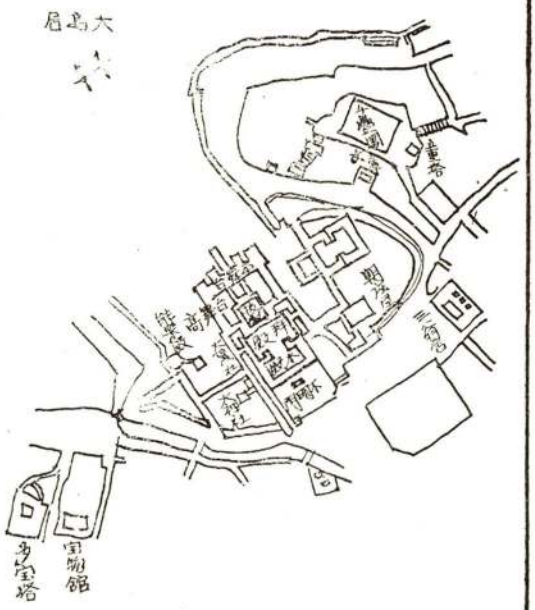
第4圖



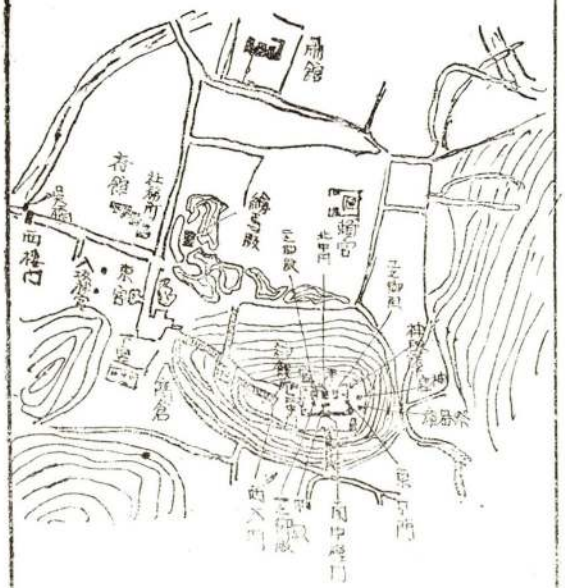
第5圖



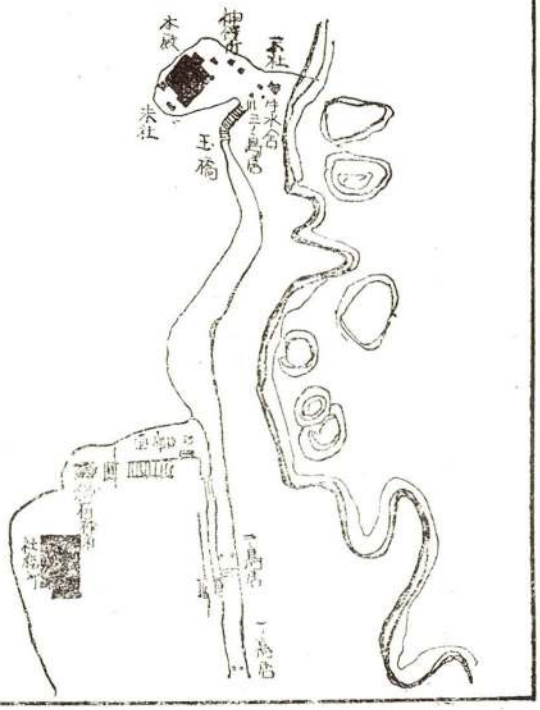
第6圖



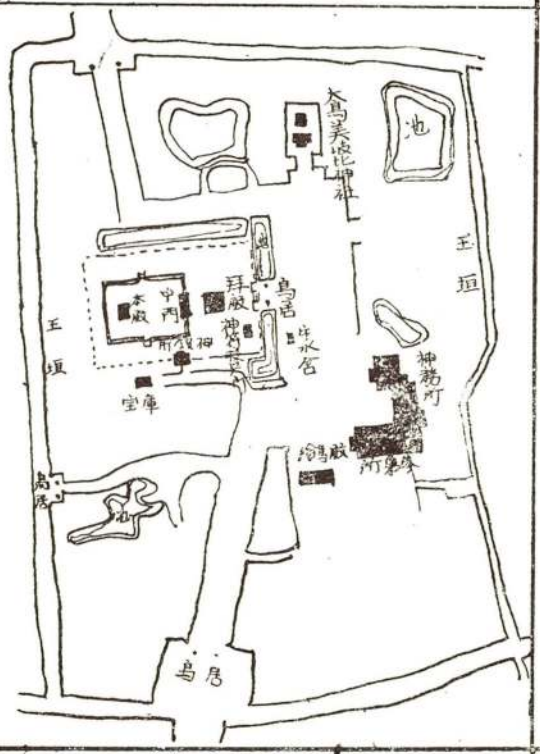
第7圖



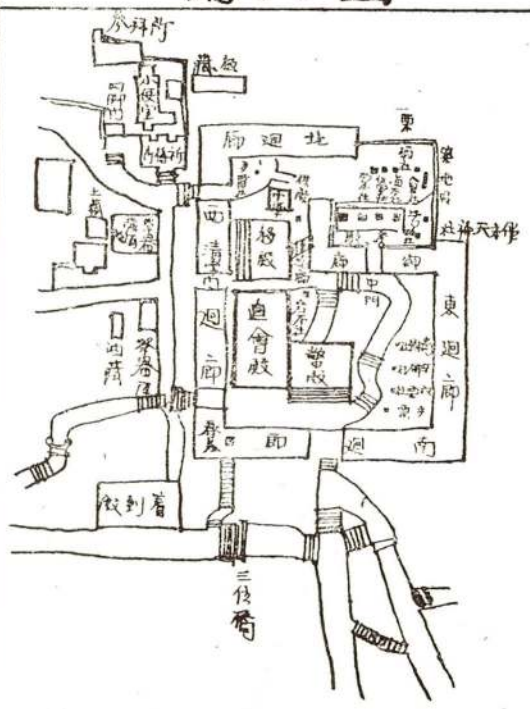
第8圖



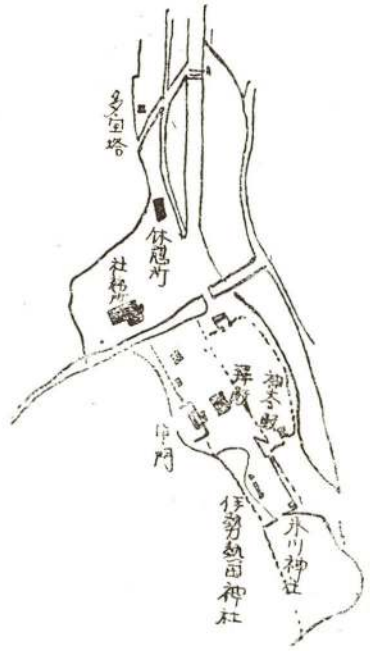
第9圖



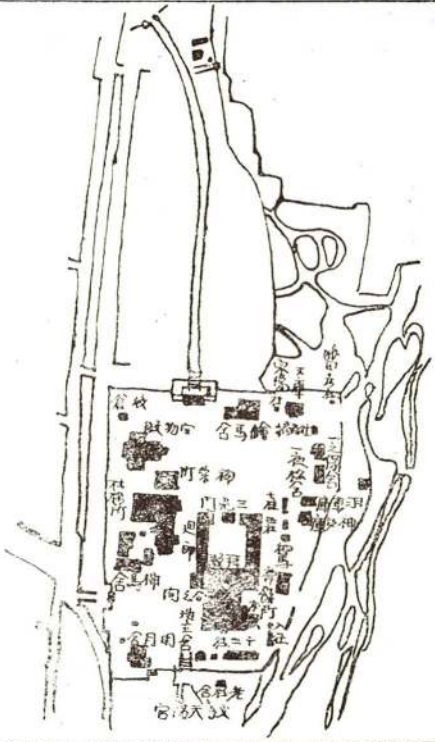
第10圖



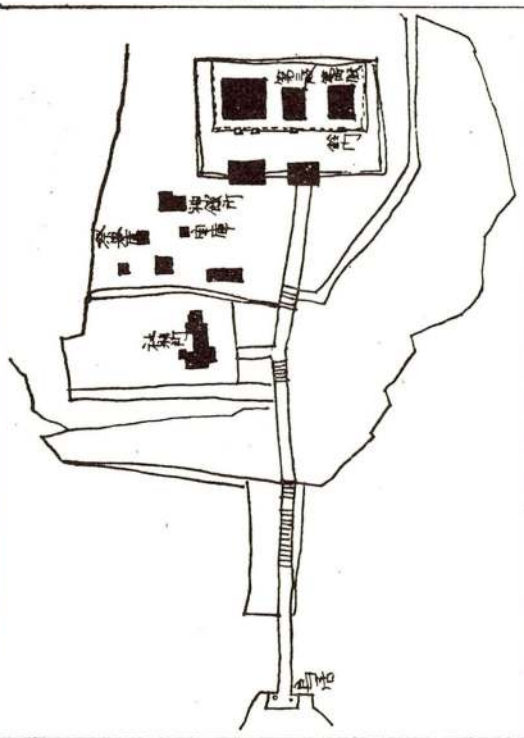
第11圖



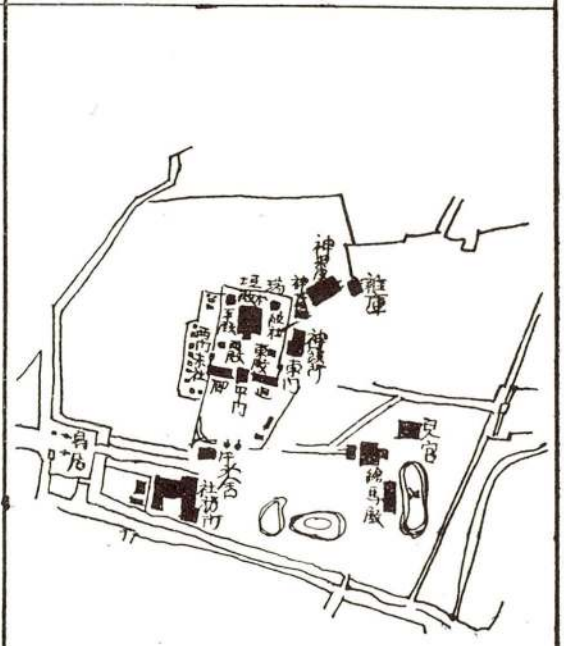
第12圖



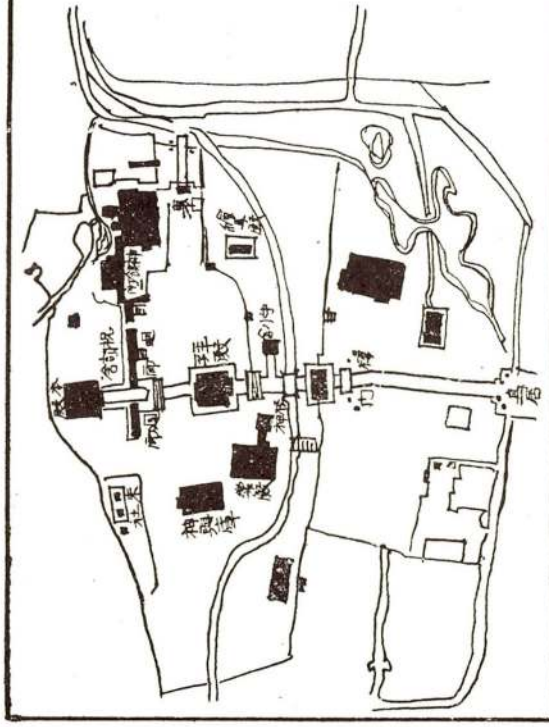
第13圖



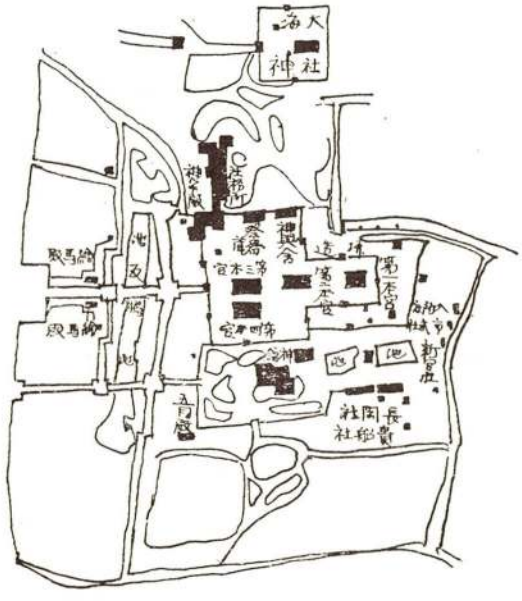
第14圖



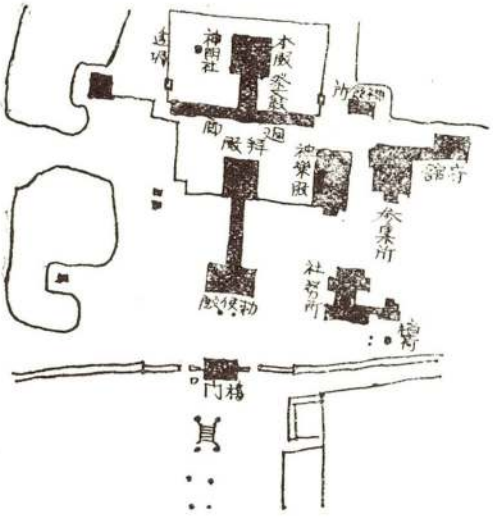
第15圖



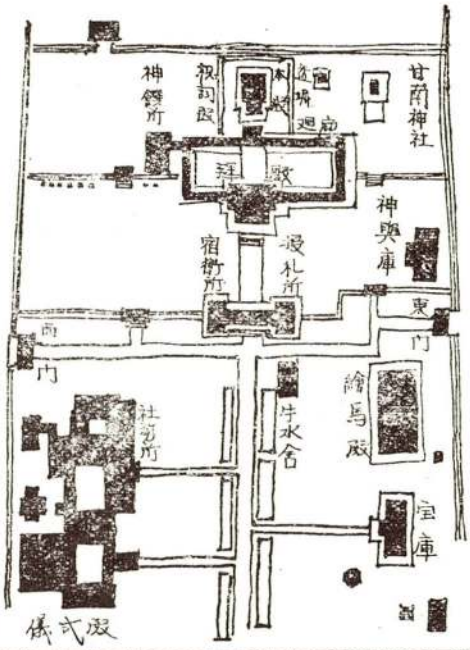
第16圖



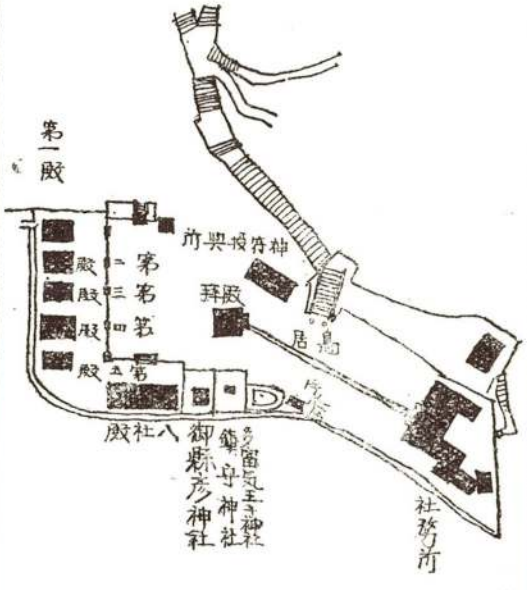
第17圖



第18圖



第19圖



第20圖



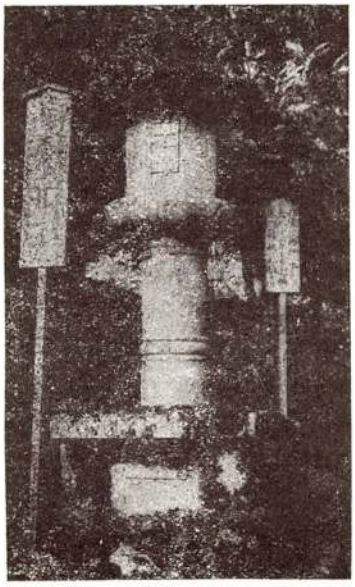
神社と石燈籠

川勝政太郎*

神社建築に關する特輯のために標題の如き原稿を需められた。今日、各神社に存する石燈籠といふものを考へて、その源流や文化史的な意義を究明することは必要なことではあるが、又しなければならぬことではあるが、誠に難しい問題である。私はさうした研究の前提といふ意味に於いて、少し考へてゐるところを述べ以て責を塞ぎたいと思ふ。

一　今在る神社の石燈籠

現在私どもが知つてゐる神社の石燈籠として最も古いものは、奈良市の官幣大社春日神社の若宮社の南方にある俗に柚ノ木燈籠と呼ばれるものである。今立つてゐる場所が建設當初の位置であるかどうかは判然しない。しかし、この石燈籠は平安時代後期のものと推定されるものであるから、恐らく最初は本社ではなかつたかも知れぬけれども、何社かの社前に建ち獻燈の用に供されてゐたものと考へることが出來る。

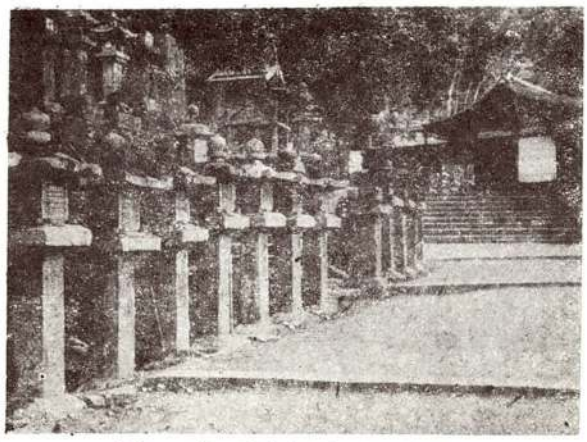


奈良・春日神社柚ノ木石燈籠

このやうに古い石燈籠のあるのは春日神社のこれだけで、他の神社には未だ發見されてゐない。だが、次の鎌倉時代以後になると方々の神社に見出される。私の見聞せる例を擧げると次の如きである。

土師神社　康元2年、六角型、大阪府南河内郡道明寺村
丹生川上神社　(中社)弘長年間、六角型、奈良縣吉野郡小川村
建部神社　文化7年、六角型、滋賀縣栗太郡瀬田町
長田神社　弘安9年、六角型、神戸市林田區長田町
三大神社　正應4年、六角型、滋賀縣栗田郡常盤村
石清水八幡宮　永仁3年、六角型、京都府綴喜郡八幡町
白山神社　正安4年、六角型、岐阜縣郡上郡北濃村
大宮賣神社　徳治2年、八角型、京都府中郡周枳村
同　社　無銘、八角型、同上
春日神社　延慶2年、六角型、大阪府三島郡春日村
河桁御河邊神社　延慶4年、六角型、滋賀縣神崎郡御園村
高木神社　正和年間、六角型、滋賀縣蒲生郡朝日野村
春日神社　元亨3年、四角型、奈良市雜司町
長緒神社　嘉曆年間、六角形、滋賀縣蒲生郡市邊村
談山神社　元徳3年、六角型、奈良縣磯城郡多武峰村
長鳥神社　元弘3年、六角型、滋賀縣野洲郡篠原村
三所神社　建武4年、八角型、滋賀縣蒲生郡市邊村
竹田神社　貞和2年、六角型、滋賀縣蒲生郡朝日野村
祇園神社　貞和4年、六角型、滋賀縣蒲生

*石造美術研究家



奈良・春日神社の四角型石燈籠群

郡比都佐村

宮崎宮　觀應元年、六角型、福岡縣糟屋郡箱崎町

春日神社　正平8年、四角型、三重縣名賀郡錦生村

住吉神社　文和4年、六角型、兵庫縣明石郡魚住村

八王子社　貞治4年、六角型、滋賀郡甲賀郡岩根村

日部神社　正平24年、四角型、大阪府泉北郡福泉町

東大谷日女神社　永和元年、四角型、奈良縣磯城郡阿倍村

天神社　永和元年、四角型、大阪府豐能郡秦野村

八幡神社　永和4年、八角型、京都府與謝郡市場村

春日神社　康曆2年、四角型、奈良市雜司町

御靈神社　弘和2年、四角型、奈良縣宇智郡宇智村

北野神社　無銘、六角型、京都市上京區馬喰町

八阪神社　無銘、六角型、京都市東山區祇園町

天滿神社　無銘、八角型、京都府與謝郡加悅町

關蟬丸神社　無銘、六角型、大津市清水町

稻荷神社　銘文磨滅、八解型、京都市伏見區深草藪內町

鏡神社　無銘、六角型、滋賀縣蒲生郡鏡山村

諸木神社　無銘、六角型、滋賀縣蒲生郡西櫻谷村

以上の如きが鎌倉様式のもので、實年代としては吉野朝のも含んでゐる。この內、土師神社のはもと天地院なる寺のもの、筥崎宮のは山城八幡大乘院といふ寺のもの、八王子社のは菩提寺なる寺のものであつたことが知られるので神社の石燈籠からは省かねばならぬし、この他にも當初からその神社のものであつたかどうか不明であるものがある。

今、鎌倉時代の石燈籠として私の知つてゐるものは約九十基あるが、その中の三分ノ一の約三十基が神社のもので、三分ノ二が寺のものと見て大體差支へないやうに思はれる。

二　佛寺から神社へ

石燈籠は神社固有のものであつたかどうかといふことになると、遺憾ながら否と答へなければならない。

燈籠のはじめは佛教の傳來に伴つて朝鮮から入つて來たものと考へられる。そして佛寺では本尊に對する獻燈として堂前の正面に一基を立てたのであつた。從つて、古い石燈籠は一寺に一基あれば十分であつたが、時には主要な堂塔前にそれぞれ立てたこともあるので、二三基もあつた所があつたと思はれる。

神社の石燈籠はこの佛寺の風が移植されたものに他ならない。そして、その時代は多分平安時代に入つてからであらうと考へられてゐる。このことは我國古來の神社建築が一方では固有のまゝ保存されつゝ、又一方に於いて佛寺建築の影響を受けて發達して行つたのと思ひ合はせるべきである。昔の人は大きく物を考へたといふか、佛寺は外來のものであるが、それを日本化して消化した。同時に我國固有のものと融合せしめて行つた。何事によらずこれが日本人の特質であつた。日本文化は對かる立場に於いて形成されて來たのであつて、神社のみが獨り無關係であるわけはなかつた。神佛混淆といひ、本地垂迹といひ、これは日本的な思想の反映であつたのである。石燈籠

が寺から神社へとその使用領域を廣められたのもそのあらはれに他ならぬのである。

佛寺建築の影響の最も顯著な神社建築として、奈良春日神社が擧げられる。樓門、廻廊を造設したのもその現はれであつた。それは平安時代に入つてからか、その前後に夥くなつたと考へられてゐる。石燈籠も此の機運に乘つて神社に入つて行つたのであらうと考へるのである。前述べた春日神社の抽ノ木燈籠は或る意味に於いてそれを說明するものゝやうである。

そして神社に取り入れられた石燈籠は、やはり神に對する獻燈として社殿の正面に一基だけ建てられたのであつた。

三　夥しき獻燈

今日では石燈籠は一對のものと考へられてゐるが、古くは一基のみであつたこと前記の如くである。これを一對とし出したのは、ずつと新しく大體室町時代の末から桃山時代のはじめへかけの頃からである。私の今知つてゐるのでは、山城乙訓郡大山崎の寶積寺三重塔前の天正12年のが一番古い例である。

ところが、奈良春日神社には非常に澤山の古い石燈籠がある。桃山時代以前のものだけが三百七十基ばかりある。又、山城八幡の石清水八幡宮もこれには及ばぬが桃山時代以前の石燈籠が三十五基ある。春日神社に比べると十分の一で問題にならぬやうであるが、これを佛寺の場合に比べると注意すべき數である。といふのは、寺で桃山時代以前の石燈籠を十基以上持つてゐるのは一つもないからである。多くて二三基が頂上である。又、時代を降して考へて見ても、石燈籠の數の多いのは佛寺よりは神社である。大阪市の住吉神社、京都の八阪神社、北野神社など多數の石燈籠がある。そんなに澤山の石燈籠をもつ寺は殆んどないと言つてもいゝ位である。寧ろ寺よりは大名の廟に家臣等から奉獻されたものが澤山ある程である。

このやうに神社は石燈籠を夥しく奉獻するやうになつたのは、室町時代以降のことであるが、神社の石燈籠について語るには、この特質を重視すべきであらうと思ふ。

しからば何故かくも多くの石燈籠が寺よりは神社へ奉獻されたのであらうか。無論、これは祈願のためで、當時の一般國民は佛よりも神に祈願を籠めることが多かつたといふ結果になるのである。かの平安時代に貴族を引きつけ、鎌倉時代に民庶をかち獲た佛教は、やがて此の室町頃にはその勢力に衰頽を來たしたものであることが、この石燈籠によつても考へられるやうである。神社に對する國民の信仰の深まり行つたことが、こゝに窺はれる。

四　新しき型

最も古い頃の石燈籠は八角型であつたが、鎌倉時代に入ると六角型が出來た。佛寺は勿論神社でも、鎌倉時代には六角か八角の型のものが普通に造られた。ところで、こゝに注目に値するのは鎌倉時代末期頃から四角型と私どもの稱する新しい型が發生したことである。それが鎌倉時代石燈籠全體の三分ノ一しか占めない神社の石燈籠中に四角型七基を數へ、三分ノ二に當る佛寺の分に四角型三基に過ぎぬのは興味ある現象である。

このやうに率に於いて四角型が神社に於いて斷然多いといふことは、四角型なる新しい型は神社の燈籠として、從來の佛寺のものに對抗して生れたものであらうと想像せしめるのである。實際、四角型の直截的な簡明さは神社に相應しい新型式と言ひ得るであらう。無論、新型はすぐ眞似られるものであるから、寺の方でもそれを採用したのであるが、私はそのもとは神社に在り、恐らく奈良春日神社がそれを作り出したものであらうと考へてゐる。四角型の一番古い例として、繪畫ではあるが、延慶2年の奥書ある御物春日驗記繪卷に四角型の描かれてゐるのを擧げ得るから、私のこの考へは妥當なものと思つてゐる。春日神社に於いて、この四角型のを春日型なる名で呼ばれてゐるのも、この場合參考となるであらう。

斯の如く四角型の創作といふことも、神社の石燈籠に於ける特性として擧げ得る。これと前述の神社に對する夥しき奉獻とが結付いて、室町時代以降に於ける春日神社の驚くべき多數の石燈籠は四角型の群立となつて、今私どもの眼前に展開するのである。石清水八幡宮に於 （17頁へ續く）

軍艦「沖の島」神殿に就いて

藤島亥治郎*

我が海軍の新鋭巡洋驅逐艦「沖の島」は昭和○年進水、翌年○月艤装を完了、現在は國防の第一線に立つて華々しく活躍して居る事であらう。

昭和○年春、時の艤装長（後の艦長、現在は更に要職にあり）海軍大佐佐藤波藏氏は東大名譽教授伊東忠太氏及び私を訪問せられ、艦内奉安の神殿に關し御意見を述べられたが、其の說甚だ傾聽に値するものであつた。

即ち、帝國軍艦では地名を採つて艦名とするものが多く、從つて艦内に奉安して日夜將卒の敬禮する神としてはその土地の神を勸請し奉る事としてゐる。しかし、在來の習慣では將校の食堂に簡單な神棚を設けて奉安するのであるが、何となく待合の神棚めいて面白くない、殊に場所柄下士卒が禮拜し難いといふ不便がある。

茲に佐藤大佐は神殿奉安に關し根本的な改正案を抱かれた。元來齋き奉る神は船の守、將卒の精神的中心である。據つて神は船神として艦上風波に洗はれる所に巍然として存すべきであり、將卒は朝夕軍艦旗に敬禮を捧げると共に神殿をも拜すべきである。その爲には甲板上何人も容易に近づき得る所に奉安すべく、又、その神殿は軍艦の神たるにふさはしい樣式たらしむべきである。その爲には、神社の本義に基いて飽く迄も木造とするが、在來の樣式に拘泥する必要もなく專ら日本精神を發揮すればよいのであり、從つて僅か二尺立方體内に收まる小祠にしてしかも雄大莊嚴なるを要する。若し此の新設計にして幸に成功すれば之を稱して「軍艦造」と命名し、廣く將來の帝國軍艦に採用せしめたい。據つて之が設計を委囑し、將來の大計を樹つべく、敢へて我々を訪うたのである。

以上が佐藤大佐の信念である。そして、吾人はそれに贊同してその意に應じて此の造營を完了したのであつた。

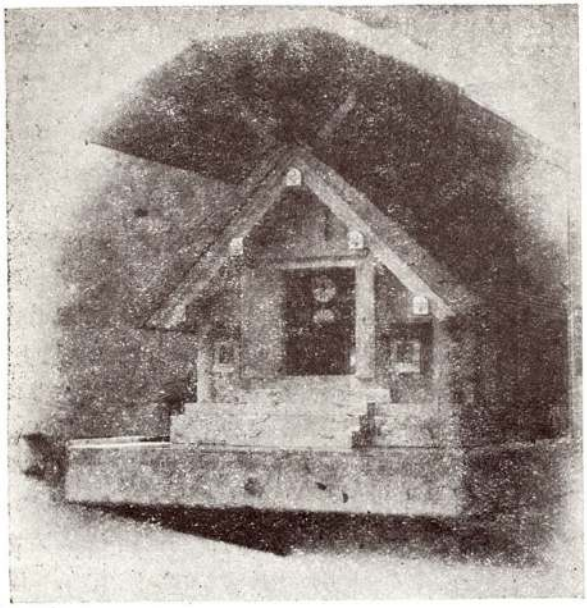
祀き奉る神は艦名「沖の島」に基き、福岡縣沖の島（朝鮮海峽にある小島）所在官幣大社宗像神社沖津宮祭神多紀理媛命である。最初は神社の希望として現在の此の神社の樣式である香椎造の社殿を縮少して貰ひ度いとの事であつたが、前述の方針から之には據らない事とした。安置の方法は甲板上の壁に持送を出して棚とするので、後壁の關係から妻入社殿を主張した。しかし、最初の頃は妻入は何となく南洋の土人の集會所（アバイ）の類を聯想するからいやだと云ふ、如何にも國防の第一線に立つ人らしい反對もあつたが、終に應諾せられ、その後は殆ど當方の立案通りに快く進捗したのは幸であつた。

設計は伊東博士の原案を參考として私が設計製圖し、博士の御修正を仰いで決定、○月下旬より製作に着手し、翌々月上旬竣工した。施工は播磨造船所、社殿の組立は姫路市所住の神佛棚工作者が下請けした。尙ほ設計助手として奥埜忠雄氏、實施せられなかつたが覆屋や持送棚の設計を、工學博士武藤清氏が爲された。

樣式は大社造でも大鳥造でもない。木割、規矩など全然從來の觀念に據らず別箇である。所謂「軍艦造」である。と云ふ譯は、何しろ或は熱帶地方の烈陽に燒かれ、或は風浪の洗ふに任せる甲板上の木造建等であるから、從來の社殿規矩などを縮少したのでは甚だ脆弱であり、軒が深かつたり千木勝男木が長かつたりしたのでは風浪に一たまりもなく摧かれるであらう。

そこでこれらに堪へ得る構造物たるべく特に留意した。即ち、柱と外壁とは思ひ切つて太く厚く全體が厚い箱となる樣に工作し、之に應じて梁・桁・棰・千木・勝男木等は悉く太い。千木は殊更に短くしたが、今少し長めでもよかつたと後から考へた。又、軒の出は能ふ限り少くして此處に風を姙まぬ樣にした。小屋組は全く特殊である。その上に、柱を通して基壇に鐵筋を通しボルト締めとし、小屋の一部に水平に鐵筋ボルト締めを行ひ

*工學博士・東京帝大教授



軍艦「沖ノ島」神殿

勝男木は左右を鐵筋で小屋に縛りつけて強固とした。

梁間三間桁行四間。桁行は三間でもよかつたと後で思つたが、その代り奥深い感じは強調されてゐる。内部は内外陣に分れ、桁端・階段の金具には柏の葉の神紋をつけた。總檜造銅板葺、基壇黒花崗石、支臺は鎔接鐵板、ペンキ塗ふだんは神殿を露出してゐるが、風浪特に甚だしい際には鐵板で神殿全部を密閉する用意がある。これまでに風浪に對する萬般の考慮を施したから萬一の事は無いと信ずる。

昭和〇年〇月上旬艦を訪問した。ランチから見上げる艦上高く社殿が仰がれた。何分にも汐風に吹き捲られてゐるので、最早銅屋根には青錆がふいてゐた。今では青錆が一面に吹き、木部が古色を帶びて愈々神嚴を加へつゝ、日夜將卒の敬禮の的となつて、太平洋上浪愈々荒い昨今、大いにその神德を發揮せられてゐる事であらう。

聞く所によると、他の軍艦でも此の神殿をそのまゝに摸して安置し始めたといふ。幸にして之が廣く行はれたなら、設計者の欣快これに如くものはない。

常備約十五人程度無筋コンクリート造防空壕

資　材　表　（化裝仕上内部及特別設備ヲ含マズ）

水盛置形	一式	新品單位	新品合計
堀方（埋戻及盛掛土ヲ含ム）	15,25立坪	5.00	76.25
栗石（入搗共）	1.10立坪	63.00	69.30
敷コンクリート（土間コンクリート）打材料手間）	1.10立坪	129.50	164.45
側及天井並ニ袖塀コンクリート	〃 5.83	149.50	871.585
同上型枠セキ板工事手間共	103面坪	8.00	824.00
防　蹬　扉　高5尺3寸　巾2尺3寸	3ケ	50.00	150.00
非常口突上扉　徑2尺3寸	1ケ所		10.00
非常口タラツプ　高9尺　巾1尺5寸	1.4所		10.00
腰掛用板　厚1寸　巾尺	延長34尺	33	11.20
同用桟木　山2寸角	延長42尺	05	2.10
土　嚢（米俵ヲ使用）	200ケ	50	100.00
合計實費			計 ¥2,298,905

〔註〕　以上專門家にあらざれば出來難く工期、着工後2週間とす。

牡丹江神社に就て

伊藤文四郎*

白系露西亞民族と宗教熱

牡丹江神社の建築を叙述するに先ちて在滿露西亞人の宗教熱に就て述ぶる事とする。北滿ハルピン市を中心として該地方一體に建設せる露西亞人の寺院は約五十有餘に達して居るとの事を耳にしたのは滿洲事變直後自分が新京入りをなしたる當時であつた。是等の寺院は凡てグリーキ・キヤソリツクであつて何れもクリスト十字架上の苦悶を示現して、多衆に信仰と慰安とを與ふるものであり、一週定められたる聖日に參拜して牧師の說教及び自己の懺悔告白祈禱等によりて、彼等の生涯を正しく强く生きんとするのが、心から求めんとする處の宗教觀である様だ。余の見たる白系露人等は宗教は阿片なりなどの妄言には迷はされては居ないのみならず、實に朴訥な又剛毅な素質の持主であつて、寔に愛すべき民族である様に思はるるのである。何れにしても北滿の一小地域に五十有餘の寺院の存在せる事實は彼等の懷ける宗教熱の熾なる一證左として例示するの價値は充分であるものと信ぜらるゝのである。

外地に於ける吾民族と敬神の美風

然らば彼の地に於ける吾等日本民族は如何であらうか、一部には新教に屬する基督教徒ありて教會堂を建立して相當の傳導をなしつゝあるものも居る。又佛教方面には諸所に幾多の寺院を設けて布教に從事しつゝあるのを多く見受くる。誠に吾意を得たる次第である。然るに我國風として何れの家庭に於ても神棚を設けて神を祀らざるは殆ど稀であり、又一村一分區地等の僻地に於ても、鎭守の森中に守護神を祀らざるものなき事實は、實に吾等の祖先より傳はり來りたる敬神の念が血液の中に交り居る活々したる證左であるが、此美風は國民と共に在りて喪はれず、遠く海外に離れて棲居しつゝある人々と雖集團的に各部落に於て社殿を設けて、內地より皇祖の御神靈は申すに及ばず、大國主命、橿原神宮、明治神宮、春日神社等よりも分靈を享けて、以て多衆の信仰の據點を確立しつゝあるの現狀である。特に滿洲事變後內地より同地に移住しつゝある人々の增加するに從て益々神社設立の企あるは固より當然の成行である。

東滿の地牡丹江は露領たりし時代には寧北と稱されて居たのであるが、滿洲國領となりて牡丹江と改稱され、僅かに十年未滿にして人口二十萬に垂とする大都市となつたのである。此市は生產都市ではなく寧ろ消費都市であるけれ共東滿に於て缺くべからざる重要のポストを占め居れる關係上活氣橫溢せる將來性の充分なる本質を持てる大都市であるのは勿論である。

牡丹江市民の神社建築欲求

以上二十萬の人口を擁せる外に國土の護りに日も是れ足らざる國家の干城が居る。何れにしても愛國の至誠を湧き出さしむる源泉としては、神の前に低頭默禱して己れを虛しふする事によりて得らるゝのである。即ち我民族の信仰の據點が神社參拜に存するのであるから、斯る見地より牡丹江神社も同市在住の人々の喜捨淨財によりて高貴なる麗姿を示現するに到つたのである。

康德六年十二月牡丹江市長及同市神社建設委員等の委囑を享けて、同地に赴き同地域に於ける神社敷地を實査して計畫を樹立する事とした。然るに同市民の希望としては、其樣式を權現造りとし、主として滿洲產の資材を以て之れに充當せしめたきとの切願であつた。然るに其資材の主なるものは、木材として白松紅松の二種あるのみにして他に煉瓦の製造は可能なりしも燃料の供給意の如くならざるを以て相當困難なる狀態にあつたのである。洋灰、鐵類等の多くは是れを軍部に請願して分與を乞ひ得たるも、裝飾金具及び屋根葺材料等は、凡て內地より輸入する事として計畫を進むる

*建築士・伊藤建築事務所々長

に到り、辛ふじて康德七年十月末日に大體の工程を了り同十一月十九日遷座の式を擧行して以て第一期分の工程を終る事を得たのであつた。

神社敷地の概述

敷地は總計四萬坪にして南面に傾斜せる北晴山の山麓に在りて形勝の地位を占めて居る。市の中心とは約三哩の距離を隔てゝ居るけれ共、東西南の三方面に展開せる勝景を瞰下するに充分である。此神社を中心として清水公園あり、スタヂアムあり、スイミングプールあり、又近く忠靈塔の建設を見んとするの企てありて眞に牡丹江市民の祭祀及び年中行事を行ふ中樞地たらしむるに重點を置て居る樣である。從て神社の建築は斯る見地よりするも最も重要なる役割を勤むるのであつて、徒らに模倣的意匠は容されないのであつた。

建築の計畫概要

其大要を叙述するには東滿の冬期に於ける氣候溫度に就て述ぶる必要がある。冬期には氣溫降下零度下二三十度に到る事あるを以て少く共拜殿及び石の間は寒的の壁體を以て圍繞するの必要あり。從て神社建築の意匠表現上相當の考按をめぐらすの要を認めた。又室內採溫缺くべからざるは勿論である。ペチカにせよ他の暖房裝置にせよ必ず醜き煙突の建設を餘儀なくせしめらるゝ關係上他日竣成すべき鏡泊湖發電所の動力を導入して電氣暖房を以てする事にして、煙突の建設は見合はする事とした。然し社務所のみはペチカを以て採溫する事にしたる關係上屋上に數本の煙突を突出せしむるの已むなきに到つたものだから屋根材料もモルタル瓦とし單に玄關入口の破風のみを和風の意匠としたる次第である。

プランは凡てシメトリカルに配置した。從て中軸線より左右へ振り分けとして特に神饌所を左に祭祀器庫を右に短き廊下を以て接續せしめて設くる事としたけれ共、費用の都合上庫丈は他日追築する事になつたのであつた。又前面階段も假設であり第一鳥居も未設である。是は鐵筋コンクリートの設計なるを以て鐵資材の缺如により他日に讓る事となつたのである。第二鳥居として臨時に滿洲材を以て黑木鳥居を一時其の目的に充てたのである。

以上にて其大要を概述したのではあるが、由來宗教的建築としては吾日本には古くから簡素質朴なる古代住家に範を取れる神社建築がある。其單純淸楚なる形體配置は恐く世界唯一の存在であらう。然し其完全したる形式に準するものとしては本社殿は總社廓の中心に位置し、透塀が其周圍を繞り中門が其前にある。中門の前面には本社に對して拜殿があり、拜殿の前には鳥居がある。鳥居から左右に瑞籬を連ねて全體を圍繞してをる。是即ち神社の內廓と稱せらるゝものであり、此內に神庫を設ける。瑞籬の外には祭器庫神饌所社務所手水屋を配置して玉垣を以て是を包圍する。是を以て神社の外廓と稱する。

然るに欽明天の御代大陸より佛教が傳はり來り其異なる態形の儘吾固有の神社建築と相對して佛寺院が建設されて行つた。斯くの如くにして異種の二宗教が同時に民間に信奉せらるゝとすれば勢是を折衷したる者の生ずるは自然の成行である。茲に於て神佛混淆の形勢を馴致し來り、佛教が漸次日本化せらるゝの氣運を醸成したのは當然である。從て大陸風の建築が謂はず語らずの裡に吾神社建築に大なるインフルエンスを與ふる樣になつて參た。即ち一種の宗教的建築權現造と稱する樣式が創案せられたのである。其完全なる者は實に日光廟であつて、近年に築造せられしものとしては神田明神の社殿であらう。

牡丹江神社は其規模に於て前二者の足許にも及ばぬものではあるけれ共其計畫骨子としては如上の規格に外づれざる樣に心掛けた積である。外觀の意匠手法等は煩雜を避け前面向拜に幾分の裝飾的手法を施し重點を茲にアクセンチユエートする事とした。拜殿外側の榑栱は鐵筋コンクリート造としたるも勾欄は木製としては正格の木割に準じた。他は一般的に淸楚なる感じを表現する事に意を須いた。本社殿の本棟に千木及葛緒木を配したのは權現造としては或は違法かも知らざれ共（該樣式の歷史に徵して）神靈は皆貴き神々の分靈を皇祖の御神靈と共に祀ると云ふ本旨に基き固有神社の形式に則り屋根は流れ造りとし社殿全體を木造としたのである。

本年度より植樹を行ひ神域全部（17頁へ續く）

住宅と空襲對策

中尾保*

國民の覺悟——國際情勢は餘程逼迫して來たが近く日本も何れかの國と戰端を開くか否か？これは先決問題であるが「必ずある」と決めねばならぬ。何れの國か、日本は今大東亞建設といふ重大なる使命を帶びその目的達成のためには萬難を排して一路邁進せざるべからざる時に到達したのである。それがためにはこれを妨害せんとする國に對しては好むと好まざるとに不拘開戰は覺悟の上である。ハツキリ物申せばソ聯か英國か米國か或は三國を同時に敵として闘ふか。といふのであるソ聯とは今のところ戰爭を惹起すべき理由がない英國はいくらジタバタしても日本に向つては蟷螂の斧に過ぎぬ、して見ると剩すところの米國であるがこれとても米國内の識者は國運を賭してまで日本と戰爭せねばならぬ理由がなくまた勝味のないことも充分心得てゐるが政府首腦部の心得ちがいからジリジリ戰爭へ近づきつゝあるのはまことに氣の毒と云はんよりは全人類のため迷惑千萬な話である。何れにしても今更論議してゐる時ではない。日本の南進政策は當然すぎる程當然な事實である。若し戰爭となれば何んな形の戰爭であるか、日本の本土は空襲されるか否か、これについては「必ず空襲を受ける」と答へなければならぬ「受けるとすれば如何なる空襲か」この點國民が充分認識してかゝらねばならぬ。戰爭は五年先、十年先の話ではなく四月か五月か六月か目睫に迫つた話である。若し今年中事なく濟めば十年間は先づ平和と見てよい。これによつて我々の空襲對策は自ら異つてくる。たゞ徒らに防空施設と云つて百年の大計を目指すものと緊急對策との二つに分けて考へなければならぬ。恒久的施設は今更何うにもならぬ。これは未來に對處して萬全を期する施設を應急對策とは別個に徐々に實行に移して行くより他に途はない。今更住宅を地下に設けたり全建築物をトーチカ化するわけには行かぬ。都市の分散、國土計畫等の問題は一日も早く實施に取かゝらねばならぬことは勿論ではあるにしてもそれと同時に應急策を講ぜねばならぬ。それには今日の空襲及び防空の實際について或程度の理解を必要とする。

空襲と防空の實際——一世間には戰爭が始まれば今にも敵機が日本の都市の上空を亂舞するかの如く心得てゐる者が隨分澤山ゐるがそれは日本に海軍空軍のない場合の話である。日本には無敵海軍の嚴然と存在する事を忘れてはならぬのみならず陸には〇〇〇萬の貔貅あり〇萬の荒鷲の控へてゐる以上、上陸作戰などは思ひもよらぬ事で重慶やロンドンの空と間違つては困る。日本は今日六本の手を伸ばして本土を護つてゐる。地圖を見れば誰でも解る筈だが北から千島列島、樺太、朝鮮から滿洲、北支への二股の手、琉球台灣から海南島にいたる長い手、更らに手は小笠原からパラオ島にいたり更に伸びて掌を擴げてゐるのである。その間にわが無敵艦隊あり大小無數の漁船あり蟻の這入る隙もない防禦振りである。「陸海軍大臣は何時も議會で御安心下さいとすましてゐるのはこれ等の防備に加へて驚くべき性能を有する武器、軍艦、航空機に加へて誠忠無比なる陸海軍將兵を有つてゐることに充分なる自信あるがためと推察すべきである。國民たるもの大いに意を强うし滿腔の謝意を表さねばならぬ。何といふ有難い國ではないか。（今少しく微に入り細に亘つて說明すれば益々國民は心强く思ふであらうがこの上は記述することが出來ない）

しからば「敵機は一機も入れないか」といふに決してさうは云へない。何分廣漠たる空のことである以上何んなに防備は嚴重でも一機や二機のこぼれることは豫想しておかねばならぬ。またそんなことはないにしても國民として充分なる準備と覺悟とが必要である。たゞ徒らに怖えたり慌てたりすることは大に愼まねばならぬ。そのためにも訓練の必要を痛感するものである。

*關西高工敎授・中尾建築事務所主

空襲の實際とその威力――我等國民としては「空襲を必ず受けるもの」としてこれが對策を講ずることはその責務である。そこで現今の航空機の性能と爆彈、燒夷彈、毒瓦斯彈等の威力を知つておく必要があらう。近時航空機の發達が恐るべきもので一般が考へてゐるやうなものではない。ハンドルを握つて桿をとつたり地形を探つたりせずとも飛行機は勝手に目的地の上空へ飛んで行く而も四千米、五千米、六千米の上空には風もなく雲もなく雨もない　地球上の氣象とは無關係であるがそんなところを平氣で飛ぶのだからたまらない。最近は高度九千米の實驗もしたといふ。こうなれば高射砲などは問題でなくなる。飛行機の位置は自働的にちやんと解るやうになつてゐる。一昨年の「ニツポン」號でさへ日本ではもう古い方だとは正に驚嘆すべきことである。爆彈は鐵筋コンクリート建物に對しては五十キロで床(スラブ)二階貫通、百キロで三階、五百キロで四階、一トン（千キロ）では五、六階もブチ貫く威力をもつて四方を爆碎する、しかし若し米機が襲來するとなると爆彈よりも先づ燒夷彈を無數に撒きちらすことを考へるであらう。この燒夷彈も千度、二千度の熱を發するといふから大ていのものは燒きつくされる。（鋼(スチール)は千四百度で飴になる）して見ると現在の建築物は殆ど爆彈に對して防禦の施しやうはないといふことになる。（紙數の制限上この邊で止める）

住宅としての對策――扨住宅では何んなことをしたらよいかといふ問題になるが第一は類燒を出來得る限り小部分に止めることのために空地と防火壁に注意せなければならぬ、。應急策としては火災を小部分に止める工夫をするより他ない、それには消防設備も必要であらう、或は隣家の破壞作業も考慮せなければならぬ、防空壕（實は避難壕である）は避熱作用をなすと共に近所に墜ちた爆彈から避難する場所として是非造つておく必要はある（これも直擊彈には無効と知るべし）、燈火管制に對する設備は平素から充分にしておかねばならぬ、照明彈のある限り燈火管制等は役に立たぬといふ人もあるがそれは甚だしき間違ひで何時の場合にでもこれを忘れてはならぬ。黑い幕を何時までピンでとめてゐるやうな心掛けはこの際一掃して永久的施設に變へることだ、なほこの幕は住宅に最も必要なものでガラス破片の飛び散るのを防ぐ上からでも大切なものである、ロンドンから歸つた人の體驗談を聞いてもカーテンのあつたゝめ生命を取り止めたとのことである、これは爆彈の震動で隨分廣範圍のガラスが飛散して人を殺傷するものである、敢て來れば住宅としての空襲對策はいろいろあるが實際世間は案外ノンキでゐるのには呆れざるを得ない、お祭り騷ぎをして居る時ではない。

最後に一言したいのはいざ戰爭となつても決して騷いだり慌てたり怖がつたりすることはない銃後國民と雖も戰場に居るつもりで悠々と各その職責を全うすることである決して逃げてはならぬ。

（井上一雄氏「神社建築雜考」20頁より續く）

14. 官幣大社、氣比神宮、都理造り、福井縣
15. 官幣大社、住吉神社、住吉造り、大阪市
16. 官幣大社、松尾神社、兩流し造り、都理造り、京都市
17. 國幣中社、眞清田神社、流し造り、愛知縣
18. 別格官幣社、湊川神社、春日造變形、神戶市
19. 官幣中社、熊野那智神社、王子造り、和歌山縣
20. 官幣大社、大神々社、無生殿、奈良縣



市民防空壕展覽會趣旨

歐洲の戰亂愈々急に、太平洋の波浪亦高からんとして茲に聖戰五年を迎へたる我國は正に「皇國の興廢此秋に」決せんとするの期に臨んでゐる。

神國の武威海內に遍く新東亞の大建設期して疑はざるも飜て我國土の防備を顧みれば憂慮すべきもの多く、茲に於て多年「都市武裝」の促進に努力を續け、率先して國土防衛の急を絶叫しつゝある本會は更に其事業の一端として市民防空壕展覽會を開催し、その一般的知識の普及を期して一朝有事に際し人命救助、財產保護、國土防衛上の一助に資せんとする所以である。

何のために防空壕を使ふか

空襲を受けた時は、老幼病者と妊婦を除いた一般國民は全部自衛防空に從事するのが本則であるが、防空壕は次の様な場合には一般國民に是非無くてはならぬ施設である。

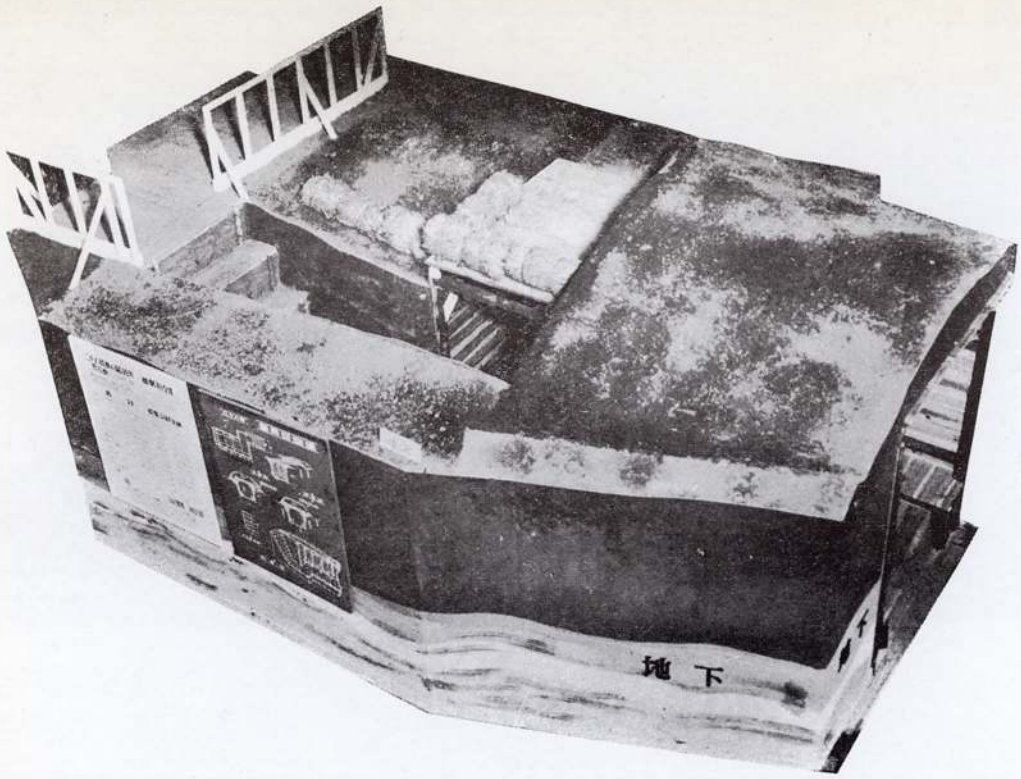
1. 空襲前に豫め田舍や危險のない土地へ退去する事の出來なかつた老幼病者や妊婦は警報の發令と共に防空壕へ、避難しなければならない。

2. 防空に從事してゐる人でも、火災や毒ガス等の被害發生の爲、やむを得ず防空壕へ避難せねばならぬ様な事も起る。

3. 頭上で空中戰が行はれてゐる場合には無益の損害を避ける爲に、一般國民は勿論、防空機關でも任務に支障なき限り一時的に防空壕に待避し危險の去つた時、或は燒夷彈が落下した時等には直に出動して自衛防空の任に就かねばならない。

4. 不幸にして燒夷彈のため火災が起つた場合、家財や道具を持つて逃げる事は困難であるから、この防空壕に家財を入れ土を覆つて家財を護る事が出來る。

故に——防空壕は爆彈の破片や爆風壓による危害を避けるための施設であると同時に、燒夷彈の火災による損害を輕減せしめる爲の施設でもある。構造に注意すれば毒ガスの被害をも避けることが出來るのである。

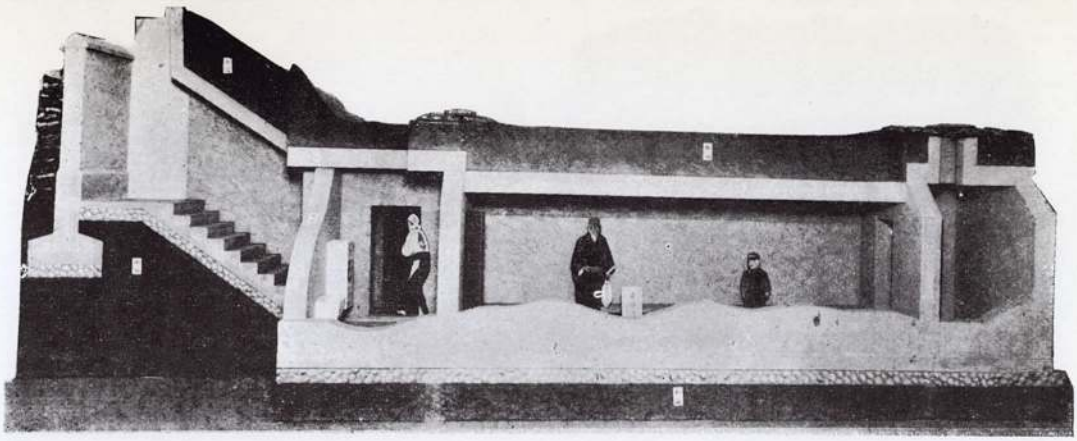


20人程度隣組應急木造防空壕 (上圖及び次頁下左圖)

資材表 (有合セ品使用ヲ奬勵ス)

堀方 (盛返仕上ヲ含ム)		33立坪	5.00	16.50
柱 (有合セ品ニテ良シ)	長6尺 大サ3寸丸太位	20本	70	14.00
梁 (〃)	長5尺 〃	3本	55	1.65
梁 (〃)	長8尺 〃	4本	1.10	4.40
梁 狹 (〃)	長2尺5寸 貫	20枚	03	1.60
側板 (〃)	長6尺 8分板	延巾25尺	1.20	30.00
天井板 (〃)	長6尺 正8分板	延巾15尺	1.30	19.50
腰掛板 (〃)	長6尺 8分板尺	4枚	1.80	7.20
階段土留板 (〃)	長3尺 8分板	14枚	50	7.00
桟木 (〃)	長1尺 山2寸角	48本	05	2.40
入口開戸 (〃)	高5尺 巾2尺3寸	2枚	12.00	24.00
以上釘		一式		1.50
大工手傳手間		一式		13.75
土嚢 (米俵ヲ造リ)		40ヶ		20.00
合計實費				¥163.50

註
- 以上ハ專門 土方 5人 / 手傳 1人 / 大工 2人 } 10時間に完成す從つて5時間に爲さんとせば各倍の人數入用なり
- 若し素人が合同してなす時も約3倍以内の人數にて爲し得。
- 又素人男女隣組團が爲す時も約5倍以内の人數にて爲し得。



常備約15人程度無筋コンクリート造防空壕（上圖）

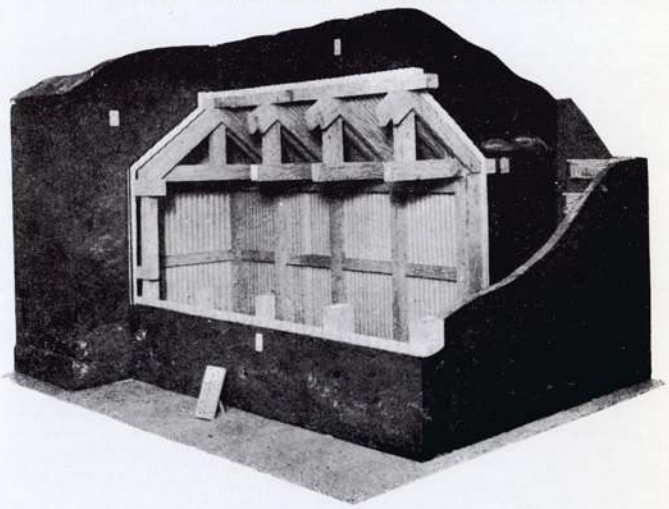
資　材　表（化粧仕上内部及特別設備ヲ含マズ）

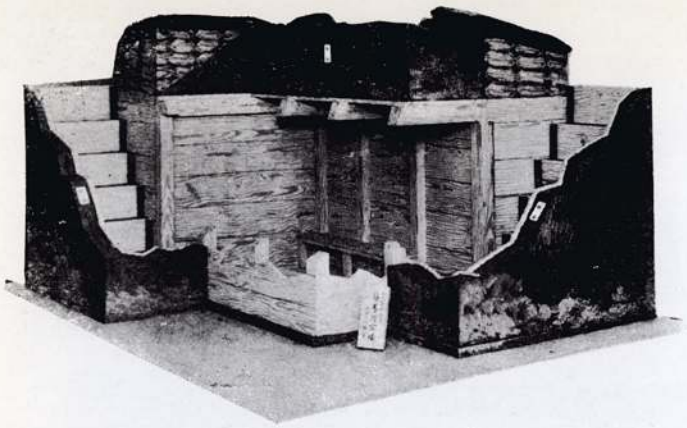
水盛置形		一式	新品單位	新品合計
堀方（埋戻及盛掛土ヲ含ム）		15.25立坪	5.00	76.25
栗石（入搗共）		1.10立坪	63.00	69.30
敷コンクリート（土間コンクリート）	打材料手間	1.10立坪	129.50	164.45
側及天井並ニ袖塀コンクリート	〃	5.83	149.50	871.585
同上型枠セキ板工事手間共		103面坪	8.00	824.00
防護扉	高5尺3寸　巾2尺3寸	3ヶ	50.00	150.00
非常口突上扉	徑2尺3寸	1ヶ所		10.00
非常口タラップ	高9尺　巾1尺5寸	1.4所		10.00
腰掛用板	厚1寸　巾尺	延長34尺	35	11.20
同用桟木	山2寸角	延長42尺	05	2.10
土嚢（米俵ヲ使用）		200ヶ	50	100.000
合計實費			計	¥2,293.905

〔註〕以上專門家にあらざれば出來難く工期、着工後2週間とす。

4人程度の家庭應急・鐵板應用防空壕

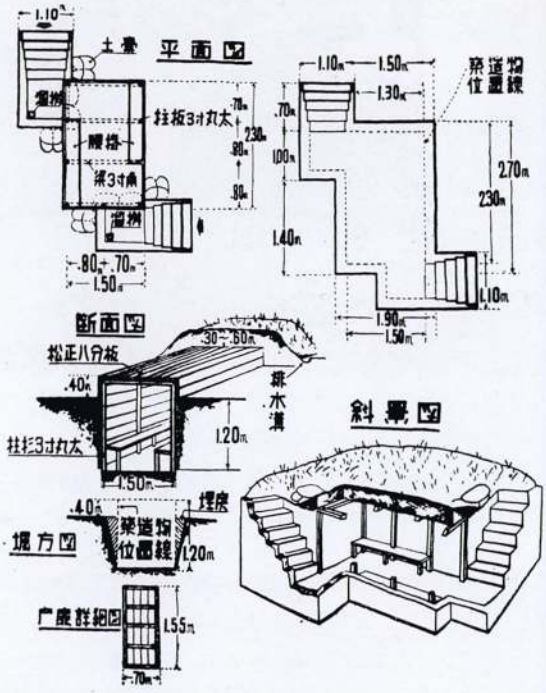






五人用簡易防空壕

（地質良く水高き場合）



之は一般家庭用簡易防空壕として庭或は家の周圍の空地に築造する基本的な一例で資材は平時から準備して置くか、いざ鎌倉と謂ふ時には柱とか梁は圍柱を壁、天井板等は、雨戸又は床板などを利用する様致しませう。

五人程度家庭應急木造防空壕

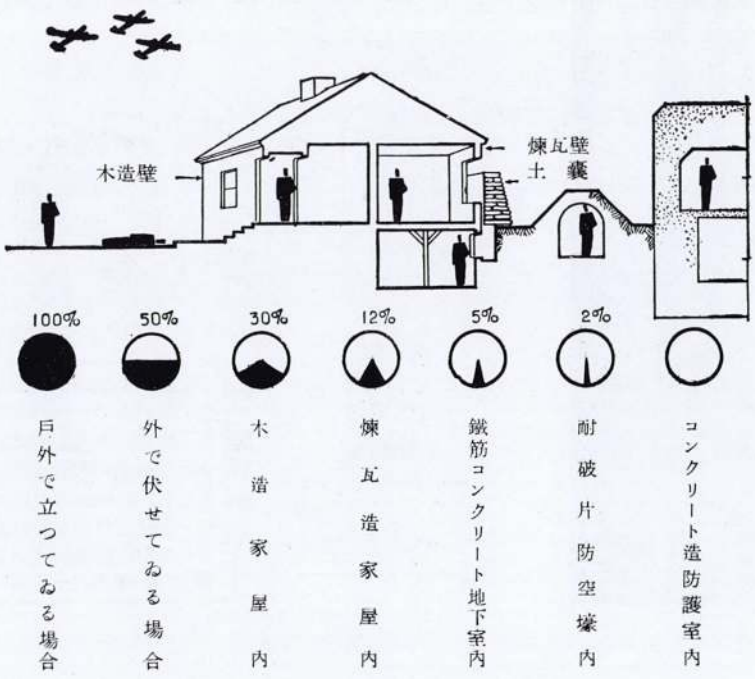
資材表（有合セ品使用奨勵ス）

			新品單價 圓	新品代 圓
堀方	（盛返仕上ヲ含ム）	1.24立坪	5.00	6.20
柱（有合セ品ニテ良シ）	長6尺太サ3寸丸太位	13本	70	9.10
梁 （〃）	長5尺太 〃	5.5本	55	3.025
側板（〃）	長6尺厚8分板	25尺延巾	1.20	30.00
天井板（〃）	長6尺厚正8分			
梁狹（〃）	長3尺 貫	10尺延巾	1.30	13.00
腰掛板（〃）	長6尺 巾延1尺 厚 8分	8本	10	80
		2枚	1.80	3.60
同受用板（〃）	長1尺 山2寸角	44本	05	2.20
階段土留板（〃）	長2尺 巾 7寸 厚 8分	12枚	33	3.96
入口開戸	高5尺 巾2尺2寸	2枚	12.00	24.00
以上用釘		一式		1.50
大工手傳手間		一式		12.00
土嚢	（米俵造）	40ヶ	50	20.00
合計實費				¥ 129.384

註 以上專門 土方 2人 手傳 1人 大工 2人 } 10時間に完成す卽ち5時間にせんとすれば倍人必要とす
若し素人が合同して爲す時も三倍以内の人數にて爲し得。
又素人男女隣組團で爲す時も五倍以内の人數にて爲し得。

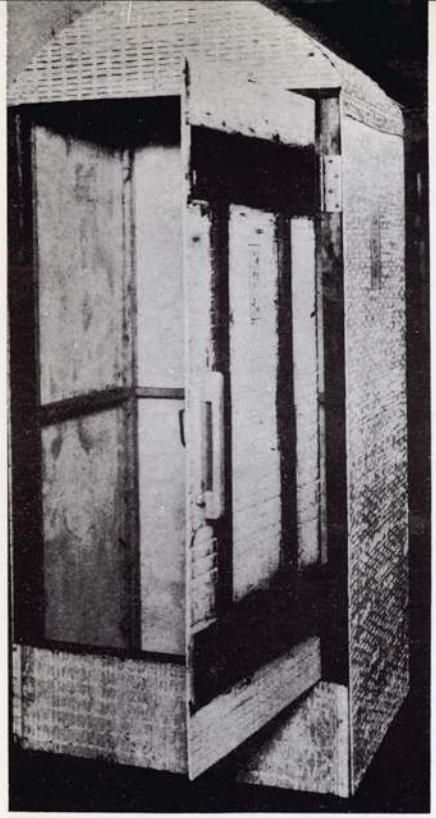
各種の避難方法の危險率

（簡單な避難法で大きい効果が得られる）



防空壕の工費と効果

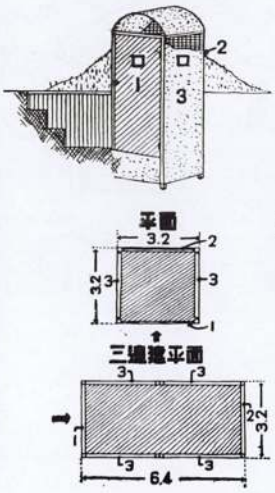
金と生命とひき比べて見ると生命の方が惜しいに極つて居る。病氣になつて藥を呑むのは生命が助かり度い爲の手段である。それ程生命の惜しい我々が空襲の場合には生命が不要のものゝ如く不用意であるのは空襲に依る死者數を知らぬからかも知れぬ、精密な計算に依る具體的な數を擧げるならば1平方粁に付15,000人の人口密度の區域（之は略々此花區の人口密度に匹適するが）に爆撃機が飛來して、100瓲爆彈を1平方粁に付10個宛落して行つたとすると、その1平方粁に付4,710人の死者が出る、即ち全人口の3割4分である。此の場合最も簡單な防空壕即ち土を堀つた丈の散兵壕に避難して居た場合は801人の死者で濟むのである。即ち全人口に對して5分3厘、前の場合の死者の1割7分になつてしまふ、そして此の爲に要する費用は1人當15圓にすぎない。1人當241圓かけて而破片防空壕を作れば、219人の死者で濟み、1人當り448圓かけて耐彈防護室を作れば1人も死なぬ。溝型防空壕の此効用、15圓で死ぬ確率が1/6になるとしたら此程よく効く防空の藥は先づあるまい。此事は中の圖を見てもわかる事だ。

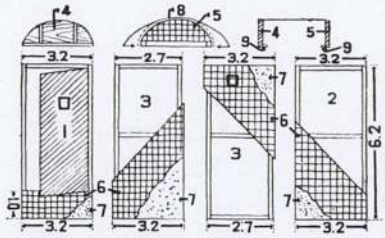


竹筋と耐火板利用

組立式耐火板造
簡易待避所

分解圖





分解説明

1. 前扉～枠
2. 背面～枠
3. 両側～枠
4. 屋根～前額
5. 屋根～後額
6. 耐火板
7. モルタル
8. 屋根耐火板

組立要領解説

1 ㄱ 前底枠(1)ト背面枠(2)ト/左右両側ヘ(3)(3)ヲ挟ミ
2 〃 (3)(3)/枠ト(1)(2)/内面枠ト/接續部ヲ釘止メスル
3 〃 次ニ(2)ト(3)(3)/外部ヨリ耐火板ヲ張リ付ケル
4 〃 (4)ト(5)/上頭ヘ耐火板(8)ヲ釘打トスル 但ム耐火板/横巾ヲ5ᵐᵐ2ヶ外側仕上リトスル
5 〃 (8)耐火板ハ右ハ(4)ト(5)/頂接ギヶ釘止メテ(4)ト(5)/下部ノ段ヲオ(2)ノ木枠上部ヘ釘打スル
6 〃 (8)耐火板ハ(3)(3)/上部木枠溝ノ約2寸程差ト込ミ(3)(3)/耐火板張付面ヘ釘止メスル
7 〃 (1)/屋ヲ除リ耐火板(背面部)ヘハセメントモルタル[タダキ]等仕應ニ施工スル
8 〃 土間ハ厚板/耐火板又ハモルタル[タダキ]等仕應ニ施工スル

防空壕築造に關する手續の順

1.「コンクリート」造又は煉瓦造にて築造する場合は市街地建築物法施行規則第143條第1項第3號に依り所轄警察署經由府建築課に申請し認可を受けるのであります。

1.次に「コンクリート」又は假枠に必要なる釘又針金は建築課より割當證明を發行されて居ります。鐵鋼も同樣の方法で配給されて居ります。

1.之に要する「セメント」は府警防課を通じて府建築課より割當證明を發行されて居ります。

以上は資材の配給の手續でありまして設計に關する詳細は府警防課分室の技術課に御問合せ下されるか直接府廳に御越下されても結構です。

參　　考

コンクリート又は煉瓦造建築には建築許可申請書

釘を必要とする場合は　釘割當證明書下附願（所轄署經由）
針金鐵線を要する場合は　針金鐵線割當書下附願（同　上）
鐵鋼を要する場合は　防火鐵鋼配給書下附願（同　上）
セメントを入手するには　防空用セメント割當下附願等を大阪府知事（大阪の場合）宛書願を提出するのです。夫々書式がありますが省略します。



古レールと浪形鐵板を用ひた組立式防空壕　（ロンドン）

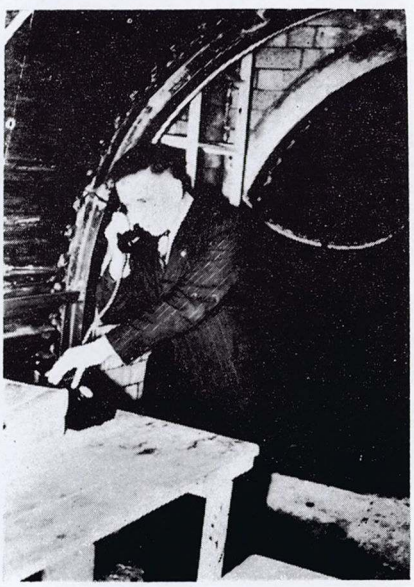
外國の防空壕眞寫

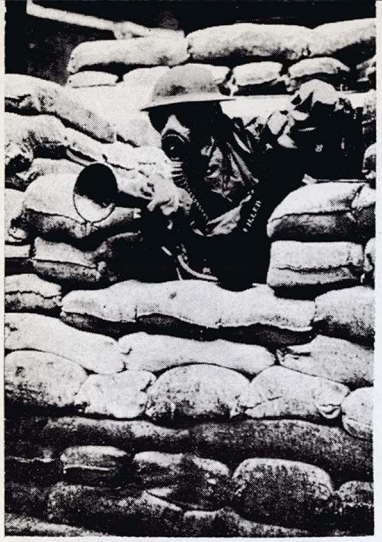




レールと浪形鐵板を用ひた組立式防空壕・左・　（ロンドン）

空襲下に於て外部と電話にて連絡又は事務を執る　・右・
（ロンドン）





英軍の
毒ガス警備兵

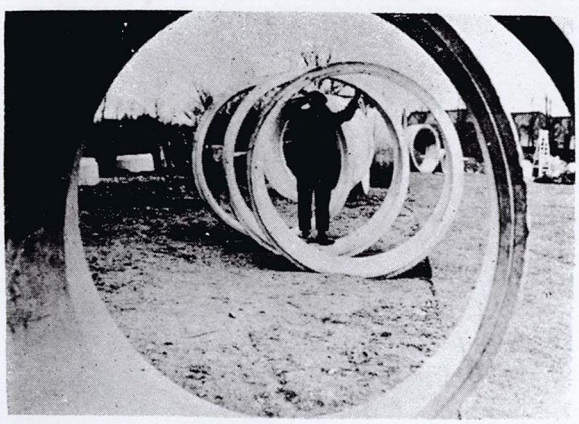


マンホールを利用し
たる通行人用防空壕
（ロンドン）



コンクリートヒユーム及マ
ンホールを利用した防空壕
（英國）

新式防空壕コンクリート
ヒコーム管を利用したる
應急的なもの　（英國）

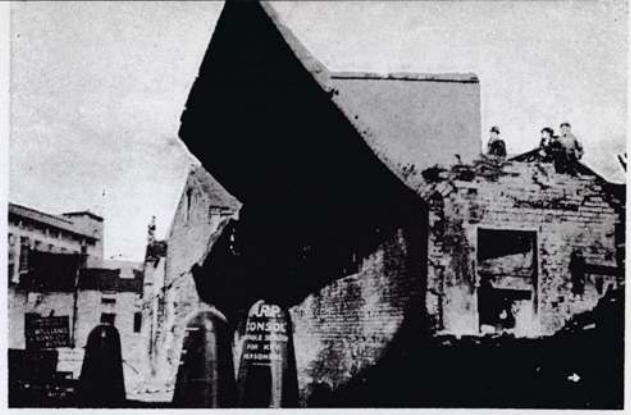


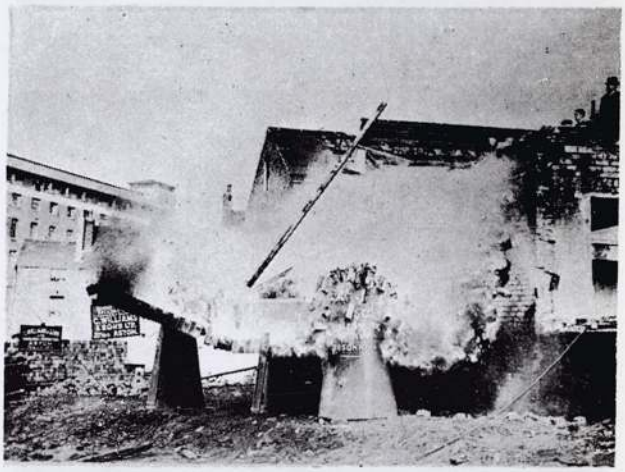


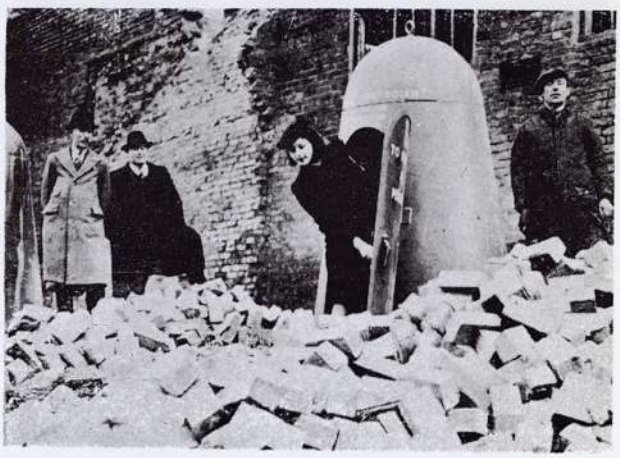
パリ市に於ける地下避
難所無筋コンクリート
造の堅固なる防空壕の
内部

コンクリート組立式公共防空壕
・上・（ロンドン）

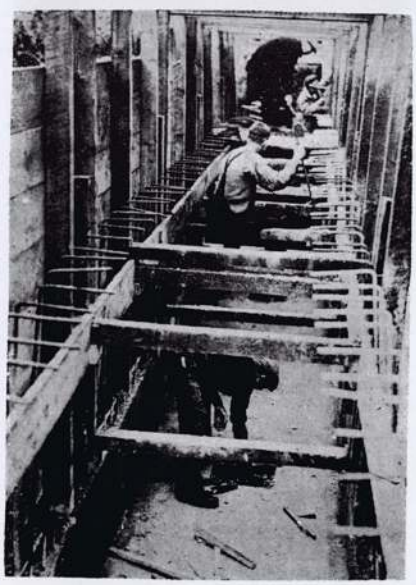
鐵筋コンクリート造公共防空壕
・下・（ロンドン）











（上）工場及交通監視員待避所の強度試驗
（ロンドン）

（中）爆破試驗中の工場及交通監視員待避所

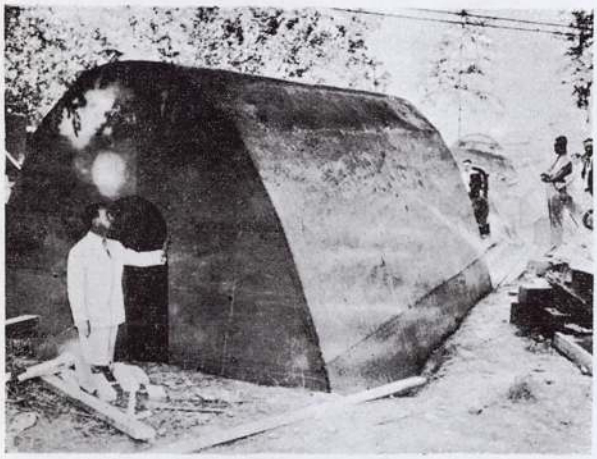
（下）爆破試驗をせる工場及交通監視員待避所



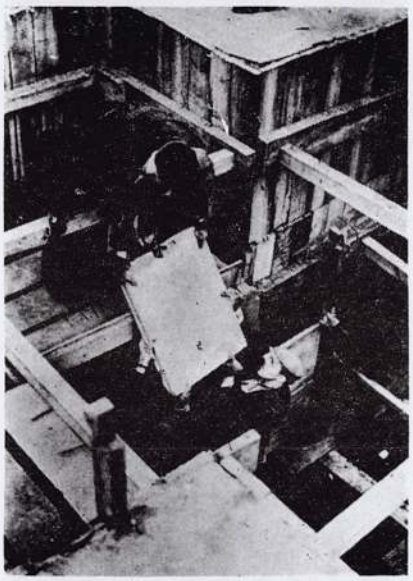
開式防空壕（パリー）



一般家庭用半地下式防空壕



無筋コンクリート造地上式防空壕



地下コンクリート造組立式防空壕
（バルセロナ）

參　考　文　獻

外國の文獻は流石に獨逸のものが多く、次で英吉利のものである。フランス、イタリー等はあまり見掛けない樣である。アメリカには爆彈の作用等に關する研究發表が多いが防空壕には未だ立至つて居らぬ。然し最近この方面に注意しつゝある事は、雜誌が特輯號を出す事等で推測される。尙文獻は單行本として發行されてゐるのは少く雜誌に發表されてゐるものが多い。以下その中有名なものを揭げる。

Deutschland

① Hans Schoszheger :— Bautechnischer Luftschutz Berlin 1934
② Jufins Meyer :— Die Grundl igen des Lufrschutz Leipzig 1935
⑦ Sɔydeli :— Handbuch für die Luftschtz.

England

① Air Raid Precansions Handbook No. 1～No. 7.
No. 1. Personal Pretecction against Gas.
No. 2. First Aidfor gas Causualties.
No. 3. Medical Treatment of Gas Causualtices.
No. 4. Decontamination of Materials.
No. 5. Stracture Precantions against Bombs and Gas (in Preparotion).
No. 6. Air Raid Precantions in Factories and Basiness Premises.
No. 7. Antc-Gas Precantions for Marchant Shipping.
④ Structural Precantions against Air attach. Supplement to "The Brilder" 1939 Marh 24 Fed. 24 Jan. 13

東鋼式防空建具

防　毒　扉

一般に防護室出入口には避難者の入室に際して毒瓦斯を遮斷し、又は消毒洗滌等を行ふ關所としての小前室を必要とするので、外部より收容室に至る迄の間には必ず二重の建具を建込まねばなりません。防護室が既設建物地下室の一部等に設けられる場合には、この二枚は同一の防毒扉でよいのでありますが獨立防護室の如く入口が直接外界に面する場合には外側の扉は多少とも防彈性を有する必要があります。

防毒扉は毒瓦斯を遮斷するために、閉鎖の際完全な氣密を保ち得る様に嚴重な氣密裝置を施さねばなりません。從來此種扉の氣密法としては、扉枠又は框に嚙合せを設けるとか、召合部に羅紗、フエルト、ゴム等を取付けるとかの方法が行れて居りましたが、種々の欠點があつて、生命の安危を托すべく信賴し得るものが見當りませんでした。東鋼式防毒扉には、東鋼獨自の研究に成る實用新案第260736號に含まるゝ特殊の氣密考案を施し、外枠及び扉の全面に渉つて絶對に漏氣の間隙を排除したもので、建込個所に於ける種々の條件に從つて選擇し得る様に、體裁良好にして操作簡便を目標としたもの、體裁よりも經濟を主としたもの、多少の防彈性を與へたもの等を標準型として製作して居ります。

東洋鋼材株式會社製造

工　場・神奈川縣川崎市渡田　　電話川崎代表3601—8

三機工業株式會社取次

大阪支店・大阪市東區高麗橋（東洋棉花ビル内）・大阪中央郵便局私書函第一五七號
電話・北濱（23）代表4841—8. 長4841

東京本店・東京市麹町區有樂町・三信ビル内・東京中央郵便局私書函第二六八號

札幌出張所・臺北出張所・廣島派出員・奉天支店
新京出張所・大連出張所・天津出張所・名古屋支店
福岡支店・京城支店・取扱店

日本サッシ製造工業組合聯合會共販部販賣

防空資材誌上展覽會

專賣特殊 太陽無機コロイド塗料

危險に暴露する木造家屋

わが國の建物の大部分が、その材料を木材に求めてゐる關係から、火災に對する危險は今更申すまでもないことで、枚擧に遑ないほど慘害を被つて居り、出火數の割合に被害高に於て、實に世界第一位を占めてゐるといふ誠に寒心すべき現狀であります。而も、時恰も非常時局に際し、一度び敵の燒夷彈下に曝されるやうなことがありますならば、その危險、慘禍のほどは思ひ半ばに過ぐるものがあります

手輕るに出來る防火家屋

かゝる實狀のもとに如何にして火災を防止すべきか？これはわが國建築界永年の大懸案でありまして、隨分これまで研究に研究が重ねられたのでありますが、遂に今日まで良對策を得ることが出來ませんでした然るに弊社太陽無機**コロイド**防火、防空塗料の發明完成し、その偉力を世に問ふに至つて、このわが建築界多年の癌たる懸案は見事に解決し、今や本塗料を塗裝することによつて、立派に、手輕るに、安價に防火家屋を造ることが出來るやうになりました

太陽無機コロイド防火防空塗料の特長

太陽無機コロイド防火防空塗料はありきたりの植物性ペイントと異り礦物質の强力な耐火防火性塗料でありますからこれを木材に塗ると木材の内部に浸透して木材を不燃質化させる特質があり、どんな木造家屋でもこれを塗ると忽ち防火家屋と變じ、空襲の脅威に備へることが出來ると共に、又災害防止の點からも無二の近代的防火塗料として大方の御愛用を得て居ります。その主なる特長を擧げますと

一、太陽無機**コロイド**防火防空塗料は殆んど絕對の防火力を有して居ります
一、粘着力が非常に强く木材によく密着します
一、既設家屋に自由に施工が出來ます
一、刷毛にて簡單に施工が出來ます
一、價格が低廉で經濟的です
一、塗面が汚れた時には水洗ひすると直ぐ綺麗になります
一、工業試驗所は本品の防火力を一、二五〇度と御證明下さいました

ムキ迷彩塗料

本社永年の研究玆に結實せる**ムキ**迷彩塗料は、無機**コロイド**に特殊操作によつて練成した强い彈力性を有する特殊鑛性油を應用したる塗膜形成要素と、滲透性防水力に富む助成要素とより成り、其の粘稠固着力と彈力性とは、强い特殊防水性と相俟ちて、**スレートコンクリート、トタン**屋根等の最適の迷彩僞裝用塗料であります

ムキ迷彩塗料の特長

★耐アルカリ性及耐酸性 本迷彩塗料は、塗膜形成要素が强い耐アルカリ性及耐酸性を有するを以て、**スレート、コンクリート**等より滲出するアルカリに對し、强靱な耐久力を有つて居ります
★彈力性と固着力 本迷彩塗料は、强い粘稠固着力と彈力性を具備し、被塗裝物の表面に完全なる皮膜を形成し龜裂剝離等の憂がありません
★不變色 本迷彩塗料中の迷彩色素は、耐酸、耐熱、耐水性の**コロイド**顏料を使用せるを以て、アルカリ、日光及大氣等に依りて變色することはありません
★施工簡易 本迷彩塗料の施工は極めて簡易にして、刷毛塗を以て素人にても一回塗りにて十分であります（スプレーにても可）
★早乾性 本迷彩塗料は、塗裝後數時間を經れば、雨に曝さるゝも剝離流亡の惧れはありません
★色彩種類 **第一號色**——黑暗鼠色、**第二號色**——暗褐色、**第三號色**——暗綠色
★塗裝可能面積 十七瓩（一斗罐入）壹罐にて、一回塗にて、約四十坪內外

專賣特許太陽無機**コロイド**防火塗料
ムキ迷彩塗料製造發賣元

株式會社 **太陽無機コロイド工業所**

東京事務所　東京市京橋區實町三ノ七（齋藤ビル）
　　電話京橋(56)五八二八番
本社工場　東京市葛飾區本田立石町二七六ノ一
　　電話本田九二番

防空資材誌上展覽會

不動尊印
防火ペイント

水火塗料

水火塗料の性質

硅酸鹽の一種、即ち硅酸**ゾル**と**ウロトロピン**の縮合物で鑛物性膠質塗料であります。弱**アリカリ**性反應を呈して居ります。

從來の**油性ペンキ**を分解する性質を持つて居りますから**油性ペンキ**の上に塗れば其れを剝がしますから是非塗り度い時は其上に水性塗料を一回塗つてから此の水火塗料を塗れば安全です原液は無色透明の液でありまして低き粘度を有して居ります、此の原液に耐火性顏料を混入して色物塗料を製造して居ります、硬化は**コンクリート**の硬化進行と同樣に大氣中の炭酸瓦斯の作用に依り硬化を始め日時の經過と共に石化するものであります。

原料は內地に無限に產し如何に多量の需要にも應じられますので**油性ペンキ**の原料が大部分輸入品であるのに比し誠に國策に沿ふ**ペンキ**でありまして新體制下の現下に於ては**油性ペンキ**は全部此種塗料に置き替へられる運命にあるのであります。

耐火溫度　白色系統のものが最も耐火度強く攝氏千五百度前後迄耐へられます故に鐵は溶けても燃えぬ塗料と稱されるのであります。

耐水性　施工一晝夜後は完全であります屋內は絕對安全ですが外部で風雨にさらされる面は餘り厚い時は龜裂を生ずるから薄目に塗つて置けば安全です、若し木材に水分を多量に含んで居るときは乾燥に從ひ水分の發散せんとする時塗面を破り龜裂を生ずる事がありますから薄く塗れば安全です。

耐酸性　人絹工場、製紙工場等の酸性瓦斯の強い室內にて充分耐酸力があります、特に白色H印は此の目的の爲製產して居る耐酸塗料であります。

耐アルカリ性　各白色は耐酸と共に耐アルカリ塗料であります、價格も油性塗料と略々同一であります。

塗裝施行に就て

從來弊方で賣出して居りました**アンチバイロール**は金屬耐熱用には好適でありますが木造建築塗裝の場合は熟練を要するとの非難を得て居りましたので研究に研究を重ねた結果、**塗り易く、水にも強く、火にも強い**、意味で**水火塗料**と命名新製品を出しました次第でありますから是非御愛用を願ひます、油性**ペイント**同樣延びも宜しく刷毛並に**スプレーガン**使用も容易であります塗裝せらるゝ材質は充分乾燥を待つて塗つて下さい、板材に水分が多く含まれて居るときは此の水分が發散せんとする際塗面を破るは此種鑛物性塗料に往々見る處其結果は**きれつ**となつて現はれるのでありますが是れで餘分の水分が發散したことを立證するものでありますから萬一乾燥不充分のものに塗裝して此の結果を生ずるとも一回の手直しをすれば再び**きれつ**や剝脫はありません、建築物は兩面を塗らなくとも片面にて充分防火の目的を達します即ち內部塗裝のみにて內外からの火焰を充分防ぎます內部、外部共塗裝は二回で充分です美觀を要する場所は最後に稀釋液を塗つて置くと美觀と共に固着と耐水を强くします。

製造發賣元

東洋理化學工業所

大阪市北區菅原町一一四●電話堀川㊲三二二七番

專賣特許 國防クロースに就て

本品は純國產の强靱なる和紙に特種加工を施したるものにして化學試驗及實地使用の結果各種織物暗幕地等に比し數等優れ居る事を實證せられて居ります。

徹底的に有効なる防空施設を裝備する事に依つて、高度國防國家建設を目指して、重要資材の確保と產業能率の增進を期せねばならぬ。此の秋に當り純國產にして且無限の資源を有する本品を、弊社の創案せる左記各種防空遮光暗幕裝置に應用し、各型共各方面に旣に多數御採用を蒙り非常の御好評を博して居ります。

特に三大特徵としては、純國產原料を使用してゐる關係で資材缺乏の憂が絕對に無く、多數の資材が確保されることであり、其他耐水、耐火、伸縮絕無であります。

特許 S.Y.式通風暗幕

本ＳＹ式通風暗幕は發賣以來五ケ年の星霜を閱し通風遮光暗幕としては最古の歷史を有し一度御採用を蒙りし需要家各位よりは絕讚を博し其後、引繼ぎ第二回三回等の追加御採用の榮を擔へる事は本品の如何に優秀なるかを立證するに足る事と信じます、隨つて其の責の重且つ大なるを思ひ尙且つ高度國防國家建設の重要資材たる金屬類の使用を極度に排擊する等各部門に亘り日夜研究と改善に努力を拂ひました結果茲に理想的の本ＳＹ式通風暗幕を完成致しました。

株式會社

吉田鹿之助商店神路工場

大阪市東成區中本町二八八 • 電話東㊹六七七四番

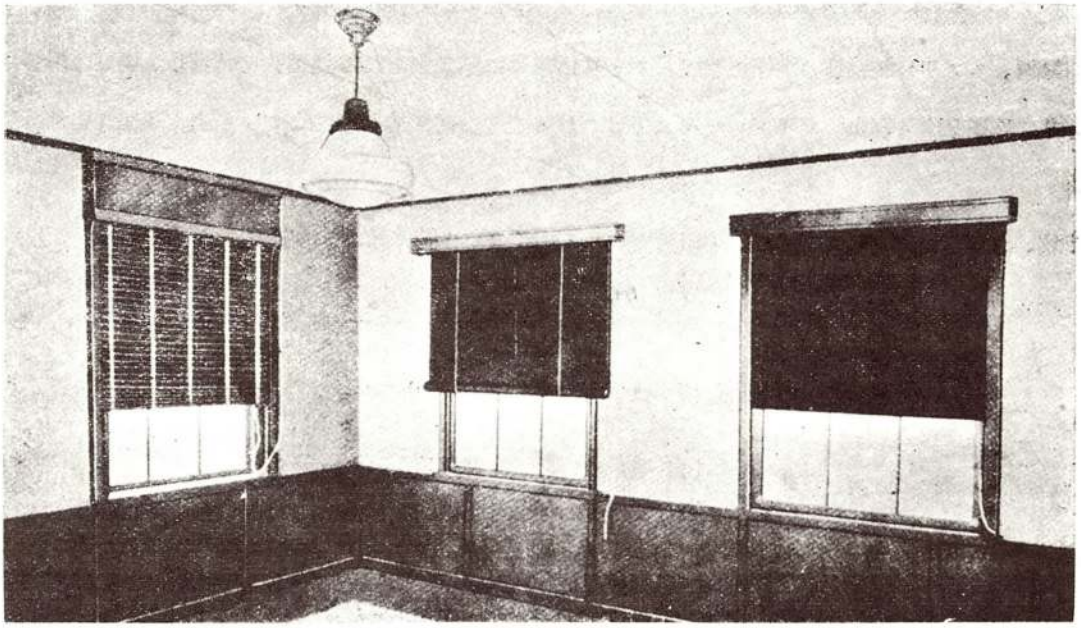
本　社　大阪市東區本町一丁目 • 電話本町㉔代表一二六五番

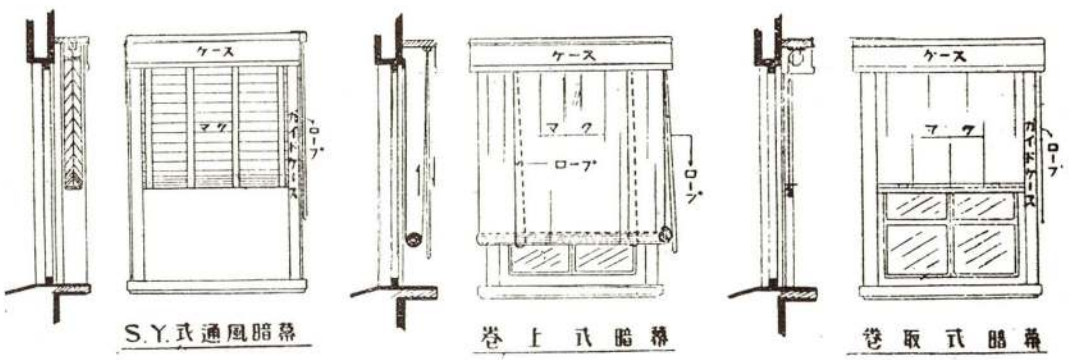
東京支店　東京市日本橋區馬喰町四丁目 • 電話浪花㊻三六四〇番

在外支店　大　連 • 奉　天 • 天　津

防空資材誌上展覽會

吉田鹿之助商店各種暗幕圖解及說明





SY式巻取暗幕

本裝置ハ捲上式暗幕ノ姉妹型ニシテ事務所等ノ窓ニ適シ暗幕ノ兩端ニハ「ガイドケース」ヲ取設ケ上部ケース内ニ「シヤフト」ヲ裝置シ引上紐ノ牽引ニ依リ至極簡單ニ暗幕ヲ捲取ル裝置ニシテ其ノ暗幕トシテノ効果ハSY式捲上暗幕ト大差ハアリマセン唯聊カ裝飾的ニナリマス

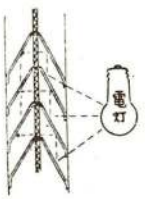
本型ハ上部「ケース」ニSY式通風日除又ハ引幕式日除等併置スルニ非常ニ便利ニ出來テ居リマス

SY式巻上暗幕

本裝置ハ工場等ノ窓ニ取設ケテ、完全ニ遮光ノ目的ヲ達スル理想的、且實質的ノモノニシテ、捲上紐ノ牽引ニ依リ至極簡單ニ操作ガ出來マス、尚ホ本型ハ在來ノ引幕ト同樣通風換氣ガ出來マセン、依ツテSY式通風暗幕ト御併用願ヒマスレバ僅少ノ費用ニテ通風換氣モ出來得ル、理想的ノ遮光裝置ガ出來生產能率ノ確保ト保健衞生ニ好結果ヲ齎ラス事ト信ジマス

（併用トハ假ニ一室ニ、五〇ノ窓ガアレバ其ノ内幾窓カヲSY式通風暗幕ヲ設置ノ意）

SY式通風暗幕



完全ナル防空遮光裝置トハ健康生活ノ第一要件デアル、新鮮ナル空氣ノ流通ガ充分出來得、然シテ完全遮光ノ目的ヲ達シ、尚ホ取扱ヒガ簡單デ、操作輕快耐久力ガ强ク、且ツ經濟的デアラネバナリマセン之等ノ點ニ留意シテ裝置ニモ種々ノ工夫ヲ凝シ材料ノ選擇ニモ研究ヲ重ネテ完成サレタノガ本SY式通風暗幕デアリマス

佐藤式通風捲込暗幕

引紐型、スプリング型等の兩様ありて一般の捲込暗幕に遮光完全なる通風孔を具備し、換氣の用を爲すと共に風壓を除き幕布のガイドレールよりはづれることを防ぎ最も衛生的にして全く理想の遮光幕なり。

塵埃、腐氣、熱氣等の多き工場、換氣の大切なる病院等には特に此れを推奨す。

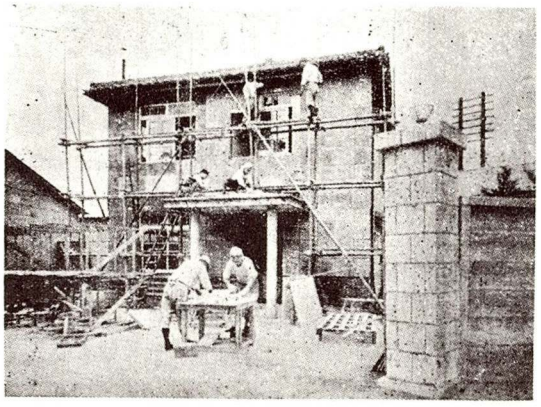
佐藤式ロールスクリーン

（自動虫除巻網戸）

單に虫除の用を爲すのみならず暗幕との併用によりて曝風による窓硝子の破片よりする危險を防ぐ大切なる役目を爲すものにして當社は我國に於ける唯一の製造所なり。

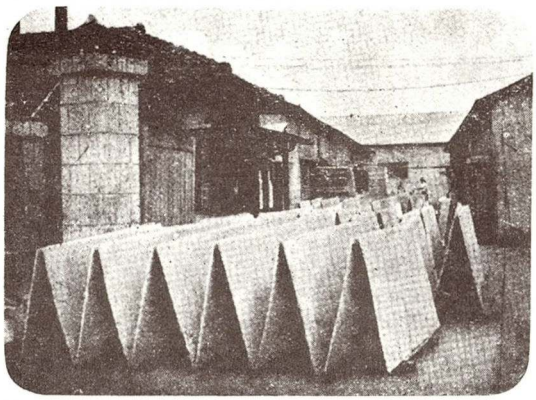


經ブロツク



近代建築材料の研究進歩は一日と雖も休止することはない。今日の優秀品は明日の優秀品ではない。それには眞劍な技術者の不斷の精進努力が絕えず要求される。殊に「木と紙と藁」とで出來上つてゐると言はれる我が國の建築物は、防空的見地から殆んど言ふに足りない。幼稚極まるものであるだけに、我が國の技術者に期待される點が甚だ大きい。政府では、國際的緊迫の狀勢に對處すべく我が國の木造集團都市を耐火、耐爆の理想的都市に改裝建設せしむることに決し、本年より實施の取締規則を發令した。この理想に最も適ふものは鐵筋**コンクリート**造りにすることであることは言を俟たない。然し六大都市だけを目標に考へてもこれに要する鐵材は、二千萬噸、その金額は實に百五十億圓の巨額に達する。こゝに我が國技術者の奮起が要望され、その結果、近代材料として最も簡易に、防火の目的を達し且つ經濟的に新裝を完成せしむる性能に於て、理想的にして時局下必須の建材「**輕ブロツク**」の誕生を見たのである。而も斯界の權威によつて確證された優秀品である點において建築界に誇示して然るべきものと信ずる。重要物資統制下に建築資材の逼迫せる今日、潤澤なる原料に依つて豊富に需要に應ずる準備は全て完備して居ることを敢へて各位に申上げ御期待に副ひ得ることを確信して居る次第である。

長期建設の時局下に不撓の研究が齎らせる**セメント**製耐火、耐水の最も輕量にしてまた强度大なること絕對に他品の追隨を許さぬ特徴を有する優秀品が生れた。即ち特殊輕量**セメントブロツク**である。製品は當社の耐火纖維板**パルテキス**と**スラグウール**抗火石等へ**ポートランドセメント**又は**マグネシヤセメント**等を適度に合成壓搾をなし所用の**ブロツク**として硬化結合せしめた理想的不燃性、輕量强度絕大なる上、加工容易現場作業に適し、切斷釘打等は木材加工に等しく工作なし得る。體裁は**リシン**仕上同樣なれば表面に何等の仕上を要せず場合に依り研磨して滑澤なる表面を得るも易く彈力に富む故屋根材として最適なり。運搬或は加工中に破損等の虞なし。張付は釘付に適し**セメントモルタル**及**アスフアルト**等自由に使用出來る。目地は特に弊社獨特の考案になれる凹形のものあり、**パテ**其他如何なる目地材を用ひるも可なり。特に御設計に際しては適當の試案資料等を御提示申上ます。



パルテキス

特徴と用途

1.弊社製造の**パルテキス**は、他に類例を見ない獨特の理想的纖維板であることは今更喋々を要しないのでありますが、良質の針葉樹から作製された纖細な木毛に、特殊セメントと藥品を浸透させて强壓を加へ、充分に硬化乾燥した上、全く普通の板と變りのない纖維板として市場へ提供しております。その强靱性に富み、耐火、耐水性の强大なことは、特に弊社の誇りとするところであります。

2.耐火性が强大でありますから、内外裝飾または下地材として理想的で、最も安全であります。直接火焰に接しても焰を上げて燃えるといふことがありませんから、工場、劇場、映畵館等公衆の集合する大建築物などは、防火的見地から必要缺くべからざるものと云ふことが出來ます。

3.熱の絕緣効力が頗る良好ですから冷藏庫の低溫保持、またこの反對に乾燥室の高熱保溫に使用されます。更に衞生的な方面では病院療養所に使用致しますと、寒暑を避けることが出來、保健上最適と云ふことになります。

4.この**パルテキス**は多孔的組織で防音効果も絕大であります。學校、音樂室、劇場、集會場などの吸音、遮音に役立ち、騒音の解消に頗る効果的であります。

5.更に本品の特徴は輕量、强力、耐久と三拍子揃つてゐる上に、加工が容易で鋸、釘などを用ひて自由に施工が出來、しかもやわらか味のある建築美を發揮するといふ點にあります。また各種の塗料に依て化粧することも可能であります。

6.運搬が容易で破損の虞れは殆んどありません。何れの點から見ても建築材料として申分のないものと確信して居ります。

櫻組化學工業株式會社建材部

營業所　東京市日本橋區蠣殻町一丁目六番地
電話　茅場町（66）1913・3603
工場　東京市王子區稻付町一丁目二一六番地
電話　赤羽288

防火浸塗劑セロン

本劑は最新の學理に基き研究完成されたる結晶狀の白色粉末にして之を水に溶解し、木、紙、織物等に浸塗せば悉く之等を不燃性ならしめ以て絶對に引火せしめぬ偉大なる性能を有す。故に一般建築界は勿論、あらゆる方面に廣く應用され、殊に彼の爆撃或は地震によりて起る恐るべき大火も本劑の偉力と普及によりて未然に災禍を防禦根絶し得べし。

本劑の用法＝本劑を清水に溶解せば無色透明且つ無臭の溶液となる、之を木材、紙、織物等（總て植物性纖維）に注入、噴霧又は塗布して充分內部へ浸透せしめ、後完全に乾燥せば被加工物は毫も着色或は變質する事なく、且何等の痕跡をも留めずして原狀のまゝ完全に防火力を保有するに至る。而して本劑は被加工物の表面に膜面を形成するものに非す（この點ペイント類とは全く異り）纖維の組織中に普く浸入して完全なる防焰力を與へ組織そのものを不燃性ならしむるものなり。

セロンの特長

(1) 消火劑と異る點　本劑は出火發見後使用するものには非ず。すべて可燃性物體を不燃性化して積極的に發焰不能ならしめ、以て火災の根本を豫防根絶する唯一の自力防火劑なり。

(2) セロンの防火作用　本劑を完全に加工したる物體は、火焰に襲はるとも毫も發焰する事なし。たとへ直接火焰に接するとも局部的に炭化するのみにて其後は如何に加熱（又は火焰に直面）せらるとも決して發焰せず、從つて他に延燒する虞なし。

(3) セロンの効力凡そ二十ケ年　セロンが纖維の組織中に構成する宿合體の持續性により本劑の防火効力は殆ど永久的と稱し得。是セロンの誇なり。

(4) セロンは吸濕性に非す　セロンには吸濕性の主劑（硫酸アンモニヤ等）を配合せず、故に加工乾燥後は如何に時日を經過するとも濕氣を呼ぶ憂更になし。而して防火性能の外更に其成分中に有効なる防虫、防腐の効力を兼有す。

セロンの使用法

先づセロン粉末を清水中に投じ靜に攪拌せば容易に溶解して透明の溶液となる。（冬季は微溫湯を用ふれば溶解速なり）之を目的物に充分滲浸吸收せしめ、後徐ろによく乾燥せしむれば足る。

加工法（イ）藥液注入法一主として木材の場合。（ロ）浸漬法一被加工物を溶液中に浸す法。（ハ）塗布又は噴霧法一刷毛類にて塗布するか又噴霧器にて撒布吸收せしむる法。以上いづれによるも差支なく、又乾燥法も自然人工いづれによるも可なり。（併し强烈なる日光乾燥は避くるを宜とす）

尙目的物に充分浸透せしめ徐ろに乾燥し、半乾きの狀態となりたる時、更に攝氏50度乃至100度の範圍に於て1.2時間連續的に加熱乾燥せしむるを得ば最も理想的にして効果一層顯著なり。

發　賣　元

伊藤元商店

大阪市浪速區藏前町難波ビル
電話戎七三〇六番
東京代理店　廣瀨商會
東京市麴町區丸ノ內二十一號館
電話丸ノ內四八六六番

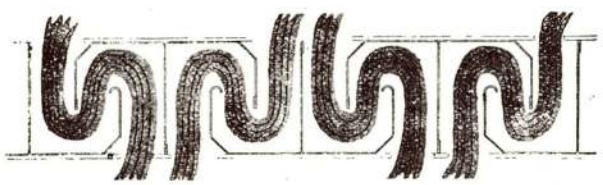
防空資材誌上展覽會

特許 OM式防空遮光換氣裝置

近時我が國に於いても防空法が發令せられ、時局多端の折柄全國民は防空施設に萬全を期すべき秋になりました。就中空襲時夜間作業に於ては、絶對に光線を外部に洩らす事を許されぬが故に、光線の遮蔽を圖つた建物全面を密閉するが如き非科學的な方法に據る事なく、最も安全に最も能率的に平時同樣に作業を繼續し得る設備を有するのがOM式防空遮光換氣裝置であります。

特徴及性能

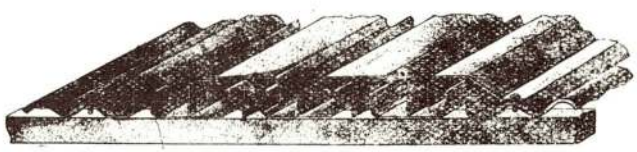
特許OM式防空換氣裝置にはA型 B型C型の三種類あります。A型外部竪羽根、內部竪羽根及遮板より成り、通氣路は左右兩端に通ずる構造にして、如何なる方面の外氣誘導作用を圓滑ならしめて間斷なく內部の惡氣を排出し然かも光線は完全遮斷される裝置になつてゐます。



B型C型も同樣科學的に考案され光線の漏洩を遮斷し風雨の逆流をも絶對に防止し得られます。B型C型の圖解あり設計用の詳細な型錄は御申込次第御送附致します。

特許 OM式防空換氣屋根裝置

OM式換氣屋根裝置はベンチレーター・ガラリー等の如く局部的換氣に非ず、屋根全體より換氣爲し得らるゝが故に、外氣流の誘導作用が增大して室內の惡氣は瞬時も停滯する事なく完全に排氣され、換氣能率は忽ち倍加されます。然かも遮光極めて完全にして上空より見た場合も絶對漏光の慮なく防空上事全を期し得られるものであります。



オリエンタルメタル製造所

本社及工場　兵庫縣尼ケ崎市・電話尼崎736・1446番
東京出張所　東京市日本橋區通二丁目大同生命館・電話日本橋715番
東京工場　東京市蒲田區新宿一三五八番地
廣島出張所　廣島市袋町六富國館三階・電話廣島2245番
海外出張所　カナダ・バンクーバー市・リチヤード街1396
鮮滿販賣所　朝鮮（靑木商會）・滿洲（福昌公司）



日滿特許「旭　暗　幕」に就て

空襲の恐るべく其慘害の甚大なる事は今更申上げる迄も御座ゐません。

ひと度空爆を受けんか、其の被害は唯に其所有者の損害のみならず實に國家の損害と申さねばなりません。

敵機の空襲を防ぐ爲に完全なる燈火管制を行ふ事は防空施設中最大の要件で、而かも就業執務に何等支障なき事を必要と致します。

然るに從來の暗幕設備は防空演習の際申譯に一時的施設を爲すに不過、誠に不用意不完全と申さねばなりません。事變下殊に國際關係の複雜なる時局に際し、完全なる暗幕を常備する事は刻下の急務と存じます。

旭暗幕用レールは從來取付困難とされたる工場竪窓、天窓、用を始め一般家庭用の輕便裝置に至る迄凡ゆる採光窓の暗幕に應用し得る完全且廉價な製品で御座ゐます。

A型旭暗幕用　レール	大工場竪窓、天窓、陸屋根採光窓、側窓用
B型旭暗幕用　レール	廳舍、社屋、學校、病院等大建築の側窓用
C型旭暗幕用　レール	病院、商店、一般住宅用（手引式）
D壹號型旭暗幕用金具	大工場側窓、嵌殺し、竪窓、引違ヒ竪窓用
D貳號型旭暗幕用金具	中小工場用として輕便にして廉價なるもの
E型旭暗幕裝置	大工場鋸屋根窓、連續捲取用
F型旭暗幕裝置	工場竪窓、側窓、連續輕便捲取用
G型旭暗幕裝置	側窓（ガイドレール及ケース付）捲上用
H型旭暗幕裝置	側窓輕便捲上用

以上の製品を以て如何なる窓にも完全廉價に防空暗幕を常備し得られます。猶弊社は防空暗幕の專門店として、廿數種の特許・優秀なる技術者を有し新規御施設は勿論在來御取付の物の改造をも責任を以つて設計施行致します。

旭暗幕株式會社大阪出張所

大阪市西區南堀江上通三丁目四十二番地　電話櫻川㊸六九一五番

本　社　東京市京橋區京橋一丁目三番地
電話京橋㊻二四五一番・七〇八九番
工　場　東京市葛飾區本田澁江町六九六番地
電話本田〇七四五番

出張所　名古屋市東區東二葉町三十八番地
電話東④八六三二番
臺灣高雄市堀江町四丁目三十九番地
電話三〇三三・三四五二番

防空資材誌上展覽會

スレート屋根・コンクリート外壁用
防空迷彩・塗裝材料

セイコーコート

「セイコーコート」はアルカリ性無機物を主材として之れに特殊硬化促進劑鑛物顏料等を混和、化合して短時間に天然石の如き硬質の皮膜を作ることを特長とする無濕水硬性ペイントであります。然して其の塗膜は耐水、耐火、不變色にしてあらゆる下地に密着硬化する偉大な特徵を有して居ります。特に今時痛感せらるゝ防空色の塗裝材料として、海軍省管下を始め各種大建造物に御採用の光榮に浴して居ります。

1. 粉末劑で單に清水を加へ混捏すれば使はれます。
2. 氣候風土に影響なく、何等でも塗裝出來ます。
3. 防水防火性極めて强大です。
4. 耐久性は普通ペイントの比に非ず、時日の經過と共に自然に硬度を增進します。
5. 價格至廉、着色自由、金屬以外何れへでも塗裝出來ます。
6. 使用原料全部國產品にして多量の需要に應じられます。

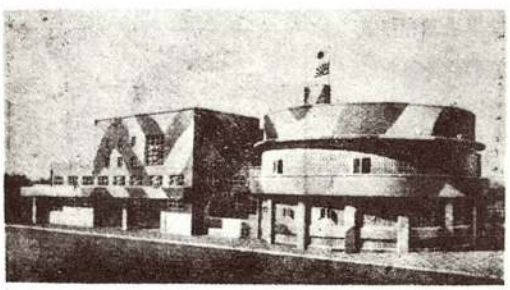
セメントモルタル、コンクリート等の外壁一般、スレート、セメント瓦、屋根瓦、タイル、煉瓦、テラカツタ面塗裝に、又防火塗料として工場建築物等の各木部に、モリノイト盤、ヘキタイト、コルカ、等の從來市販のペイントで、アルカリに蝕され塗裝困難な資料に特に好適します。

又、防空、迷彩スレート(カムフラージユ)用として最適のものであります。



御採用先・海軍省管下建築部・朝鮮鐵道局其他

色種6色・型錄進呈



朝日新聞小倉支社

發賣元

株式會社 **清光社防空部**

大阪市東區橫堀四丁目五〇
電話本町 {1089番 / 8555番

工場 大阪市旭區生江町三七一
電話堀川5778番

防空資材誌上展覽會

化工式
毒瓦斯濾過裝置
（濾函）



本濾函は防空壕、避難室、救護所等に取付け、毒瓦斯を吸收も濾過して清淨な空氣を供給する裝置で、凡ゆる點で卓越せる性能を備へて居ります。



防空用防毒面
團用一號甲

防空第一線で活躍する擔任者に最適で、弊社獨特の優秀品であります。

優秀 昭和化工の 完全 防毒具

內務省御檢定濟
專賣特許・實用新案



防空用防毒面
團用 二號甲

一號甲と共に相當濃度の毒瓦斯中でも活躍する防空第一線用で、又本品は婦人の使用にも適します。



持久性瓦斯檢知劑
之により最も簡便に持久性瓦斯の有無を檢知し得。

救急函乙型
瓦斯傷害、其他外傷、火傷の應急治療用として必備品。

防空用 防毒服

防毒、消毒、瓦斯檢知等の場合、特に糜爛性毒液の防護に是非とも必要です。





弊社製品獨特の長所

- ○我國民間に於ける唯一の防毒具研究製造專門會社
- ○數種の專賣特許、實用新案特許を得たる精巧完全なる優秀品
- ○檢定規格に對し多くの餘裕を以て合格
- ○供給力著大に付配給圓滑納品迅速

營業種目

防毒面（各種）眼鏡（各種）防毒服、防空用濾函、瓦斯檢知器、救急函、試臭器其他防毒具一式、各種化學用品、覆面氣密檢查機吸收纖氣密抵抗檢查機、其他器具類

東京、王子、袋町 **昭和化工** 代表電話（大塚）3147 3148 3149

石原産業海運株式會社

設計・村野建築事務所　施工・清水組



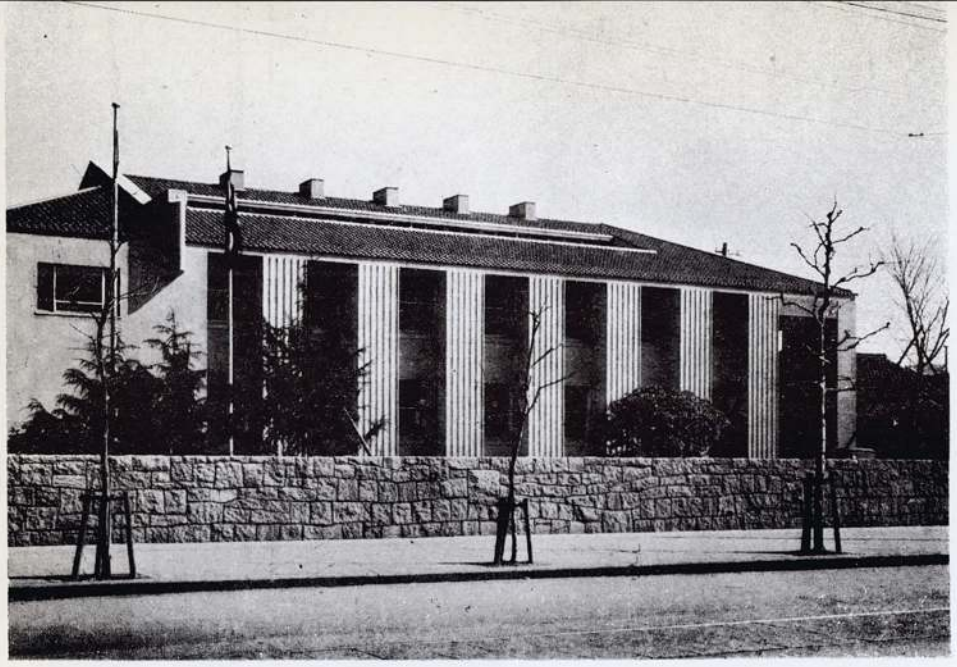
建築面積

本館附屬家

	坪	坪
地　階	232.47	37.04
1　階	232.47	37 04
2　階	215.84	37.04
屋　階	55.00	
延面積	735.78	111.12
總延坪	846.90	

建築材料

門柱及塀　由良亂石積
外　裝　屋根　鹽燒日本瓦(赤褐色)
　外壁　ストンブロック
事務室　天井　プラスター仕上
　獨立柱特製オークベニヤ張
會長室　天井　プラスターオイルペンキ塗
　壁　ウオールナットラック仕上
同應接室　天井　プラスターオイルペンキ塗
　壁　特製クスベニヤラック仕上
重役室　天井　プラスターペンキ、コツフアリング付
　壁　特製朴ベニヤラック仕上
主要階段室　手摺　ステンレスパイプ、磨ワイヤ硝子入。踏面はリノタイル
　巾木　蹴上及獨立柱は大理石
　天井　プラスターオイルペンキ
　壁　特製朴ベニヤラック仕上
構造　外壁は無筋コンクリート
　内部主要構造は木造ラスモルタル塗、高壓蒸氣煖房設備



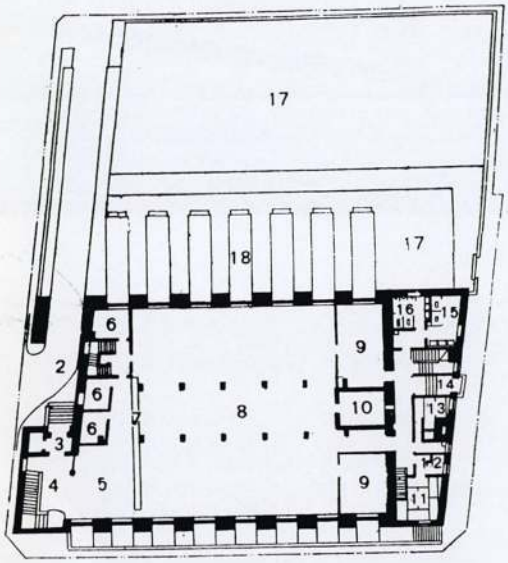
西側外觀

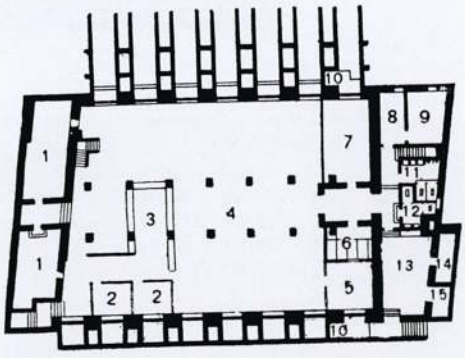
一階平面（下）說明

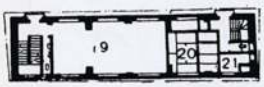
1. 車道
2. 車寄
3. 風除室
4. 玄關廣間
5. 客溜
6. 應接室
7. カウンター
8. 事務室
9. 部長室
10. 書庫
11. 宿直室
12. 浴室
13. 小使室
14. 裏玄關
15. 女子便所
16. 男子便所
17. 芝生
18. スロープ
19. 事務室
20. 婦人室
21. 臺所

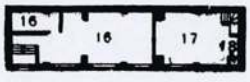
地階平面（下）說明

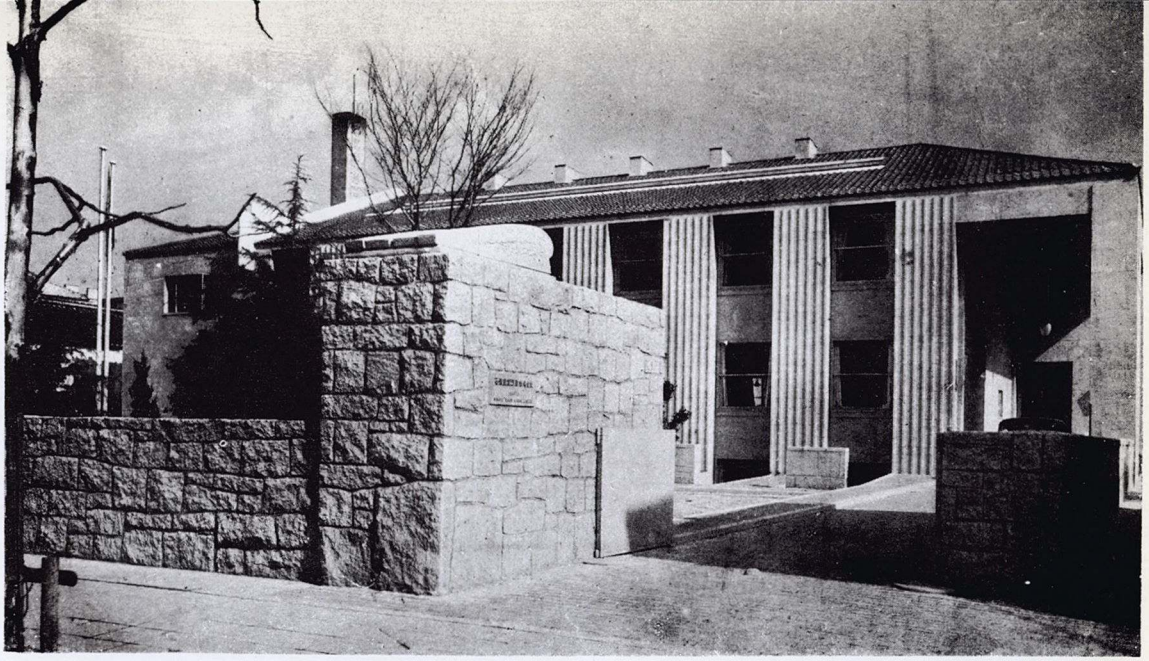
1. 書庫
2. 應接室
3. 客溜
4. 事務室
5. 部長室
6. 女子更衣室
7. タイプライター室
8. 物置
9. 電氣室
10. ポンプ
11. 男子便所
12. 女子便所
13. 汽罐室
14. 石炭庫
15. 雜庫
16. 倉庫
17. 厨房
18. リフト



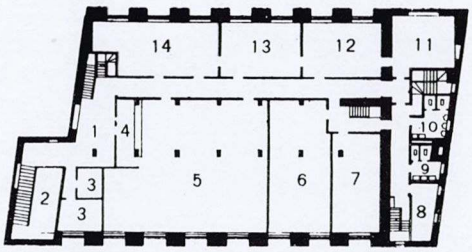


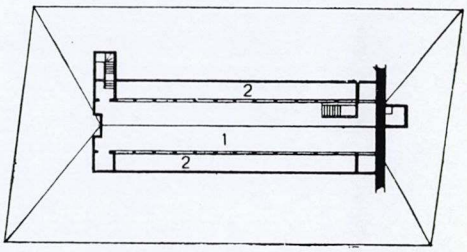


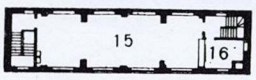




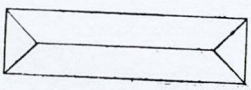
門







二階平面



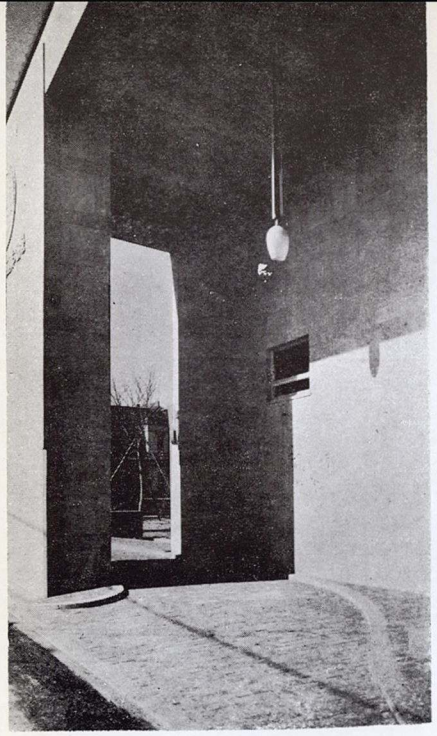
屋階平面

二階平面説明

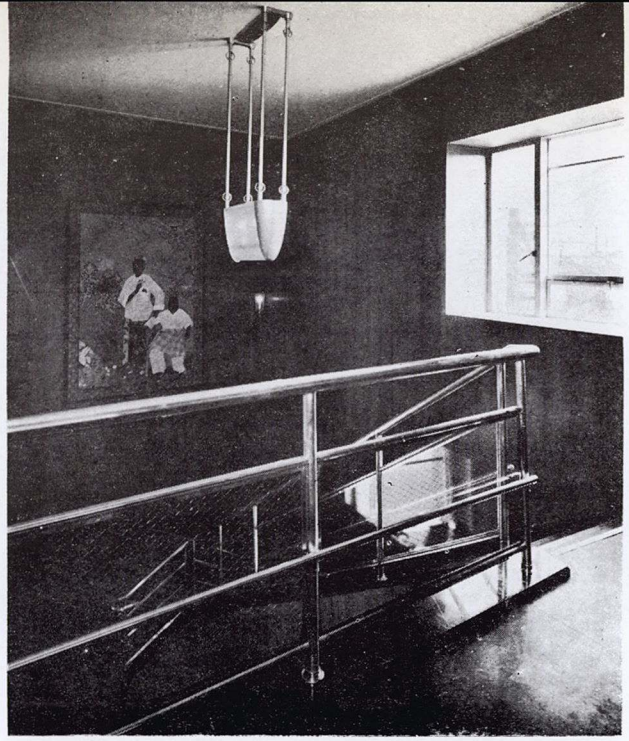
1. 廣　　間
2. 吹　　抜
3. 應　接　室
4. 客　　溜
5. 會　計　室
6. 人　事　室
7. 秘　書　室
8. 電話交換室
9. 女子便所
10. 男子便所
11. 會長應接室
12. 會　長　室
13. 重　役　室
14. 重役應接室
15. 食　　堂
16. 配　膳　室

屋階平面説明

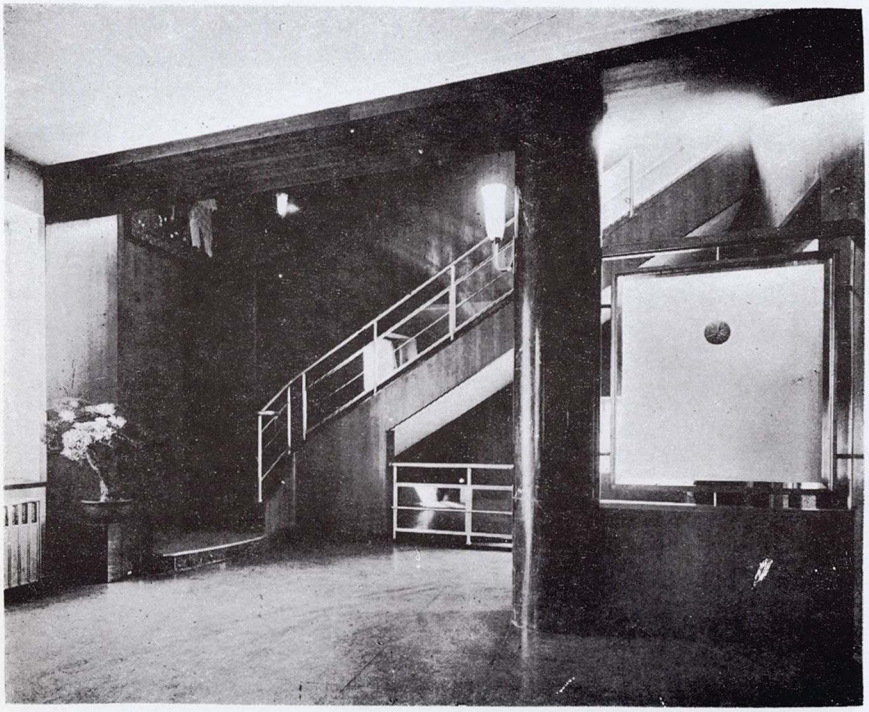
1. 物置（會議室）
2. ライトエリヤ



玄關詳細

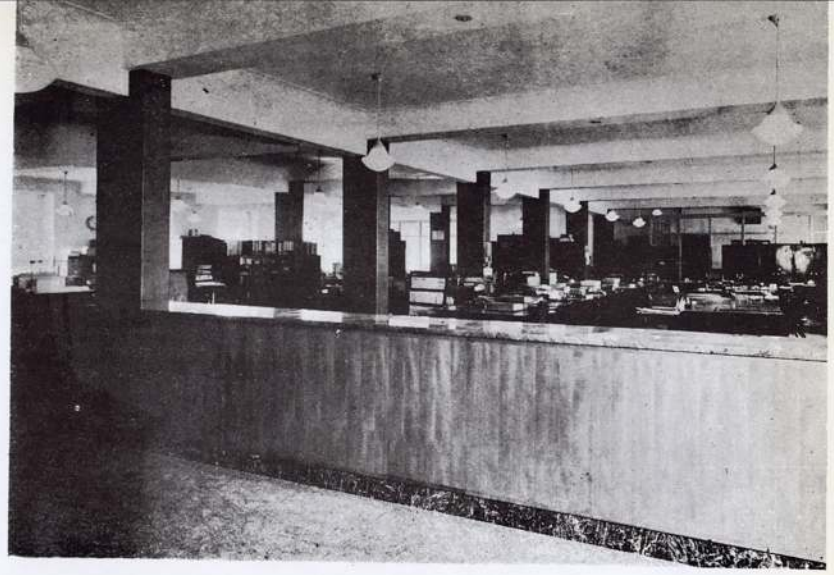


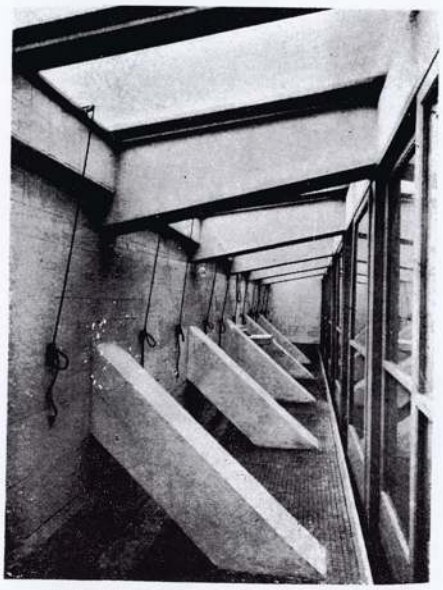
二階々段室



玄關ホール

事務室





會議室ライト・エリヤ

石原産業海運株式會社

設計・村野建築事務所

施工・清水組



會議室



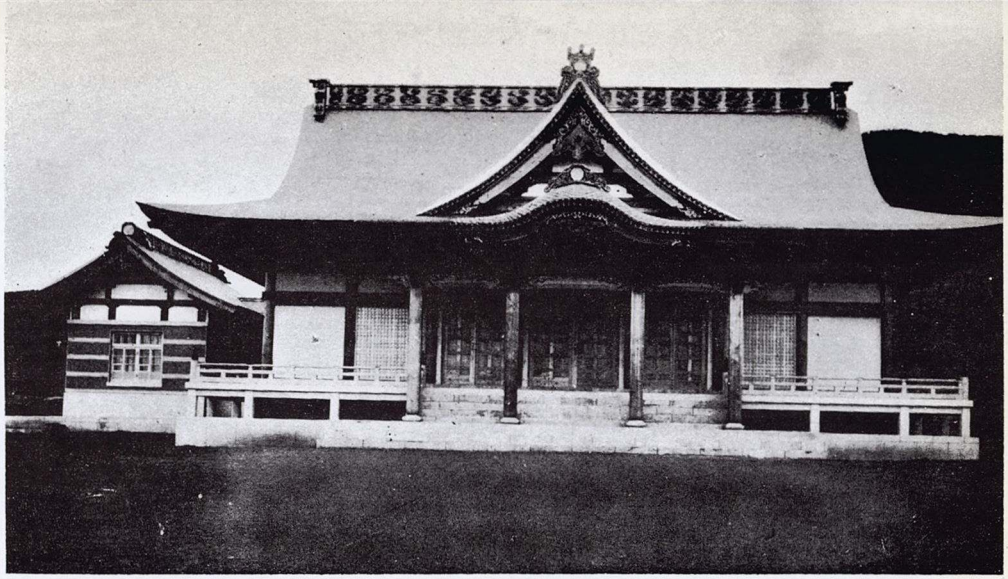
會長室

石原産業海運株式會社

設計・野村建築事務所・施工・清　水　組

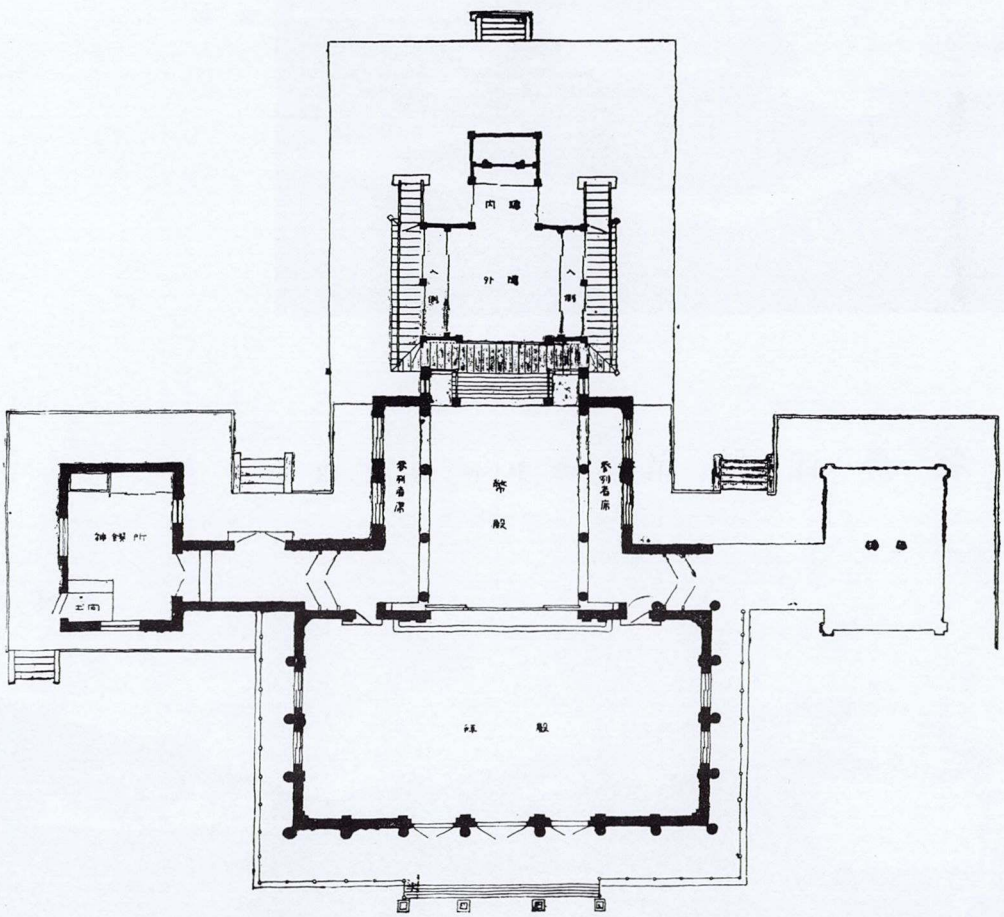


重役應接室

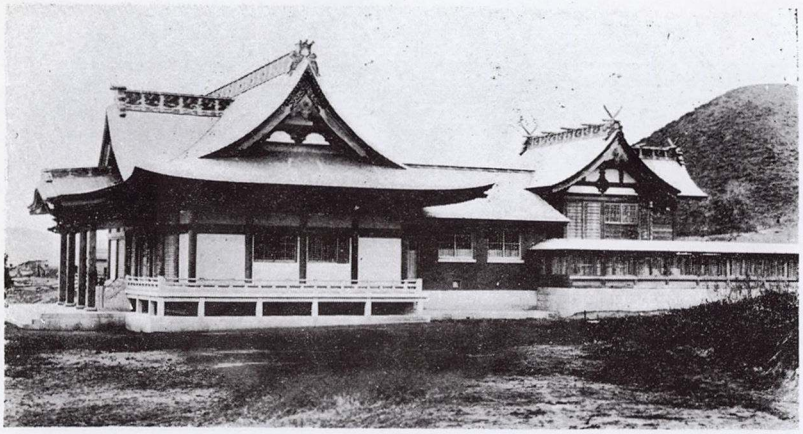


正　面

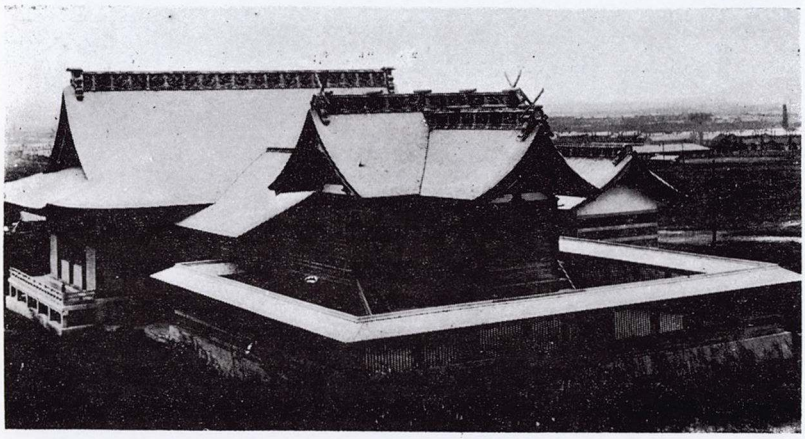
牡丹江神社　設計・伊藤文四郎



平面圖



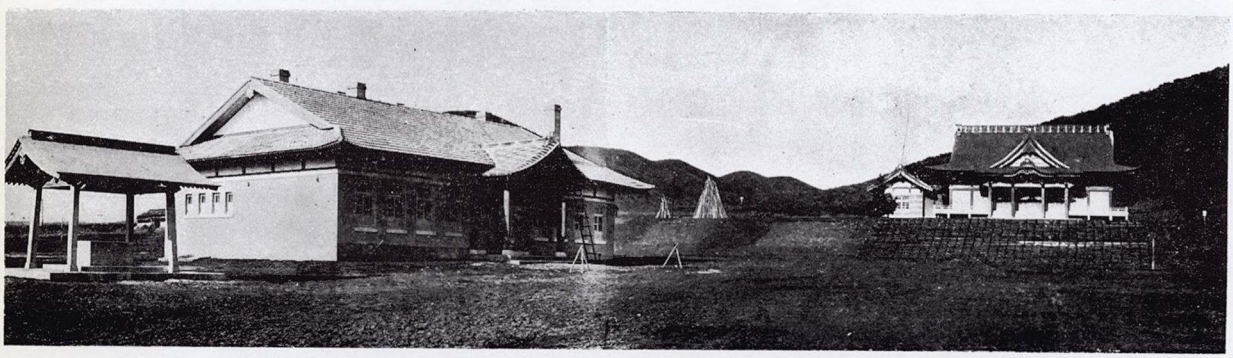
側面

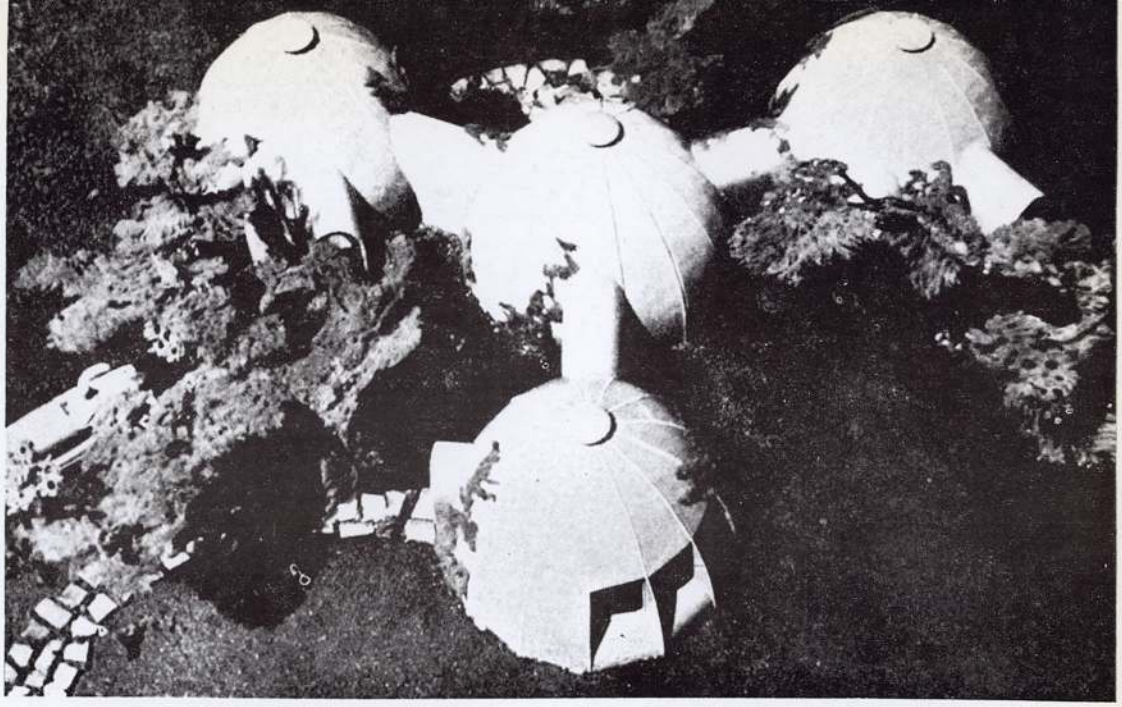


背面

牡丹江神社　設計・伊藤文四郎

全景遠望





アメリカに於ける防護建築の一例

"MARTIN WAGNERの家"

工場製産が出來、大きさに融通性があり一見エスキモー人の住居の如くデザインされ空襲其他あらゆる災害からの防護を考へられた鐵製の "Martin Wagnerの家" に就て述べる。

設計者 Martin Wagner は、ハーバード大學教授であり一時はベルリンの都市計畫に參與し歸米後永く家屋の大量製産に關する問題を熱烈に研究した革新建築家であり、彼がこの防護建築に示せる所は、從來此の種建物に行はれて來た如き方法に拘捉されることなく、大量製産による建築費の低廉と、新しきデザイン、構造、配置、經濟的な住居機能の諸點を持つてこゝに示せる如き家屋として出現したのである。

1 目 的

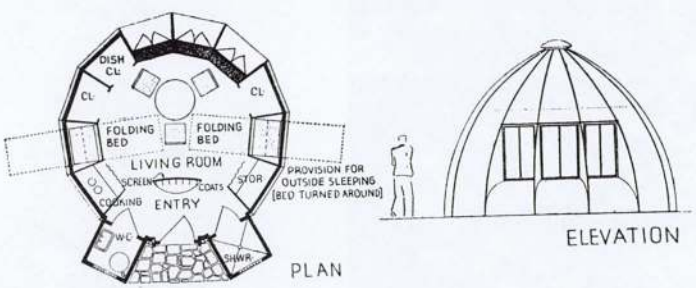
"MWの家" は本來地震の屢々起るトルコ地方に適する如く計畫されたのであるが設計者は眞の防護家屋を完成すべく努力してゐる。

又設計意圖に於ても在來の建築的陋習を打破して設計者の意志を充分に發揮した、卽ち

1 建築費の低廉
2 大量製産
3 家族數に依る伸縮性
4 近代人の趣好に合致する移動性
5 地震、風雨、火災、空襲、砂塵、操音、寒暑等に對する防護
6 採算の立つ點

等である。

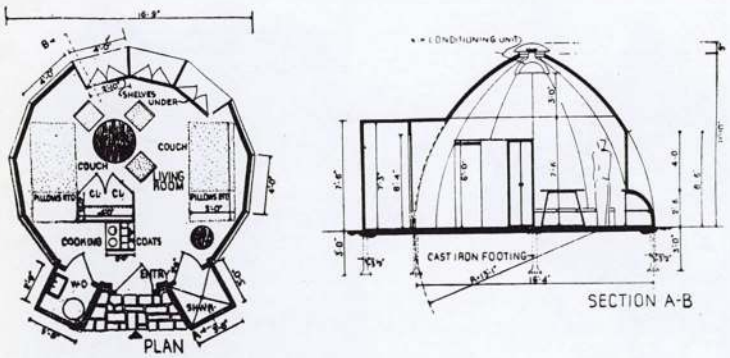
第1圖及第2圖は "MWの家" の基本單位にして小さな化粧室、シヤワーが取付けられてゐる、十三面の圓錐形の家屋である。圖には基本單位の平面を變化する事無く寢臺を、內部居室に倒したり戶外睡眠用として外部にも倒し得る事を示してゐる。



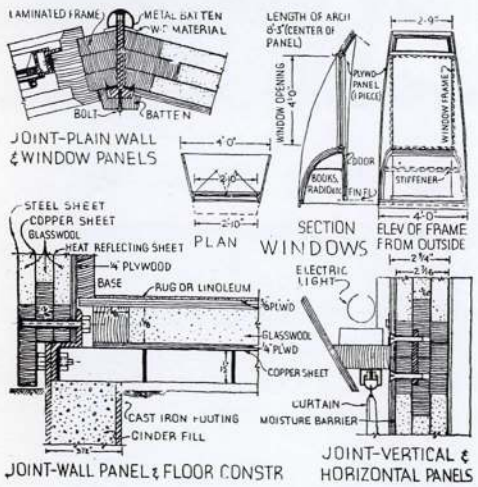
•1• "MWの家" の基本形 (I)

2 計 畫

最小周長で最大面積を得るために圓形平面が採用され、そ



・2・ "MWの家" の基本形 (2)



・3・ "MWの家" の詳細

の上部を壁體兼用の絶緣鋼鐵パネルで圓錐形又は半球形に包圍してゐる。此の形は壁體自身が強い構造體であり鋼鐵パネルは簡單に廉く造られる。

完成した家屋は圖に示せる如く高さ11呎10吋直經16呎9吋である。

外觀はエスキモー家屋や土饅頭の如き單純なる形態をなしてゐるが自動車の流線型と一脈相通じてゐるとも考へられ面白くもある。

基本單位家屋に入れられるものは最小限2人家族に必要な家具卽寢臺2、椅子3、テーブル1、押入等で其他シヤワー、化粧室等は附屬家に含まれてゐる。

一旦大量生產の過程に達すれば設計者は附屬家具を除いて一棟670弗位で購入出來るものと豫想してゐる。

使用家族數の增加に對しては寢室の增加を計り得、獨立した厨房、浴室遊戲室研究室單位を購入する、又家族數の減少に對しては不用室を賣却することに依り "MWの家" の一つの特色を發揮し得る。

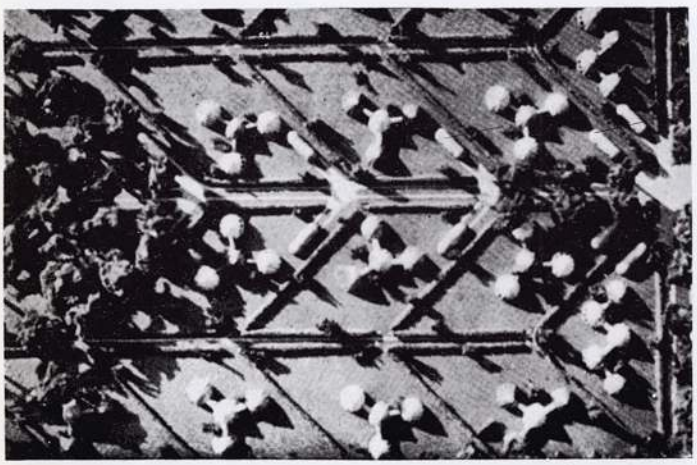
3 反駁論

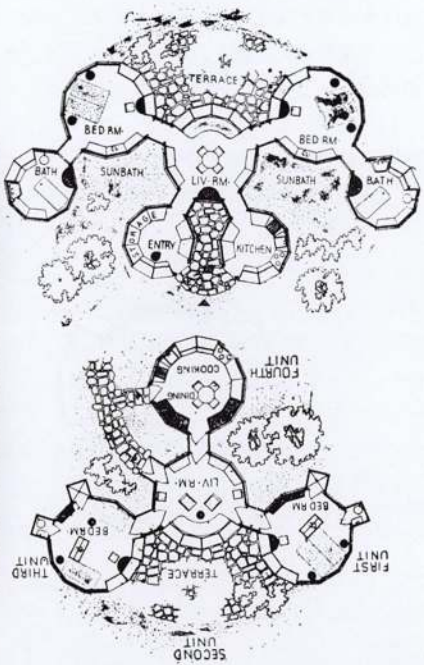
餘り構造方法が單純で在來の家屋と風變りで實際に使用した人の無い爲めに次の如き批判が生じて來る。然し設計者は、次に擧げる諸議論を痛烈に論駁してゐる。

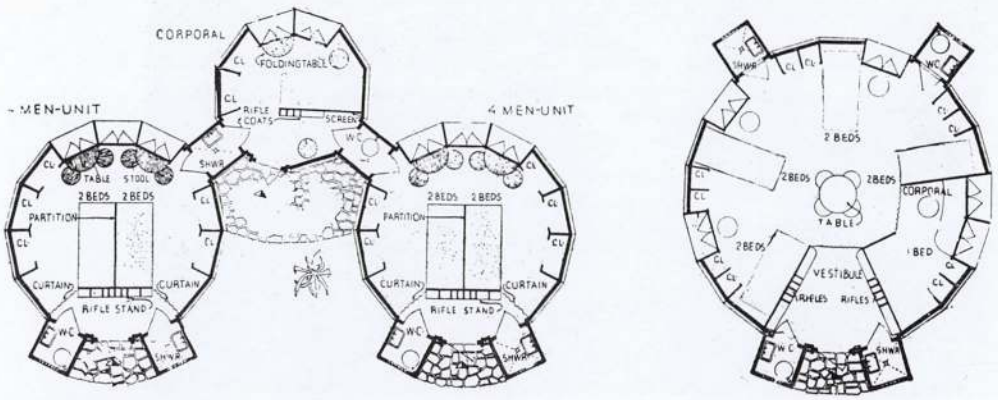
A 既成家屋は使用者の趣味に合致しなければならない然るに大衆はエスキモーの如き家屋形態に興味を有しないであらう。

これに對して趣味は容易に變化せしめ得るもので

・4・ "MWの家" の組合せ







•5• 軍隊用に採用した "MWの家"

ある。更にこの様は議論は現在の住宅に住み得る比較的小數な家族のみが實際に云つてゐることであり、大多數の家族は若しも "MWの家" が現在の住宅と價値が同等で價格が半分で作れ得るとすればこの家を購入するであろう。

B "MWの家" の大量生產は當家屋の製產者以外の多くの製造業者、商人、建築家、勞働者の附隨せる建築工業を破壞するであらう。

これに對して、"MWの家" が低收入者に求められる後は、反つて其製產行程を增加しなければならないであらう。卽ち多くの新しい仕事が生れ單位家屋が前述の如く使用期間が短いとも云ひ得るので其需要は更に增加すると思はるからである。

C 低收入者は土地代さへも拂へないのに一室670弗の家を、3.4單位一時に購入することは經濟的不可能でないだろうか。

これに對して設計者は或種の組合を作ることに依り解決さるものとしてゐる。

第四圖說明 繋ぎ廊下單位で基本單位を連結すれば如何なる大きさの家も造り得らるが餘り大きくなれば從來の設計構造に依る建築費よりも高くなることゝなる。

結論として明白に "MWの家" は基本單位一個の時に最小建築費となり、更に面積55×40呎以上の家となれば通常の在來の約25×3呎部屋四室の家より多くの敷地を必要とする。

これは、"MWの家" の分數的計畫が防空と家族數の變化に依り變形する爲めである。鳥瞰圖は菱形の區劃に四室の "MWの家" を配し繭形に見ゆるのは自動車のガレージである。

第五圖說明 圖は軍隊用 "MWの家" にして費用の點で興味深いものがある。

(A) は分隊長室と八人の兵隊を收容する二棟の室よりなる大變贅澤なものである。

(B) は經濟的に一室にまとめたもの、各室には、換氣採光が充分で浴室と多くの押入が準備されてゐる。

4 長 所

更に此の家は多くの推薦すべき特色を有してゐる。

i 据付は全建築費の內僅か5—10%のみで3人が8時間で基本單位を造り得る。

2 ボールトされたパネル構造、更に鑄鐵製柱脚床下の鋼鐵製格子は100%の完全なる結合をなし得る。そして2.5噸の基本單位は一臺のトラックで運搬することが出來る。

3 "MWの家" は最少の影を投ずる圓錐である爲めに容易にカモフラージユ出來總ての條件に對して防禦し得る。

又爆彈の爆發に破損されない彈力性を有し燒夷彈は圓錐形の鋼鐵面を滑り落ちて用をなさない。

4. 各室の小尖頭內にある換氣裝置は放熱と換氣を具合よく行ふ。

竪樋及び橫樋は不必要で只電氣給水、排水の三つのみが必要なだけである。

5. 此の家は一般に如何なる氣候、地方にも適する故輸出も可能である。

6 簡單な機構は低收入の都會及近郊の家族の家に通ずるばかりでなく軍隊のキヤムプ、子供の夏のキヤムプ週末休養用、移動勞務者用のキヤムプ等にも使用し得る。

(The Architectural Forum Feb. 1941)

塚本・上田抄



•1• カリフオルニヤ、ユバ市

アメリカに於る農場經營の一つの傾向

Farm Security Administration (F.S.A.)

1937年に創立されたF.S.A.はワシントンを中心とし12の地方に別れて活動を行つてゐる。その目的とする所は結局農耕者の永久自治であつて　こゝにその建築關係の現狀を紹介する次第である。

最初の大局的な計畫と最後の計畫決定と積算がワシントンで行はれ、建築意匠と普通計畫と施工とが地方で個々に取扱はれてゐる。この事は建築物をその土地の諸條件に適應させるのに好都合である。

F.S.A.は最近5個年間に最少限住宅の問題等も解決し、家屋を速く安價に建てることに成功した。しかもその意匠は、何等在來の家屋の制肘も受けず、政治的制御をも蒙らず、清新さと創造性とをよく示してゐる。

1 Migratory Labor Camps

最初に示すのはカリフオルニヤ洲のユバ市の計畫である（第1圖）。手前に84家族を收容し得るアパートがあり、その向ふに284組の移住家族用のキヤンプを配しその間に公共施設を設けてゐる。これは F.S.A. の計畫の標準型である。

移動キヤンプについて說明すれば次の通りである。各戸住宅では木の臺の上にテントを張り、事務所、診療所洗濯所等の公共施設は恒久的構造とし、動力としての發電機、ボイラーは各々一單位となつて何れも移動し得るやうになつてゐる。

他の例では移動キヤンプをより剛强にするために、稜を付けた金屬板を建物の外裝に用ひてゐるものもある。

第3圖に於て

1. 並列した宿舍、各棟六家族
2. 中央公用建物、シヤワー、洗濯場、乾燥廣場
3. 隔離病院
4. 診察醫療所
5. 浴場、倉庫、事務所
6. 集會場
7. 管理人住居
8. 集合住宅
9. 家庭作業場及洗濯場
10. 農　場
11. 農業用建物、搾乳所其他
12. 使用人用建物

第3圖の模型によつて、F.S.A.の意圖する所の移住民計畫が明らかに說明されてゐると思ふ。前述のユバ市で用ひられた家族用アパート（第2圖）が此處でも用ひられ、更に各棟6家族收容の移住者用宿舍が配列れてゐて、これがこの計畫の根幹をなしてゐる。公共用及び農業用建物が兩者に便なるやう置かれてゐるのに注意すべきである。

家族用アパートはその兩端に寄宿室を持ち、未婚農夫の居住に當てられてゐる。構造は Plywood を主體とし、內部は Plaster boord 外部は油性塗料を用ひた米杉材と



•2• カリフオルニヤ、ユバ市　家族用アパート

Plywood を使用してゐる。通風のために寝室間には引き戸を用ひて居り各棟兩端の持出部分の下は子供の遊び場、洗濯場、湯沸場となつてゐる。

2 Chandler Farms, Arizuna

Chandler Fanns は移住家族のために計畫されたもので 350 エーカーの土地を利用してゐる。こゝに特記すべきものは新しい住居形式である。

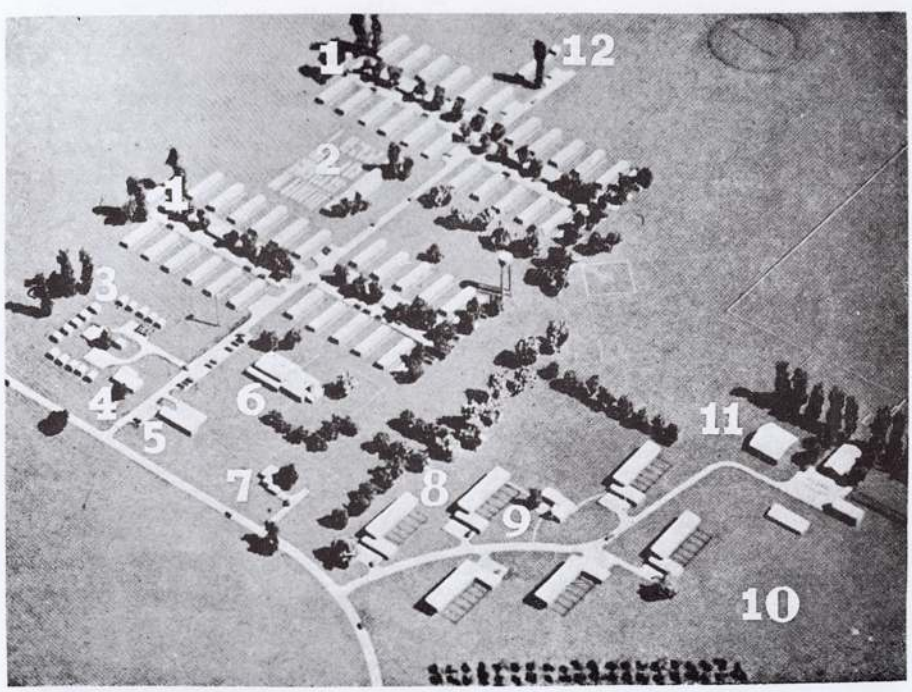
浴室を有する4室が1戸になり、これが8戸で1棟のアパートになつてゐる。構造主體に日乾煉瓦を用ひてゐるのだが、構造と意匠とが何等抵觸し合つて居ない。反つて隔壁の終端の控柱などは必須なものであつて、土地の材料及び氣候の要求による必要條件なのである。はね出し窓を用ひた點など美事採光通風の問題を解決してゐる。

3 Community Buildings

これら公共用建物は何れも典型的な新鮮さを表現してゐる。その地方の技術や材料が意匠の殆んどすべての點にまで影響してゐて、勝手に計畫を進めるわけには行かない。アリゾナ地方では前述の如く日乾煉瓦で構造されたが第10圖に示すトレアの建物は木を使用して美しく造られてゐる。ソノマのものも木造であるが、特に優れてゐるのはその經濟性と融通性であつて、そのまゝでは育兒室、集會所、事務室に用ひられると共に、外部に面する釣戸を開くと野外聽衆場のステーヂとして利用出來るのである。

4 Individual Houses.

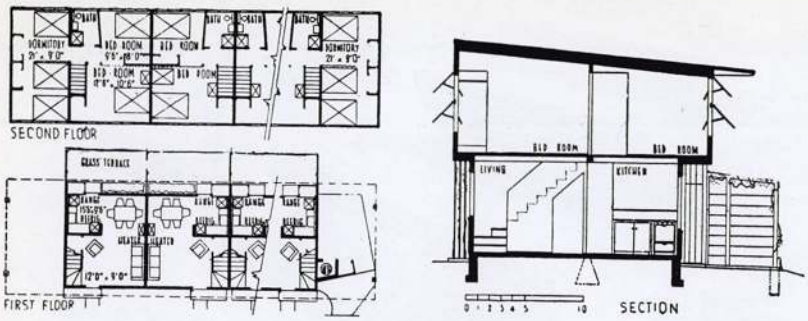
最少限住宅問題の1つの指針として今日までに F.S.A. によつて建てられた單獨家屋の數個の例を上げる。



•3• カリフオルニヤ、フアイヤバウの計畫模型

その中第12圖に示すところのものは典型的なもので、正方形平面で8吋の煉瓦造外壁に圍まれ、屋根はアルミニユーム板で被覆してある。

第13圖に示すところでは、建物の位置や向きを變へることによつて外觀に變化を與へてゐることに注意すべきであり、且つ臺所と浴場とに採光するために Clerstory を設けてゐることを特記せねばな

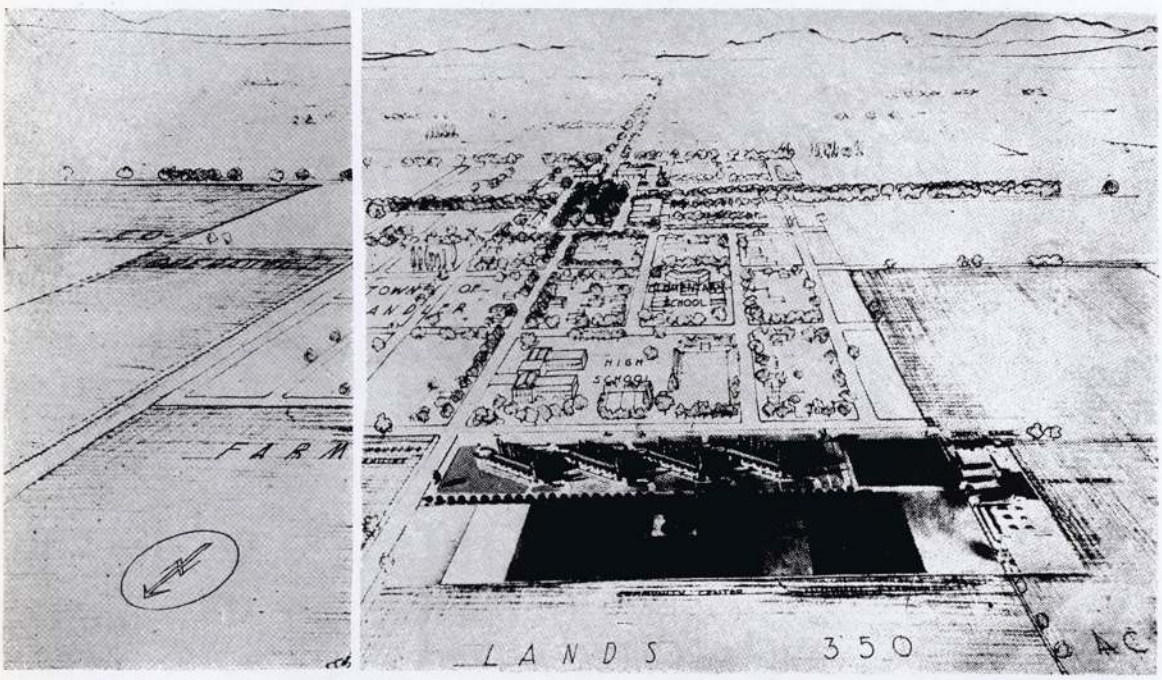


•4• カリフオルニヤ、フアイヤバウの家族用アパート

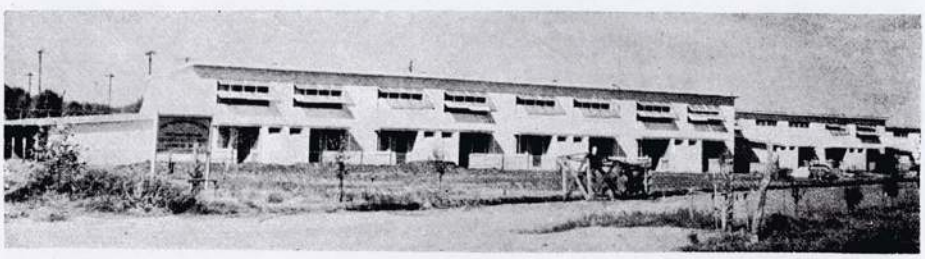
らない。内部平面では私室も確保されてゐるし、居間や日光室の使用に當つても相當な融通性が保證されてゐる。

以下の挿圖は單に參考までにこゝに掲載するに止める。

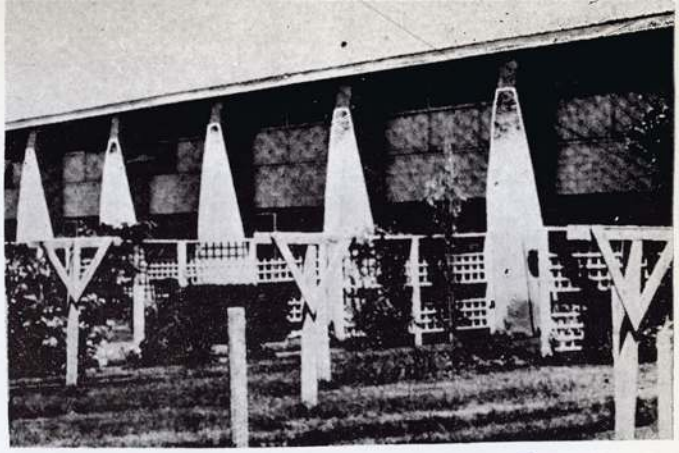
(Architectusal Forum Jan. 1941より) 塚本•西田抄



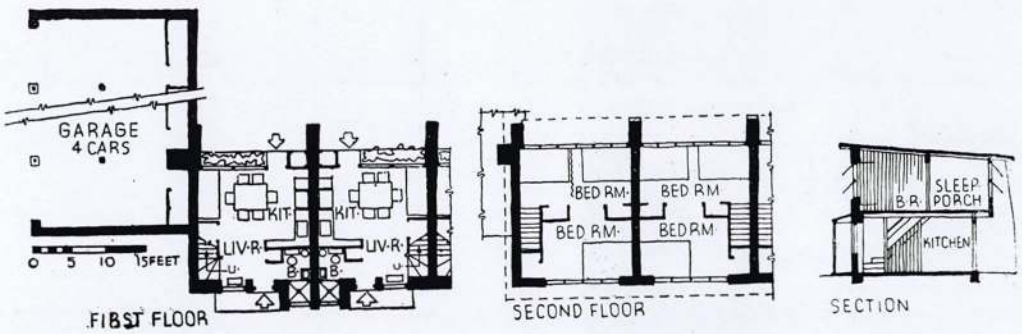
•5• アリゾナ、シヤンドラーフアーム



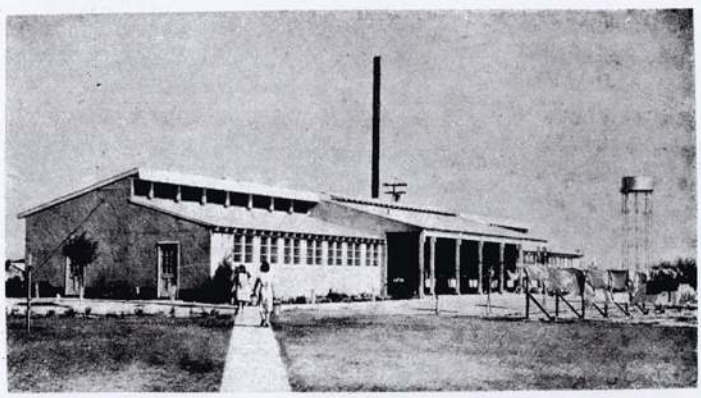
•6• アリゾナ、シヤンドラーフアームのアパート



•7• アリゾナ、シヤンドラーフアームのアパートの庭側



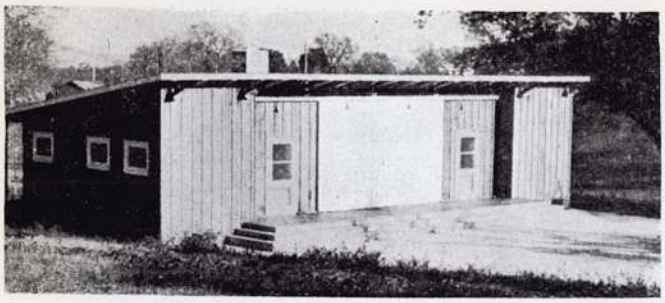
•8• 第6圖、7圖の平面



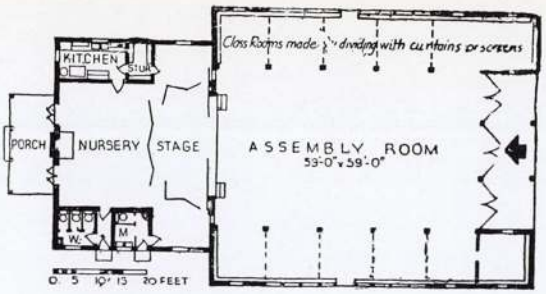
•9• アリゾナ、アグアフリアカンプの公共用建物



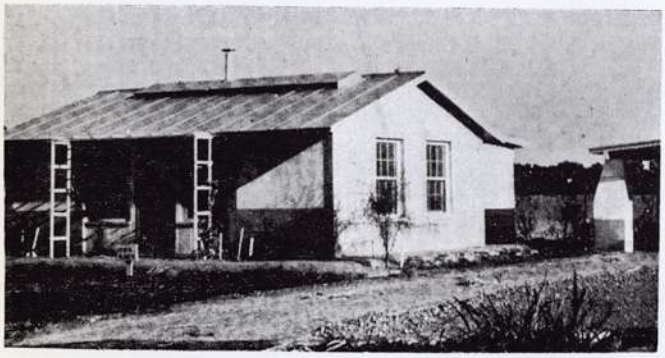
•10• California, Tulare の集會所



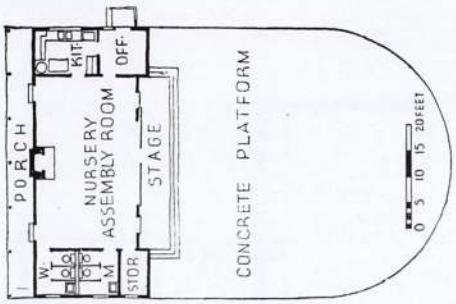
• 11 • Calif. Sonoma の托兒集會所



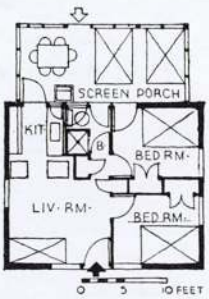
第10圖 平 面



• 12 • Calif. Glendale, のカメルバック農場の住宅



第11圖 平 面

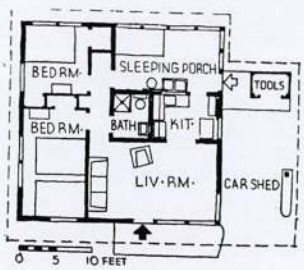




• 13 • Calif. mineral King Ranch の個人住宅



第2圖 平 面



第3圖 平面

大和路の茶室 ・1・

八窓庵

岡田孝男*

大阪の茶室は五回に亘つて、願泉寺泰慶堂、二葉の豊公席と淀屋席、今宮の十萬堂、一心寺の八窓席、及義心亭を訪れて來た。まだ津村別院の環睹席を始めとして、いろいろあると思ふが、こゝらで切り上げ、次は新緑の大和路へ踏み入りたい。

大和路の茶室巡りで、先づ足を運ばねばならぬのは、奈良帝室博物館境内の八窓庵、大和小泉慈光院の不味堂であらう。其他當麻寺中の坊の茶室、依水園の三秀亭、稱名寺の珠光庵、興福院の龍松庵と長閤堂、丹波市依田邸の有樂茶室など、有名なものがあるが、傳えとしては古くとも、様式的に古くないものや、再建したものであるから建築的には、興味が薄い。しかし、珠光庵は茶祖村田珠光に因み、長閤堂は再建ではあるが佗茶人久保利世の方丈として鴨長明の方丈に擬し、松花堂の方丈と同時代のものとして、別の意味で興味のあるものだから、紙上が許せば、後で觸れて見たいと思ふ。

× × ×

八窓庵は、奈良帝室博物館境内の東南隅の生垣をめぐらした一圍の中に靜かに建つて居る。藁屋根の小屋に柿葺の庇がつき、うしろの方に瓦葺の水屋が附いて、いかにも好もしい形である。（第1圖參照）。

古田織部好みの四帖臺目の席として、もと大乘院門跡の庭園内にあつたのを、明治二十五年、有志が相計つて、現位置に移したもので、よく保存され、織部好み茶室の遺構として貴重な建物である。

床の間は北面して間口四尺とり、床柱は松のナグリ、床框は黒塗、落掛は杉面皮を使つてある。その右に高さ3尺7寸8分、巾1尺9寸5分の給仕口がつき、出隅の柱を廻つて、高さ5尺2寸、巾2尺の茶道口がつく。

窓は茶道口の右即ち西に、色紙窓が二つ、續いて北側に爐先窓一つ、下地窓一つと中連窓一つ、東側に中連窓一つと下地窓一つ、それに床の間の墨蹟窓を加へて、都合八つあるので、八窓庵と云ふのであらう。

天井は北側3尺通りが掛込で、他は高さ6尺の蒲の平天井で、白竹で押えてある。この平天井が點前疊の上まで延びてゐるのは、遠州作と傳えられる一心寺の八窓席（本誌四月號所載）と同巧で、古い手法と見られる。

躙り口が、座敷の隅につかずに、中央にあること、これと關聯して、床の間が、東の壁を接してつかず、半間のあきを置いて、給仕口に近くとられることは、他の茶席にあまり例のないことである。

床の間と點前疊の關係は、あまり距れすぎてゐるので、千家裏流の如く、爐付正客の場合はよいが、千家表流の如く床前正客を固守する場合は、正客と、點者が緣遠くなつて興味を殺がれる。この事は、願泉寺泰慶堂の時にも解説したのであるが、點者が下位の者であり、亭主が後見として、給仕口を入つた所に位置する場合には、床前正客の方がよいのである。

茶道口を出たところに、四帖の合の間があり、更に三帖の水屋に續く。水屋は網代の平天井と一部掛込天井の室で、大きな流しや棚や物入がつき便利よくしてある。

今迄訪れた茶室はみな書院に續いた席であつたが、これは庭の中に離れ家として建つてゐるので不便なこともある代りに、落ついた氣分のよい、いかにも茶室らしい感じがある。或は古都奈良の靜寂な境にあるので、一層その感を深めるのであらうが、しみじみと茶室建築のよさを味つたことである。

なほこの茶室は、正倉院のところにあつた、オキロクと呼ぶ茶室、及現在東京帝室博物館境内に移されてゐる金森宗和好の六窓庵と共に、大和三

*大阪三越住宅部

茶室と呼ばれてゐたが、今大和に殘るのは、この八窓庵だけである。

× × ×

古田織部正重然は宗屋と號し、利休の最も秀れた茶の弟子で、後には二代將軍秀忠の茶の師匠となり、なほ近衛信尋、小堀遠州、本阿彌光悦、金森可重、清水道閑等にも茶を教え、利休なきあとは、遠州が出るまで、茶道の最も有力な指導者であつた。

利休との問答の一二を記して見ると、利休が、瀬田の唐橋を通つての歸りに、欄干に一つ形の良い擬寶珠があつたと話したところ、翌日織部は早速籠を飛ばして見に行き、形の佳いのは第何番目の擬寶珠であらうと云ひ當てた熱心、又利休が、或道具屋で花生を見つけ、買はんとしたが、どうも氣に入らぬ點があるので、見合はした。歸つてよく考へると、氣に喰はぬのは花生の耳のところであり、耳を缺ぎ取れば、立派に使へることに氣附き、翌日買ひに行つたが、既に賣れてない。後刻織部から、お茶の案内があり、珍らしい花生を手に入れたから、茶をさし上げたいとある。さてはあの花生に相違あるまじ、耳を缺き取つて呉れんと、小さい金槌を懐にしのばせて、織部の屋敷へ行き茶室へ通つてみると、果して、彼の花生しかも耳はちやんと缺き取つてあつたと云ふ、織部の感覺の鋭さ。其他これに類する話は數多くあるなかに、庭園に對する考へを或人にきかれて、

夕月夜海少しある木の間哉

と古人の句を引いて答へたと云ふ。云ふまでもなく、庭を作るには、やたらに立派な木や石を並べたてゝはいかぬ、必要なものを少し、それも露骨でなく、夕月に光る海を木の間から透して見た樣な應じを人に與へる樣にと云ふ意味であらう。庭ばかりでなく、日本人の物に對する考へ方、露骨を嫌つて、澁味、さびを愛好する國民性を云ひ得て妙である。

× × ×

織部は茶人として秀れてゐるのみではない、武人として、確固たる信念を持つた人である。

利休が、罪を得て、天正十九年二月、聚樂第の不審庵を出て堺へ下つた時にも、日頃利休に茶を教つてゐた諸大名も、秀吉をはゞかつて、見送を遠慮したが、織部と細川三齋の二人だけは、淀まで見送り、名殘を惜んだと云ふことである。これを石田三成が秀吉に告げ口したところ、秀吉は弟子として師を送るのはあたり前の事だと云つた由で、太閤さんも相當なものである。

始め秀吉に仕へ、攝津茨木城主、中川瀬兵衛清秀の女を娶つて、茨木に居つたこともある。關ヶ原の役には家康方につき、功によつて一萬石を與へられ重用されたが、大阪夏の陣の時、家老木村宗喜が主謀者となり、京都で叛き、家康秀忠を、挟み擊ちにせんとしたことが未然に判り、責を負ふて、織部はその子重廣と共に自決して果てた。

其時にも、織部は一言の辯明もしなかつたと云ふことである。遺骸は大德寺玉林院に葬り、塔は大德寺三玄院にある。

× × ×

逸話としても、大阪冬の陣のとき、茶の弟子である佐竹義宣の陣を訪れ、共に竹束の蔭に入つて茶を喫しながら、ふとその竹束の中に茶杓になる竹はあるまいかと、頭を傾げて物色したところ、折柄の夕日が織部の禿頭に當つて、キラキラ輝いたので、城内より鐵砲でねらはれ、頭にかすり傷を負ふて、持つてゐた袱紗で血をぬぐつたと云ふ念の入つた話もある。

× × ×

織部燈籠、織部燒、織部紗など、好みが澤山あるが、茶室建築の方では、臺目切の創始者として「茶道筌蹄」に

三帖臺目　織部好

三帖四帖五帖六帖までも、臺目切は皆織部より好始まる。今三帖臺目籔内にあり是も織部好云々

とある。

この八窓庵も四帖臺目に、合の間と水屋を附した、好もしい茶室で、古式を殘し、まさに織部の作と云ふべきであらう。織部の好んだもう一つの茶室に、名古屋市鶴舞公園内にある猿面茶屋の四帖半臺目がある。



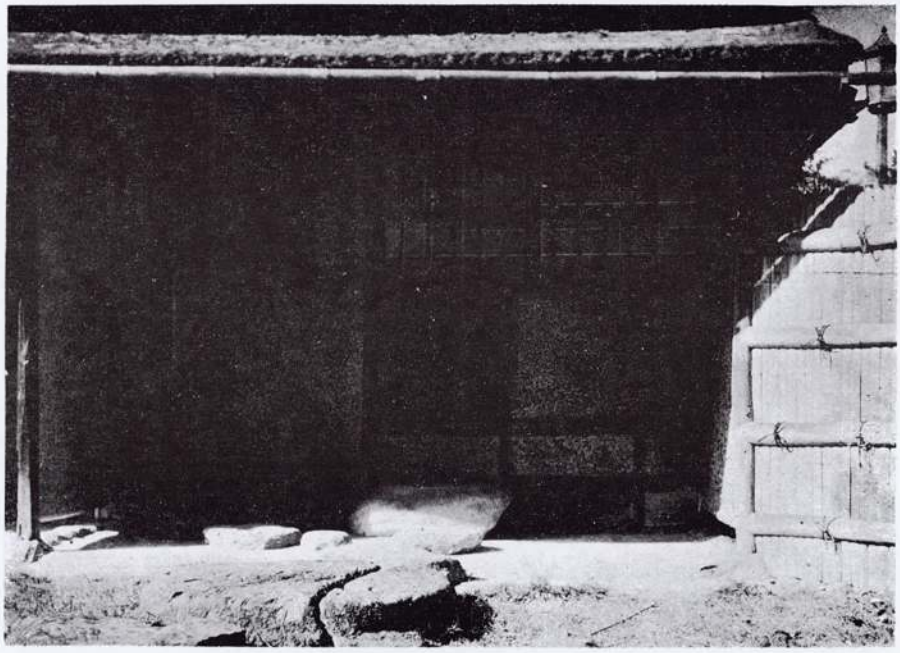
1

①八窓庵外觀

藁屋根に柿藁の庇がつき、形の佳い建物である。古都奈良の明澄な空のもと、馬酔木の新緑にかこまれて、静かに建つ。

大和路の茶室・1・八窓庵・岡田孝男

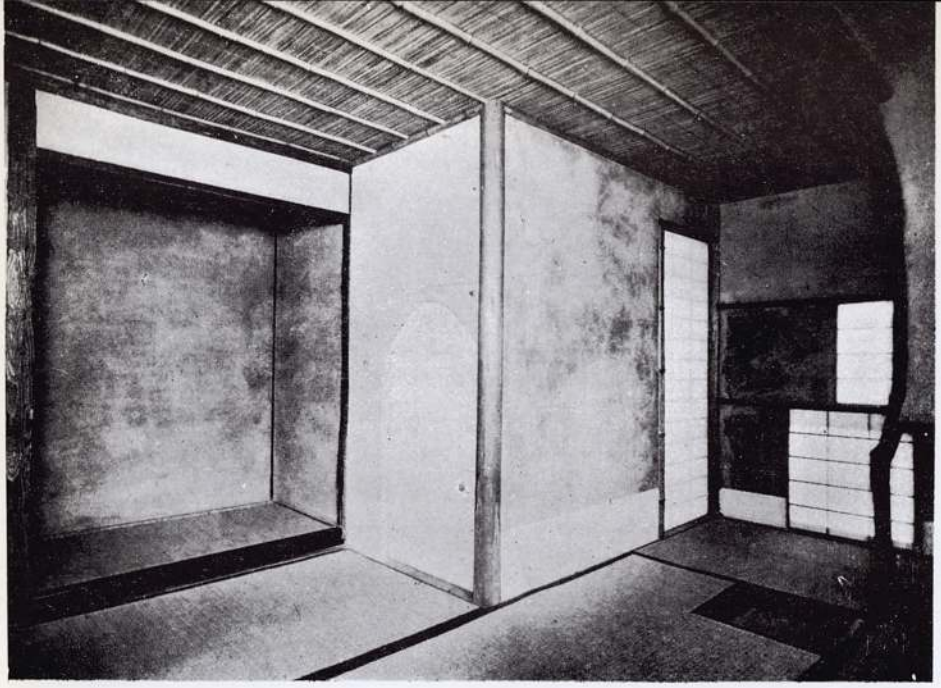
2



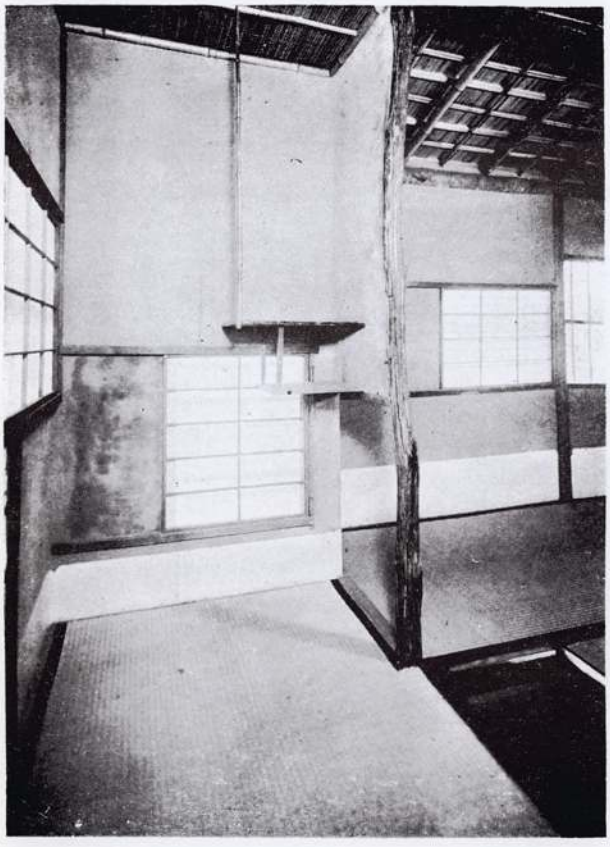
②躙り口廻り詳細

中央の黒い所が躙り口で、その上の中連窓と左上の下地窓、刀掛、塵穴などの調和がよく躙り口廻りの意匠としては最も秀れたものと思ふ。

躙り口の位置が座敷の隅でなく、中央にあるのは、京都の皆如庵、南宗寺の實相庵などと共に數は少ない。



3



4

③八窓庵床の間

床の右が給仕口で、その右が茶道口である。床の間の左に壁があり、プランで見る様に裏の室からの板の間になつてゐるのは他と變てゐる。

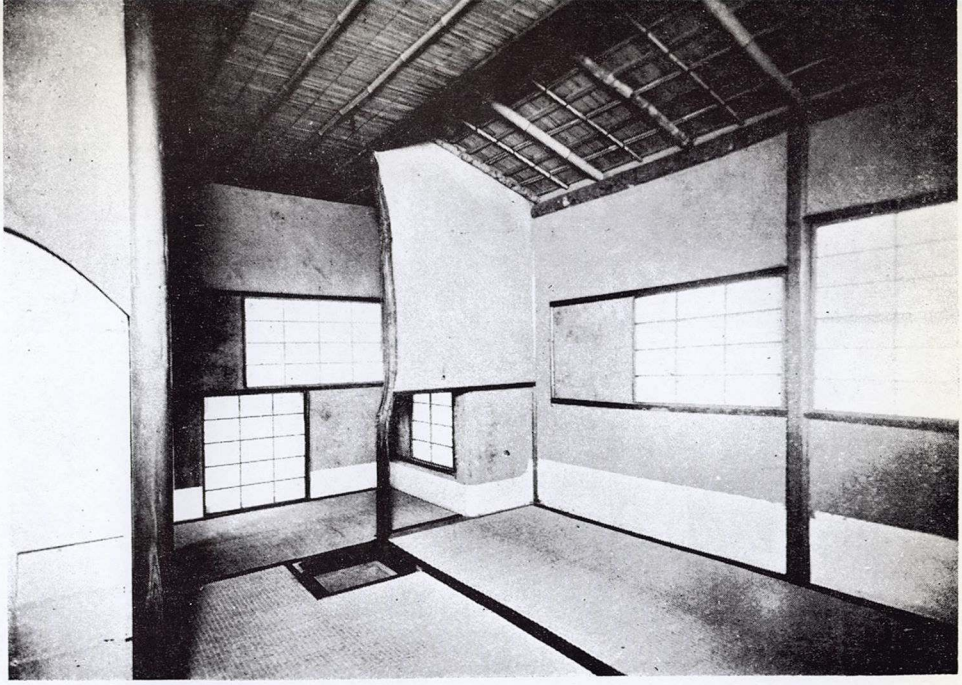
×

④中柱出爐の詳細

中柱、出爐、二重棚など定石通りであるがどことなく秀れたところがある。丁度この八窓庵を眞似て作つた茶室が奈良の興福院に龍松庵として移建してあるが、兩方を比較して見ると本質と寫しにいかに優劣があるか、はつきり判る勿論、寫しをする人の技倆識見にもよるが、龍松庵とて江戸中期のもの、相當な出來であるにかかはらず、八窓庵に較べると、木割の甘さと云ひ、風格と云ひ問題にならぬ。博物館のこの席を見ての歸りに、比較見學されるのも一興であらう。

⑤八窓庵内部

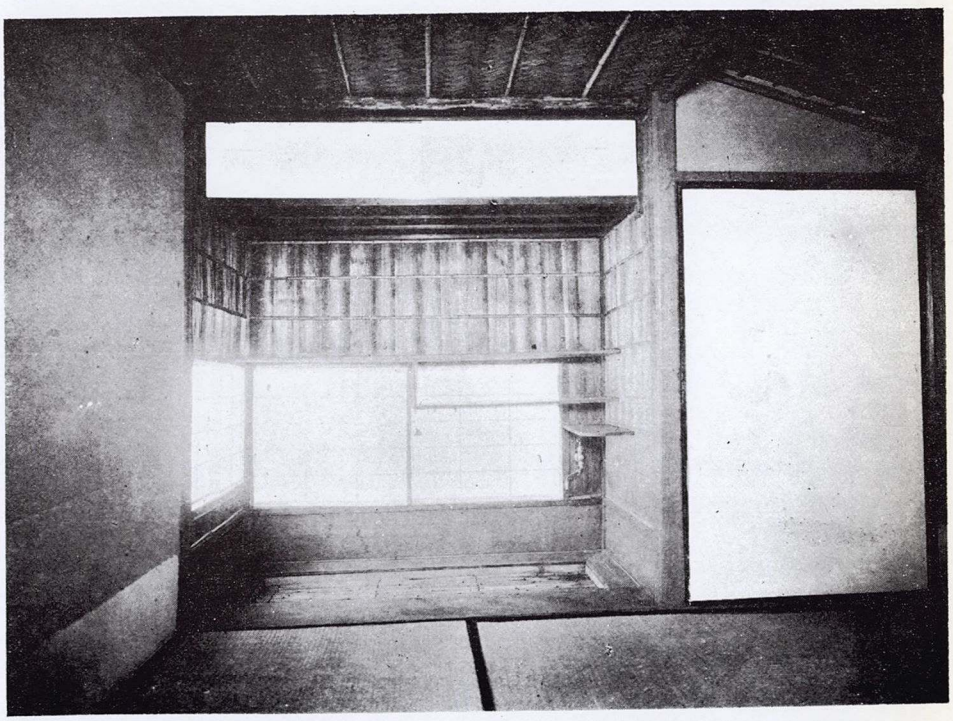
色紙窓、爐先窓、中連窓、下地窓等の調子のよく整つた明るい茶室である。天井は三尺通りか掛込みで他は平天井となり、それが點前疊の上まで延びてゐるのは濶達なやり方である。普通ならば、點前疊の上だけ別に落天井をかけるところである。



5

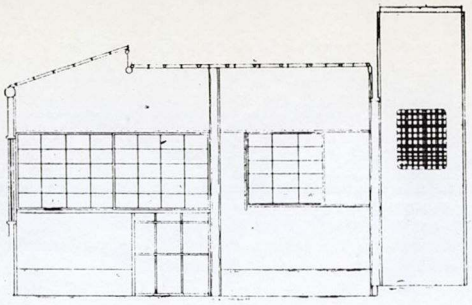
大和路の茶室・1・八窓庵・岡田孝男

6

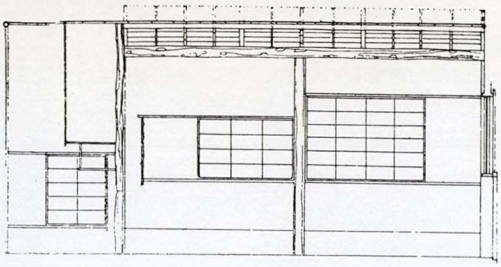


⑥ 水屋

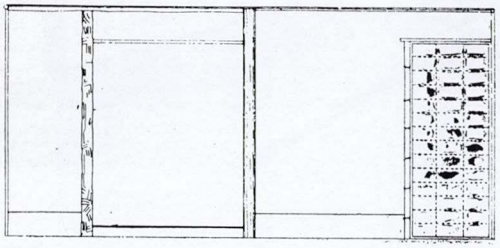
太鼓襖の天袋と棚、窓などが明快な使ひよい水屋である。茶室が離れ家であるため、かやうに大きくし、出入口もつけて使ひよくしてあるのである。



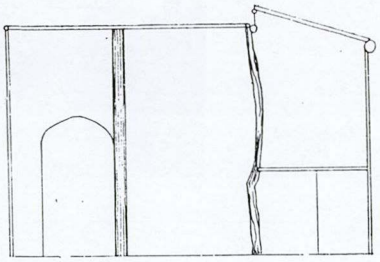
東側立面



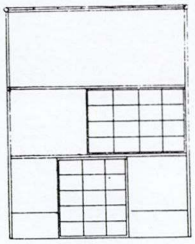
北側立面



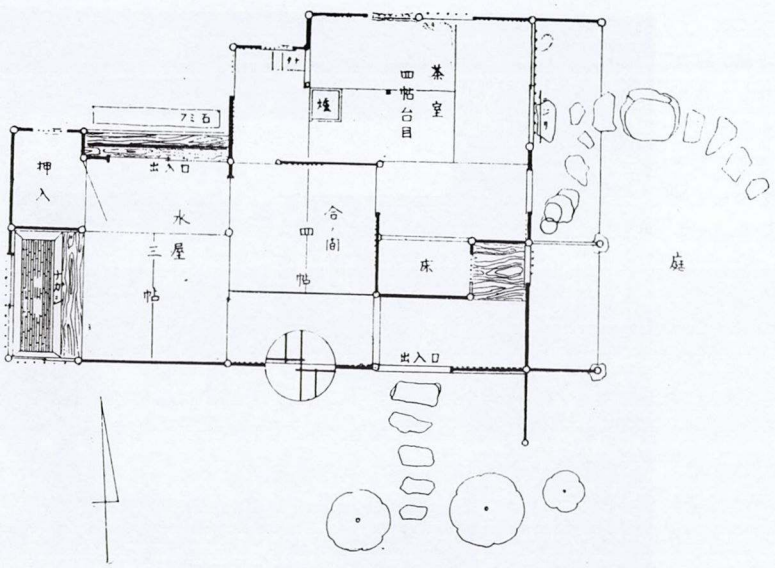
南側立面



西側立面



色紙窓



奈良帝室博物館・八窓の庵

大和路の茶室・1・八窓庵・岡田孝男



紫烟室

石原産業見學記

大下順三郎

春雨けぶる四月四日の夕方、倶樂部に集つた小林幹事長以下編輯子の一行は、濡れた舗道を急ぎ足に、肥後橋近くの石産業ビルを見學に行く。前面電車道に沿ふて、澁みのある由良石積塀の後方に、凝石外裝でどつしりとした建物も、直感して時局下に建て始められた甲種防火地區線を後退した木造武裝ビルなのである。宇部の公會堂で思い出される剛放な柱範を有するホールを過ぎて二階の應接に通される。時計は已に五時に間もないが、ビル内は忙しさに張切つていて、流石は國策線上の産業會社だとうなづかされる。正しくは石原産業海運株式會社で位置は西區江戸堀である。設計監督は村野藤吾さんの事務所とは聞かなくとも前面のマツスや、柱範に表された手法でも窺れ、施工は清水組と聞く。ホールを通つて應接に入る迄に見受けられるスマートな階段のステンレススチールの手摺や、間仕切の羽目板、外套掛に至るまでなかなかカツチリした施工である。同行のMさん「此の仕事では施工者も泣いた事でせうな」と、早くも職業意識を訴へて御座る。久し振りに感じのよいチエアーに腰を落付けて茶菓の御モテナシを受け、事務所の長坂さんから工事概要を承る。本舘は地下一階地上二階と屋階付で、一口に云へば木造ビルの外側に無筋混凝土の鎧を着せた形であり、他に社員食堂等の附屬家がある。設計着手が早かつた關係か、時局下でも思い切り大きな窓も總てスチールサツシユ、一枚硝子のカウンターバランスが使用せられ無筋混凝土に有勝ちな陰氣さが無くて極めて明るい。若し今頃此のビルを建てるとして、スチールサツシユ、が使用出來なかつたらと、頼まれもせぬ事を氣に病んで見た。長坂さんの説明を聞くと、地下室に混凝土の函形を造り、内部の柱は總て六寸角の通し柱、梁は二本の合せ梁で張間は四間もあるが上部にラス敷厚さ二寸の混凝土を打ち、床はリノリユーム敷、天井や壁も出來るだけ耐火的に取扱はれ、ラス下地モルタルを使用してあるとの事で、一見しては一寸木造とは見えぬ出來榮である。室内の獨立柱等は六寸角木柱を二本合せとして、表面を檜のベニヤで仕上たあたり、なかなか落付があつて、ありふれたプラスター、塗の様に貧弱さがない。一行の誰かが大體坪當りの單價はと、無遠慮に聞いて見る、事務所の長坂さん即座に〇〇〇圓だと聞かされて意外に廉いのに驚きの聲が出る。事務所の吉田さんスカサズ急所急所を押へて、無駄の經費を省略する事、之が所謂設計のヨサだと聞かされて一同又々口、アングリ。

何でも延一坪當りに、混凝土が一立坪も要るので混凝土工事がイヤに捗らず、途中で例のセメント飢饉に遭遇して、御ナヤミになられたとの事は御察しに餘ります。事務所が引けた後で舘内を案内される。二三の重役室もなかなかしつくりと落付きがあり、壁一面の羽目や額緣、さてはドーアの把手、窓カーテンの一つ一つにも細心の注意が拂れている。外裝は田中タイリング、室内造作は宮崎、裝飾は高島屋、屋根瓦は泰山と聞いただけでも吾々の手にしているバラツクとは大分格が違ふのも尤だ。衞生器具等も隨分思ひ切つたものが使われているし、手洗器にも地下室の高壓機關から溫湯が充たされているあたり、日頃ヤスモノビルに住んでいる筆者には羨ましい。屋階は會議室か讀書室かに使用され、採光と換氣と、雨漏に對しては充分の注意が窺れ、施工も隨分骨が折れた事と思はれるが、夏期は相當に暑くはないか？と思れる。地下室に下りて見る、ドライエリヤが前面の空地を巧に利用されて緩傾斜の段形堀割になつて、思ひ切り明るく、一寸地下室らしい感じがなく、之も村野さんの獨創的なデザインとして筆者更めて敬服した。地下室の倉庫書庫等空間的利用は充分注意されているが奥にある社員通用の階段は一寸窮屈な感じがする。室内天井の大梁が床の固定荷重増大で、デフレクションには相當苦心された跡が窺れる。ヨク調和されたシーリングライト、階段

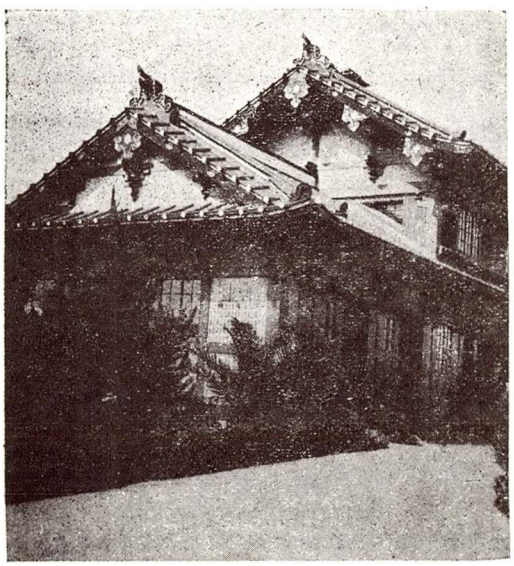
の手摺に網入硝子を應用したあたりなかなかサエたものである。豫定の時間も過ぎて御案内下さつた各位に深謝して屋外に出て更めて今一度ビルを振返つて見た、内部の感じと外觀、此の種建物としては申し分ない出來榮だが一面何だか平時の建物に比しては物足りない感じがする。どーか速に此の防火地區線を後退せねばならぬ過渡期的型な建物が跡を絶つて、堂々たる高層ビルの建ち並ぶ日の早からん事を、吾々建築界のため、否、大東亞安定のためにも切望した事である。（16.4.30）

神社建築漫稿

津田鑿

牌樓と賽錢箱

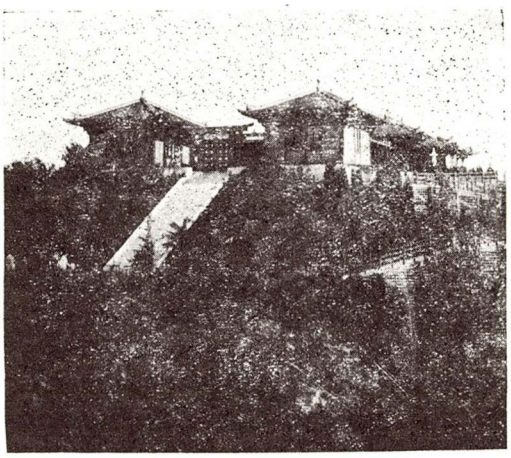
日本の風景と支那の風景とは根本的に違つてゐる。日本では極く限られた狹い地域においてさへ、山や川や、從つて峠や橋がみられ、見渡すかぎりの田畑の向ふには必らず山が連なつてゐる。向岸がみえないといふ揚子江や、廣いことは確かに廣いがその廣さをかぎる山がないので、廣さの感じが出ないといふ中支の平原などは、日本にゐては想像が出來ない。我々が沙漠の感じを考へてみることが出來ないように、この支那の茫漠たる風景を腦裡に描くことはむつかしい。我々が支那の風景として知つてゐるものは、峨々たる岩山の中腹に樵夫の行くばかりの小徑があり、ずつと下方に八角亭があつて一人の男が書見してゐる。そして足下の流れには偏舟に身を托した老翁が釣糸を垂れてゐて、はるか向ふには瀑布もかゝつてゐる、といつた極めて複雜怪奇な圖柄である。我々はこんな圖柄を見馴れ、繪を描く人々も好んでこうしたものを眞似る。さて、こんな繪によつて支那の風景を把握してゐた日本人が、支那に渡つてみると、あにはからんや、到る處摑みどころのないような漠然たる風景ばかりである。もつと正直に本當の支那の風景を描けばよいのであるが、大きな空や、廣漠たる草原や滿々たる大河は繪にもなりにくひし、そういふとりとめのない土地に生れ育つた人々にとつては、突兀たる岩山などの方がはるかに理想に近いのであるから、何も好んで面白くもない圖柄を繪にしようとは思はないので自然こうした結果ともなるのであらう。支那の繪はいはば支那人の理想やあこがれを描いたもので、そんな風景もあるにはあるが、我々が支那に渡つて第一番に眼に觸れるのは凡そ反對の茫々たる風景なのである。そういふ廣々とした風景の中に立つて、空を限り、遠近の感じを出し、自然との完全な抱合を示す建築物、例へば牌樓の如きものと日本の神社の鳥居とを比べて考へると、（こういふ比較の可否についての詮議は省き）何れもその背景となる風景と相寄り相助けて、自然と人工との融合の中に發達して來たことがわかる。牌樓は、伊東博士によれば、門の一種で、寺觀廟詞の門であり、又街路の門であつて、記念的な意味のもの、とあるから、特に背景を考慮して作られることは當然である。日本の鳥居も亦、お社の杜を背景として綠中に浮かびあがらす設計であるから四圍の風景とは甚だ緊密である。



櫓門の位置にある建物

先年某展覽會場で、この牌樓の摸造が人氣を呼んでゐるのをみて、ふと思ひ起したのは、アメリカを歩いてゐて、しばしば博覽會場の東洋的な賣店（敢へて日本とか支那とかに限らず、彼等の知識において、非アメリカ的、非ヨーロツパ的なものはすべてひつくるめての東洋的）の入口などに建てられてゐた事である。鳥居はあたかも、日本や支那や南洋やに附ける定冠詞の如く、氣樂に、しかし無意味に用ゐられてゐた。疳癪を起こしてみても仕方のないことではあるが、日本人にとつては、こうした鳥居の用法は不愉快である。彼等は色や形を彼等一流の淺い解釋で理解するばかりで、その存在理由であるとか、精神は到底把握することが出來ないのである。日本の神社建築を彼等に正確に理解させることなどは難事中の難事である。

私はある外國人を訪ねて、その應接室に立派な賽錢箱が飾つてあるのをみて、噴き出したことがある。か



石段を上り鳥居あり本殿を意味する建物か

なのである。日本建築とは神社建築のようなものと思つてゐる。富士山で自然を藝妓で風俗を代表させ、神社建築で日本建築總本を把握してゐる彼等なのである。いやそれどころか、神社建築が神社であることさへ知らない手合が多いのである。近年數寄屋建築が多少共理解しかけられて來たのは、よほどよくなつたのである。ここに掲げた寫眞は何れもロスアンゼルスの郊外にある庭園に建てられたもので、日本と支那とをごつちやまぜに解釋し、しかも神社建築の精神を理解せざる實例である。これをみて、最も危惧するところは、日本文化の形骸のみが傳へられて、精神が忘れられ、日本の價値をさへ誤り解されることである。世界の視聽を集めて東亞新秩序の建設に邁進する我々としては、日本の文化を正確に外國人に理解させる工夫を講ずることの重要さを痛感する。

その方法には色々あらうけれども文化の傳達を商品の輸出と混同しない心掛けが必要である。釣竿1本輸出するにしても、日本の商人は特に輸出向きと稱して繼手などに赤色のセルロイドを嵌めたりして外國人の嗜好に投じようとする。これは物を賣る場合には當然のことであるが文化の傳達には矢張り日本人好みの澁みある釣竿を送らねばならない。

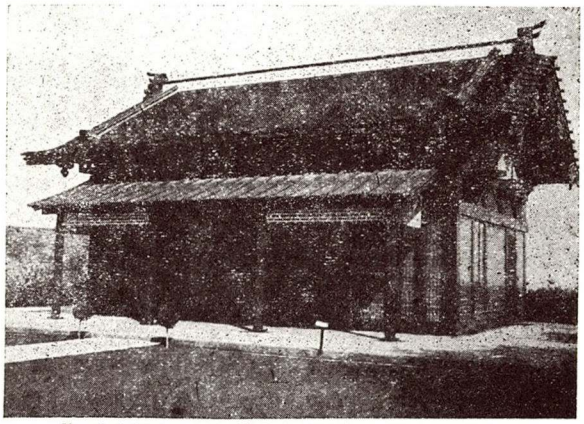
そういふ意味で、以前、下位春吉氏がナポリで發行してゐた "SAKURA" (FIOR DI CILIEGIO) といふ雜誌は、PRIMA RASSEGNA EUROPEA DELL'ARTE E DELLA VITA DELL'ESTREMO ORIENTE といふ副題つきで、たしか年6回であつたかと記憶するが、よき日本文化傳達の機關であつた。私も亦その一冊に、"Casupole giapponesi di campagna" と題する日本民家論を寄稿したことがある。こうした日本人の努力、下位春吉氏の熱意が、今日の日伊親善に寄與してゐることは見逃せない事實で、眞の文化傳達は我が國刻下の急務であらう。

お賽錢はかく生きる

日本の神社が、かく外國人に誤り解されることの丁度反對の仕打ちに痛い目をした思出もある。それは東京のある神社建築の設計監理の御依頼をうけたときのことであるが、それは東京でもお賽錢の上ることでは屈指の御宮で、大震災直後の再築を私がおひきうけしたのである。敷地の2方には相當廣い道路があるが、防火規則で4間通りは鐵筋構造にしなければならない、從つて末社、水屋、舞殿、門、賣店（これは平素は土產物を賣り4年目毎の大祭には御札を賣る所となる）等は耐火構造とつては何處かの神社に据えられて善男善女の奉賽するところであつたらうところの、この金具飾り麗しい賽錢箱が、こうして一外人の手にあることすら怪しからぬことであるが、それを應接室において怪しまぬ無邪氣さにはあきれかへつた次第である。訪ねて來る人達も多くはこの箱の本來の使命を知らぬからよいようなものゝ、氣の弱い日本人だと、少しおいてゆけ、と云はれてゐるようで、そうたびたびは訪問する氣になれない。

碧眼に映る神社建築

事態かくの如くであるから、外國人に日本の建築の眞髓を理解させることは、かゝつて今後の我々の努力にあるといはねばならない。かと云つて、彼等とても日本の神社に參拜すると崇高の念にうたれることは、彼等の語る感想によつても明かである。その癖何もかもがゴツチヤになつて、日本も支那も南洋もいつしよくたにしてしまふのである。鳥居をたてたり、賽錢箱を買つたりする連中は然し最も日本を理解してゐる筈の階級である。しかも尙かくの如く用法を誤り精神を解しないのは、丁度水洗便器で顏を洗ふの類であらう。更に驚くべきことは、神社建築は彼等にとつては日本建築そのもの



敷地若干低き處にある建物にて寶物殿又は納庫を意味するものか

し、本殿と社務所とはうんと後退させて木造とした。神社建築を鐵筋や鐵骨造とすることは下手をすると、アメリカにおける日本建築の如くなるので、強いて木造でゆく工夫をしたのである。用材は御料林の拂下げを受けた檜の本木で、獨特の香りと脂のゝつた艶は形容しがたい日本らしさで、途中色々の迂餘曲折もあつたが目出度く竣功、遷座祭もすみ私も無事役目を果した。ところが前にも云つた如くお賽錢が澤山あがるので、係員は毎日向ふ鉢巻で錢勘定にかゝりきり、大祭には增員しても追つかず、遂には關係者中からゼニアイキの考案者が出るといつた始末。この多數の參詣者の雨の日の混雜のために、參道から社殿にかけて上家を造る必要が生じた。それを設計者たる私には相談もかけず（簡單なものだから設計者を煩はすまでもないと思はれたのだらう）頭梁に直か注文を發したから、たまらない。出來たものは、停車場の上家然たるもの、おまけに御叮嚀なペンキ塗で、鐵骨の腕やテントまで附いてゐる。こういふものを前にくつゝけられては、檜の香りも豊かに、千木たかしる御本殿もさつぱり値打がない。今にも賽錢箱の前まで電車がすべりこんで來そうでもつたいない。こうなるとロスアンゼルスの神社建築もあまり笑へないことになる。

さて餘談ながら、このお宮ではその莫大なお賽錢を積みたてゝ、貧費生を養育する。既に、專門學校や大學をこのお宮のおかげで卒業した人も多く、博士高官知名の士も相當ある。社務所にはそれらの人の氏名がかけつらぬてあるが、一寸奇異な感じがするのは、その名札が3色に色別けされてゐることである。その譯を訊ねると、甲の色は現在金を借りて通學してゐる人達を、乙の色は卒業して借金を返納した人達を、丙の色は卒業はしたがまだ借金を返しきらない人達を、夫々示してゐるのだそうである。なかなかうまいことを考へたものである。

神社建築に關する興味本位の話を書いてみよ、との編輯の御もとめにたわいもないことばかり書きつゞけた。讀者の御寬恕を乞ふ次第である。（16. 3. 22）

ブツク・レビユー

小林　清

近頃建築界に新刊がとぼしい。昭和13－15年は建築の本が出版されることが少い少いとはいはれながら、可成り出てゐた。この頃はたゞ相模書房から建築家の隨筆集が出てゐるのが、目ぼしい位のものである。

この時、待望の書といふか、渇望の書といふかが現はれた。これが次に示す書物である。

新興木構造學　堀口甚吉氏著、B五判、284頁、定價6.00圓、竹原文泉社（振替大阪79722番）發行、昭和16年5月版。

堀口氏は本會々員で、建築構造研究家として十數年の經驗あり、氏の建築に關する教科書は簡明適切の評を得て、教育上多大の貢獻をしてゐる。

本書は氏が三ケ年の長きにわたつて內外文獻をあさり、自己の經驗を基として出されたもので、近來の傑作である。

そもそも我國に於て木構造程、古くから研究され、實施されて、且つその方法の科學的でないものはない。その手法や傳統的口授的で、秘傳的で何等まとまりのない木割集、仕口圖集が、木構造學といはれる本のすべてゞあつた。

本書は新興木造學と題してはあるが、所謂新興木構造學の單なる圖集寫眞集でない。眞の木構造學を組織せんとの熱望のもとに、木構造を力學的に科學的に、研究し詳述したものである。故に本書は「科學的木構造學」或は「力學的木構造學」とも稱し得るし、又眞の意味の「木構造學」ともいひ得る。

其の內容は

第1章　概　說
第2章　材　料
第3章　荷　重
第4章　接　合
第5章　梁
第6章　柱
第7章　組合應力材
第8章　骨　組
第9章　施　工
第10章　クレイン、防火壁
第11章　參考資料

の11章に分けて記述がしてある。第1章の概說には新興木構造の種類の特徵より內外に於ける沿革に說き及ぼし、第2章の材料では木材の性質に關する最近研究の結果を簡明に記述され第3章の荷重では、風壓には最も多くの頁をさきて、最近研究の結果を紹介されてゐる。第4章の接合ではボールト、ヂベル、ヂベル鉄に對して、一々其の利害得失をのべ、且此等の强さの表を製せられたことは、讀者の甚だ便とする所である。第5章の梁第6章の柱、第7章の組合應力材、第8章の骨組は著者の最も力を入れられた所で、建築家にとつて甚だ貴重な記述に富んでゐる。

これ等の章に於ては、應力の求め方、斷面の決定法につき、多くの數字表、計算圖表を挿入して最も實用性を發揮してゐる。

梁斷面決定數字表12頁、計算圖表2頁
柱斷面決定用の計算圖表10頁
組合應力材斷面決定用圖表1頁、
骨組應力圖　60種

山形ラーメン計算用表　3頁
圓孤兩滑節アーチ計算用表　3頁
等を見ても、その實用性が如何程大なるかを想像し得る。殊に新しき木構造學に於ては小さな個材を集めて組立梁、組立柱等として用ふるが、此等組立材は普通の力學のみによつて常識的に設計しては、所期の强度が得られないばかりか、却つて不利の結果を招くことゝなる。本書はこの組立材については實驗をもとにして出來あがつたプロシヤ法規により、多くの計算圖表を挿入して充分の記述がしてある。

又、クレイン梁、防火壁に對しても實例を以て、平易に記述がしてある。

之を要するに本書は、建築界に近來まれな好著で、世人を益すること甚だ大なるものあるを信ずる。會員諸氏の熟讀をおすゝめする。

用紙不足の折柄よき質の紙を用ひ又裝釘も良好なるかゝる學術書の出版にあたられた竹原氏の義擧に對しても評者として大いに感謝するものである。

大和の民家に就て

坂口托平

「建築と社會」誌第二十四輯第五號に廣瀬初夫氏の「大和の民家」によれば、大和棟を紀州葺と稱する由來に付同氏も御疑問がおありの様ですから失禮ですが私の知る範圍内で一寸申上げましよ。

大和棟に限らず、茅又は藁葺屋根は紀州（和歌山縣）から專門職人を招聘し葺かしめたものでありまして、少くとも畿内地方は皆同様であつたと存じます。屋根の葺替時季は新藁收獲後で彼等は各村落を轉々渡り歩いたものです。

私の若い頃（約三十五、六年前）私方の納屋（府下濱寺町）の屋根を紀州職人に葺かした事があります。彼等は葺き上げる迄施主の家に宿泊し賃金の外に食事の供給を受けるのですが、面白い事には其外に煙草を要求する習慣がありまして、其又煙草入が皮製の腰付で、非常に大きなもので、刻煙草が百目以上も詰込みます、飲み餘りは蓄へ置き又次々の施主から貰ひ受け、いよいよ歸國のときは澤山の煙草を持ち歸へつたものです。煙草專賣法施行前で安價でしたからこんな事が出來ましたが、只今は如何でしよか。

即ち紀州葺と稱するのは屋根の様式でなく、職人が紀州から來るから茅又は藁葺を「紀州葺」と稱したものであります。

追　記

材料の小麥藁は施主が葺替へんとする年に豫め必要量を自作したものであります、又昔は村落の殆ど全部が藁葺ですから、職人が目星を附け來年の事を豫約しに雨の日又は夜間各所を廻り歩いたものです。

會報



會員
故 玉川貫治氏

昭和16年1月3日會員玉川貫治氏病を以て長逝せらる。洵に哀悼に禁へず茲に照肯と略歷を掲げ謹みて弔意を表す。

1. 氏は明治24年11月5日神戸市榮町通四の五に生る
1. 明治42年3月兵庫縣立工業學校建築科卒業
1. 同年10月神戸市役所に勤務
1. 同43年4月大阪府内務部土木課に勤務
1. 同45年3月佐藤彰美建築事務所に勤務
1. 大正3年12月住友總本社營繕課に勤務
1. 同6年4月宗建築事務所に勤務
1. 同13年11月會員として本會に入會
1. 昭和5年2月神戸市役所營繕課に勤務
1. 同14年5月依願退職
1. 昭和16年1月3日逝去享年52歳

常務會（第8回）

時　4月22日午後5時50分—7時30分
所　倶樂部室
出席者　理事　今林副會長
　常務　池田主記、北垣主記、中西主記、桐本主計、芝田主計、松久保主計、小林編輯、政岡編輯

議事
1. 評議員會並臨時總會開催日取決定の件
2. 同上提出議題に關する件
3. 防空建築施設に關する講演會建築學會と共同主催の件
4. 下關第一土地建築株式會社より防空壕展々示寫眞借用方申越の件
5. 會員戰死亡に對する弔意金贈供の件
6. 創立二十五周年記念事業準備委員會設置の件
7. 會員詮衡

報告
1. 防空壕展終了報告
2. 第二回建築聯合協議委員會經過報告
3. 入營應徵除隊報告

常務會（第9回）

時　5月5日午後5時30分—6時30分
所　陳列場
出席者　理事　井上副會長
　常務　池田主記、北垣主記、玉置主記、中西主記、藪中主記、桐本主計、松久保主計、大下編輯、小林編輯

議事
1. 五月例會に關する件
2. 防空建築施設講演會に關する件
3. 記念事業準備委員會に關する件
4. 會員詮衡

報告
1. 建築學會長よりメートル基本實施建議の件
2. 入營、出征報告

主記會（第6回）

時　4月18日午後5時30分—7時
所　倶樂部室
出席者　北垣主記、玉置主記、中西主記、藪中主記
1. 評議員會並に臨時總會開催豫定日の件
2. 同上提出議題の件
3. 二十五周年記念事業準備委員會設置の件

主記會（第7回）

時　5月13日午後5時30分—8時
所　事務室
出席者　玉置主記、中西主記、藪中主記
1. 五月例會の件
2. 防空講演會の件
3. 用材規格に關し建築學會より申越しの件

評議員會

1. 昭和16年4月28日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す
1. 出席者下の通り評議員15名
井上新二、井手正雄、今北乙吉、宇賀一郎、大下順三郎、岡田孝男、荻田眞之助、北垣熊之介、桐本楠雅、久保田種吉、小林清、薗部茂、玉置豊次郎、内藤亮一、松久保敬三
1. 午後6時開會理事副會長井上新二氏議長となり只今出席者十三名なるも本日は再度の召集なるを以て定款第二十四條但書により定數を問はず本會成立の旨を告ぐ
議事に先立ち下の通り默禱を行ふ
皇軍勇士の武運長久と英靈將士

に感謝の默禱

本會評議員たりし須藤員雄君本年二月二十八日逝去につき併せて十五年度物故會員酒井藤一郎君外13氏に對し冥福を祈りて默禱

次て議事に入る

議案第1號　評議員補缺選擧に關する件

議長より評議員須藤員雄君逝去に伴ひ其の補缺を如何にすべきやに付諮りたる結果前例もあり會務に支障なきを以て今回は補缺せざることに滿場一致可決す

議案第2號　細則一部變更に關する件

本會に於て現在發行中の建築學研究誌を今般廢刊することゝなりたる理由を議長より說明後別紙案の通り細則第5條中變更せんとする旨を述べ衆議に諮りたる結果原案通り異議なく賛成ありたるを以て變更することに可決確定

尙細則第10條中事務員の服務規程を明確にするため原案の通り修正追加することを承認可決す

議案第3號　昭和15年度收支決算に關する件

桐本主計常務より別表により詳細說明後一、二質問に答へ異議なく承認可決す

追て鈴木監事旅行先新宮より決算に違法誤謬なく正確たることを證明せる旨の電報到達す

1.次で議長より本會議事錄の代表署名者に下の二氏を指名し其の承諾を得たり

小林清君、遠部茂君

1.議長以上にて本日の議案は全部終了に付評議員會は之を以て閉會する旨を宣し散會す時に午後6時20分

臨時總會

1.昭和16年5月13日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て臨時總會を開會す

1.出席者下の通り會員18名

井上新二、池田實、市川正三郎、今林彦太郎、小川安一郎、大下順三郎、加藤善吉、桐本楠雅、齋藤寛次、鈴木孫市、玉置豊次郎、中西六郎、平野忠雄、松久保敬三、三藤清三、藪中一良、若林源藏、若松甫

1.午後6時開會に先立ち中西主記常務司會の下に下記行事をなす

宮城遙拜

皇軍將士武運長久並に英靈に對し默禱

協會物故會員向山友次郎君（戰病死）須藤員雄君（評議員）外3君の本年度死亡者に對し冥福を禱るため默禱

1.右終了後理事副會長今林彦太郎氏議長となり只今出席者十六名なるも本日の臨時總會は再度の召集なるを以て定款第24條但書により定數に依らず成立の旨を述べて開會を宣し直ちに議事に入る

議事　細則一部變更に關する件

細則第5條中第1項並に第2項を第1項とし下の通り變更

「本會は會報及「雜誌建築と社會」を每月1回1日に刊行し之を會員及賛助員に配布す」

同條第3項は第2項となり現行通り

議長以上の通り朗讀の上變更理由として建築學研究を廢刊せんとする旨を詳細說明し質問の有無を問ふ

會員池田實君會員權利の喪失となるものに付若し經濟的のみにて解決するものなれば繼續の途なきや

議　長

其筋よりの內示もあり時局に卽應すること並に前評議員會に於ける申合事項もあり一應「建築と社會」に合本することを考慮したるも之を本會が發行するに至りたる當時の關係先京大建築科關係者側とも交涉の結果本會に於ては廢刊することに決定したる旨縷々說明あり

（中西主記よりも補足附言す）

會員藪中一良君

第100號を以て廢刊とするも本日議決ありたるときは其の實施日を明確にする要なきや

議　長

第100號を發行したる翌日を以て本變更案實施日としては如何やと諮る（異議なし々々の聲あり）

更に第5條中變更原案に異議なきや否やを滿場に問ひたるに異議なし々々の聲あり夫れでは本案は御承認のことゝ認める旨を述べ次の變更案に移る

細則第10條中「書記及傭員」の五字を「の事務員」の四字に變更し尙同條に下の一項を加ふ

「前項事務員の服務に關する處務規程は常務會の決議を經て別に之を定む」

議長以上の通り朗讀中西主記事務員の服務に關する規程を明確にする旨の提案理由を說明あり

議長質問の有無を問ひたるに異議なし々々の聲あり夫れでは御異議なきものと認むる旨を述べ議案全部終了す

池田實君

本總會の通知に關し第1回は機關誌「建築と社會」に會告され再度通知は書面を以てせしことは法的に差支なきや否やの質問あり

議　長

本通知發送の件に就きては役員會に於て相當研究したる結果臨時總會の通知は機關誌を以て代行するも支障なしと認むる旨を述ぶ

1.次で議長より本臨時總會議事錄の代表署名者に下の2氏を指名し其承諾を得たり

桐本楠雅君、平野忠雄君

1.議長之を以て本日の臨時總會は閉會する旨を述べ一同解散す時に午後7時30分

材料委員會（第8回）

時　　4月24日午後6時30分—8時

30分
所　倶樂部室
出席者　委員長　松久保
幹　事　楠瀬、榊
委　員　後川、薗部、前野
道田
1.木材品等規格中挽角に關する檢討の件

材料委員會（第9回）

時　5月8日午後6時30分—8時30分
所　陳列場
出席者　委員長　松久保
幹　事　楠瀬
委　員　薗部、前野、道田
矢代
1.木材品等規格中挽割に關する檢討の件
1.木材規格農林省桑田私案檢討の件

材料集成委員會（第6回）

時　5月9日午後6時10分—7時20分
所　陳列場
出席者　小林主査、矢田、若山兩委員
1.材料集成原稿整理に關する件

都市武裝促進幹事會主催

防空講演會

時　4月21日午後6時20分—9時40分
所　清水組大阪支店
出席者　阿部日出夫氏外110名
1.午後6時20分開會中西常務司會の下に下記順序により行事を進め引續き講演終了後映畫を上映午後9時40分盛會裡に閉會解散す
1.宮城遙拜
1.默　禱
1.開會の辭

本會副會長　今林彦太郎

1.防空に就て

中部軍司令部參謀
桃井　少佐

1.僞裝に就て

內務省技師　新海　悟郎
1.防護室構造に關する力學の問題

京都帝大教授　坂　靜雄
1.防火に就て

大阪府建築課長　井上新二
1.閉會の辭

本會都市武裝促進幹事長
池田　實
1.映　畫
イ、ロンドン爆撃
ロ、海軍空襲部隊

陳列場幹事會（第7回）

時　4月22日午後30分—8時20分
所　陳列場
出席者　幹事長　池田
常任幹事　瀧、矢田
幹　事　小林、中西、野中、道田、吉田
若山
1.次回開催すべき展示會計畫に關する件

倶樂部室幹事會（第2回）

時　5月9日午後5時30分—6時30分
所　倶樂部室
出席者　幹事長　三浦
幹　事　西澤、藪中、吉本
1.春季大會に關する件

會員動靜

入會

會員

小川　勇治君　旭區江野町31畦地啓太郎方（津田建築事務所）
金田　洋三君　西淀川區姫島町669菊地芳一方（菊地工務店）
熊本喜代司君　尼崎市昭和通6の218（建築業自營）
興石　義一君　住吉區濱口町西2の5清和莊內（內外木材工藝株式會社）
松高　一郎君　住吉區北田邊町66（內外木材工藝株式會社）
八尾　武男君　府下池田市2712（鴻池組設計部）
高井　久一君　府下中河內郡英田村
宇賀神行一君　西區西道頓堀1の8日本ライト建築株式會社內（同社）
入江　秀夫君　府下北河內郡枚方町上島（大阪府土木部枚方出張所）
笹川　篤君　北區中崎町53（建築設計監督）
辻本　勇君　西淀川區塚本町124（小西組）
保田　信夫君　住吉區安立町4の51生水園（保田建築事務所自營）
和久　獻二君　府下北河內郡守口町松町8（橋本秋田建築事務所）
天野　茂德君　府下三島郡茨木町下中條175（大林組設計部）
大林　芳郎君　兵庫縣武庫郡御影町上ノ山1682（大林組設計部）
中村　定春君　住吉區西長居町410土筆寮（大林組設計部）

地方會員

岡田　令治君　山口縣下松市笠戸島笠戸船渠株式會社內（同社）
天野　要君　大津市追分町51（京阪電鐵大津營業所）
荒川　元美君　廣島市平田屋町43
稻井　常夫君　中華民國河北省石門市協和路22（大林組北京支店）
澤津橋精次君　滋賀縣大津市下北國町4の10（滋賀縣營膳技手）
西村　清士君　遼陽滿洲第374部隊
丸本　啓司君　山口縣能毛郡光町吳海軍建築部光工事事務所（吳海軍建築部）
中村　五郎君　福岡市大字馬出898

（土木建築請負業）
高木　浩君　三重縣四日市市七津屋町谷崎仁之助方（横須賀海軍建築部）
奥名　利雄君　廣島縣佐伯郡大野村大野分院西二號（建築設計及ビ現場監督）

特別賛助員

泉　清一君　兵庫縣武庫郡本山村森字倉畔（株式會社竹中工務店）
七條記曾一君　和歌山市北島499（日本竹筋工業所主）
柳川　道男君　東淀川區下新庄町4（ダイマサ工務店）
池田　喜信君　東區京橋3の75大林組設計部（大林組）
猿丸吉左工門君　兵庫縣芦屋市芦屋字北ノ口200（地主）
吉川　敬一君　東區京橋1の33（辨護士）
德田　英人君　東區京橋3の75大林組設計部（大林組）
吉永　正君　東淀川區三津屋中通1の10（大林組設計部）

普通賛助員

岸田愼太郎君　住吉區山王町2ノ24（大阪府警察部勞政課庶務係）
向井　誠一君　港區八雲町2の5
竹重　雅夫君　神戸市林田區宮川町6の46
伊東　進君　北區天滿橋筋6の29
阪本　健吾君　奈良縣磯城郡耳成村内膳

退　會

會　員

小中正男君、佐々木米二君、更永勝洋君、伊東進一君、宮谷顯市君、森阪宇三郎君

地方會員

新田薫君、宍道洋一君、藥師寺主計君

普通賛助員

久保欽吾君

轉居・轉勤

會　員

友淵　善信君　京都市下京區唐橋羅城門2829合地
酒井　三治君　伊丹市主基町561の1
大島　治男君　京都府新鐸鶴市森小字羽崎西桃山通リ
秋本　研造君　新京特別市東朝湯胡同502滿洲竹中工務店
保園　源三君　東京市荒川區尾久町1の965
小林　謙三君　神戸市葦合區籠池通4の47
大下順三郎君　旭區新森小路中3の119
岡本　茂樹君　青森縣大湊町大湊海軍建築部
森口　清君　京都市伏見區深草大龜谷西久寶寺町41（京都府建築課）
村田重太郎君　東京市世田谷區玉川等々力町2の476小林方
武内　茂君　住吉區播磨町東1の36
小野田松夫君　豊中市新免681
安孫子三雄君　神戸市兵庫區松本通7の6の3
倉岡　重雄君　名古屋市南區熱田前新田中川西189の1
美浪　德一君　德島縣板野郡瀨戸町大島田
入山愛次良君　德島縣那賀郡坂野町吳海軍建築部工事事務所
大塚　眞宏君　豊中市櫻塚元町4の23（嶋吉商事有限會社）
天滿　勇君　和歌山市小松原通1の1清水章方
松浦　完二君　兵庫縣武庫郡鳴尾村中津131甲子園旭ケ丘
久保　正一君　東淀川區本庄西通リ2の18北陽パンション内
西田　藤吉君　高知縣高岡郡佐川町甲1319土佐石灰工業株式會社佐川出張所内
增田憲一郎君　兵庫縣川邊郡立花村尾濱東末376の5
北村　久男君　芦屋市打出一本松九地
佐々木信二君　布施市上小阪1の873
木野山照雄君　愛媛縣溫泉郡道後湯之町南町4の610（松山工業學校）

地方會員

辻　法行君　東京府八王子市外小宮町字大和田中野篩絹株式會社建築事務所
稻川　春雄君　廣島縣吳市西畑町2[7]大阪橋本組吳出張所内
杉浦　巴君　東京市豊島區長崎町5の12
仰木　藤七君　上海東嘉興路瑞康里第85號
村田　俊郎君　下關市長崎町關西園2212
西村　銀三君　山口縣熊毛郡光町金山
若林　季雄君　滿洲國龍江省鎭東縣鎭東驛前鹿島組出張所
橋目　鐵君　奉天市大和區平安通リ37
前川　敬藏君　東區今橋4の1三菱信託ビル東畑建築事務所
佐々木忠平君　熱河省承德南營子大街滿洲鑛山承德出張

所氣付日產土木工事係員詰所

笠井駒之助君　朝鮮新義州府常盤町6の38東洋棉花株式會社新義州出張所

加地　勇君　朝鮮釜山府東大新町2の388

瀨川　廉平君　旅順市千歲町27陸軍官舍106號

富岡　工君　兵庫縣加古郡尾上村姬路師團經理部尾上出張所

池田　梅親君　北海道空知郡赤平村住友赤平鑛山藤木工務店出張所

地方會員

小山　將秋君　東京市杉並區成宗1の90

進藤　朝一君　廣島縣佐伯郡五日市町373

西村駿一郎君　神戶市兵庫區東柳原町197の7の1

星野　格君　北海道空知郡砂川町大倉土木會社內

磯田　樹秀君　馬山府馬山驛構內竜岡組出張所

荻田　利君　富山縣大門驛前日本電氣冶金株式會社大門工場增築工事場清水組作業所

藤幸　好雄君　小倉市外曾根町大林組出張所

武中　政二君　滿洲國本溪湖市彩家屯本溪湖洋灰株式會社內大倉土木株式會社藪內組

小針　三郎君　茨木縣那珂郡勝田町郵便局前鐵筋コンクリート會社出張所內

三木　作君　堺市出島海岸通1の60（日本電建會社大阪支店

大村　春方君　東京市世田谷區代田2の906

大谷　勳君　大分縣佐伯市本町

曾我部幸雄君　岩手縣里沃尻町國產輕銀南社宅15號

特別賛助員

小鷹　一喜君　兵庫縣武庫郡良元村小林字野上271の19

岩崎　博君　兵庫縣武庫郡瓦木村下瓦林字辨天464(省線甲子園口)

西野　弘行君　住吉區鷹合町880

大西　幸七君　住吉區阪南町東2の9

普通賛助員

片山　一郎君　京都市東山區劍之宮町36西浦寶方

苅田源治郎君　新京特別市大同大街至善路政府第五代用官舍746栉谷健治郎方

村田　篤君　神戶市灘區深田町2の132

近藤　保君　北京市西交民港30號中國聯合準備銀行顧問室

村田　眞一君　布施市御厨22

石原佐津喜君　兵庫縣武庫郡住吉村字古新田1474の1大林組住吉村現場

上久保宗晴君　滿洲奉天市大和區葵町29滿洲戶田組

濱田　德夫君　天王寺區筆ケ崎町大阪赤十字病院第18號

改　姓　名

會　員

大岡　喜治君　（舊姓名駒田善治）

大塚　眞宏君　（舊名熊吉）

特別賛助員

鶴丸　傳右君　（舊名梅太郎）

地方會員

磯田　樹秀君　（舊名辰雄）

小針　三郎君　（舊姓森）

死　亡

會　員

向山友次郎君　昭和16年4月4日逝去（戰病死）

早爭　五朗君　昭和16年4月21日逝去

（謹みて哀悼の意を表す）

建築材料陳列場出品者

棚番號	材料種別	出品者	棚番號	材料種別	出品者
1	プリズム、鑄造、彫刻各種硝子	岩城硝子株式會社	34	コンクリート型枠離脫劑	內外建材合資會社
2～3	ギルソイドルーフキング	大阪田島應用化工株式會社	35	ドアーハンガー	平松釣戸車製造所
4	エターナイト	木下謹三商店	36	OSC建築金物	大信洋行大阪支店
5	鋼製建具建築材料	三機工業株式會社	37	大理石及人造石	矢橋大理石商店
6	建築用衞生陶器、磁器タイル	陶華商會	38		
7～8	六甲スレート日本石綿盤六甲タイル	野淨幸三郎商店	39	建築用陶器及工藝品	泰山製陶所
9 (1)	防空塗料ペトナー	清光社防空部			
(2)	八光クリート板、ピカベライト、ピカベ配電盤	八光建材工業所	40	米原式武者窓、換氣天窓、防空換氣屋根	米原商店
10	ロールプラツグ、ストップリーク	ユニオントレーヂングコンパニー	41～42	ラス類一式	奥村重兵衞商店
11	チツソライト板	日本窒素肥料株式會社	43	耐火塗料	東洋理化學工業所
12～13	色彩、彫刻硝子	大阪精工社	44～45	建築用金屬材料ホワイトブロンズ水道鋼管	住友金屬工業株式會社
14	フアイバーコンヂット及フアイバーダクト他附屬品	株式會社影久商店	46	板硝子	日本板硝子株式會社
15	衞生器具	大阪城口研究所	47	ケンテキス	淺野物產株式會社建材部
16	電燈照明器具	林電器製作所	48	特許送風式井筒基礎工	株式會社公成社
17	衞生器具	西原衞生工業所	49		
18	耐火木材、耐火塗料	愛國化學工業株式會社	50～51	日昭ライト板、日昭化粧板	日昭ライト工業株式會社
19～20	衞生陶器及附屬品	東洋陶器株式會社大阪出張所	52	キング合成砥石、モザイック	東寶產業株式會社
21	セメント混和材コーアイラト、セメント石灰着色劑セイコーシキソ	清光社	53	石綿スレート	淺野スレート株式會社
22	內裝用壁掛タイル	淡陶株式會社大阪支店			
23	モザイツク・タイル	草葉陶磁器研究所	54～55	オリエンタルメタル浪板	オリエンタルメタル製造所
24	ブーバー竹筋	堀富商[illegible]株式會社	56	ベニヤ板見本ドアーセクション	內外木材工藝株式會社
25	日興スレート テツクス	ミヤマ商會	57	專賣特許特殊ゴム敷物	ライトラバー工業合資會社
26～27	テラカツター衞生陶器	大阪陶業株式會社	58	富士テツクス、ライトテツクス、スレート、コーナービード	福島合名會社
28	タイル、テラカツター、煉瓦、合成砥石各種	大阪窯業株式會社	59	防火塗料プロテツクスペルコ	大日本塗料株式會社
29			60	屋根瓦各種	高松菊治郎商店
30	テラカツタータイル	伊奈製陶株式會社	61	耐酸防水材料	田中昌司商店
31					
32	硝子製品、旭ラツカー	旭硝子株式會社	62～63	塗料及顏料	日本ペイント株式會社
33	ドアーチエツク、フロアーヒンヂ、スプリングヒンヂ	日本ドアーチエツク製作所	64	纖維製絕緣板、エムテツクス	日東物產株式會社

棚番號	材料種別	出品者	棚番號	材料種別	出品者
65	パールワックス リノリユームワックス	金田化學研究所	92～93		
			94～95		
66	塗料及防腐剤	神東塗料株式會社	96		
67	防水劑ロータス	關城化學工業株式會社大阪營業所	97		
68	硝子製品	株式會社島田硝子製造所	98	瀨戸燒瓦一式	瀨戸燒瓦關西出張所
69			99	日之出印アスファルト加工品	日本建築紙工大阪支店
70			100	洋室家具裝飾	中原家具裝飾店
71	朝日鑛スレート、波形スレート	朝日スレート株式會社	101		
72	防空用旭暗幕	旭レール株式會社	102		
73			103		
			104		
74	エタニツトパイプ	野田合名會社	105	波型石綿スレート、石綿スレート、光り波型ガラス	日本スレート株式會社
75	陶製階段用欄間、同床下換氣窓	鍋要枝町工場	106	强性ライト	日本特殊鑛土株式會社
76	左官壁材料一式	南育宏本店	107	洋瓦各種	日本洋瓦株式會社
77	田中式防空暗幕、特許モリノイト不燃板	有限會社田中商會	108	建築參考塗料見本	關西ペイント株式會社
78	放熱器、放熱管、冷暖房換氣設備用品	理化學興業株式會社	A	リノリユーム、リノタイル、リノウオール	東洋リノリユーム株式會社
79			B_1	防火浸塗劑セロン	伊藤元商店
80			B_2	美　素	美素工業所
81			B_3	電線管及附屬品	合資會社福島商店
82			B_4	リーダ液アートガン	リーダ建材工業株式會社
83			C_1	造園設計圖	須藤造園研究所
84～85	ルーフイング スーパライト	佐久間工業株式會社	C_2～C_3	ラスモザイク	日本陶業社
86～87	ニツチクラス及硬化竹筋	日本竹筋工業所	C_4		
			D_1	やよひスレート	松井商店
88～89	町野式水道消防器具 福山式自働洗滌裝置	日本機械工業株式會社大阪支店	D_2	コンヂツトチユーヴ	昭和コンヂツト株式會社
90	厚型スレート	厚型スレート株式會社	D_3	寄木床張	二　葉　屋
91			南窓下		

編輯後記

編輯常務

大下順三郎　岡田孝男
小林清　政岡基次

風さはやかなる六月號は、編みて「神社建築」號となす。

工學博士田邊泰氏の「神社建築の性格」、同じく工學博士藤島亥治郎氏の「鳥居」及び「軍艦沖の島の神殿」、藤原義一氏の「神社建築樣式變遷」、井上一雄氏の「神社建築雜考」等々の佳編を賜り、ともすれば薄すらぎ勝なる我々の認識を新たにし更に深め得たことは、編者の最も喜びとする處である。ひいては、敬神崇祖の念を高め、國體明徵へのよすがともなれば望外の幸である。

尙、最近竣功した神社建築の寫眞二三を、紹介すべく企圖してゐたが、餘儀なき事情で斷念せざるを得なくなつたのは誠に殘念である。

過般、我が協會主催のもとに開催した「市民防空壕展覽會」の概貌を延引ながら本號に紹介してゐるが、それに關連し、時局下最も緊要なる「防空防火に關する資材」の誌上展覽會を試みて讀者各位の使用に便ならしめた。茲に賛同出品を賜りし各位に對し厚く御禮申し上げる。

× ×

從來本會から發行してゐた「建築學研究」も、過日開かれた總會の決議により第100號を以つて發行をやめることになつた。永年、會員に親まれて來たものだけに、別離の情禁じ能はずであるが、時局の爲とて致し方無之次第である。

が、幸ひ、生みの親たる京大建築學研究會の手に依つて、發行が續けられるとのことであるから、その健やかなる發育を祈ると共に、會員諸氏におかれても何分共よろしく御援助、御購讀ありたし。

× ×

本會、編輯常務、政岡基次氏は此度目出度應徵、軍務に服されることになつた。昨年度からの編輯常務として、本會殊に本誌の爲盡瘁されただけに、同氏の如き有能なるスタッフを失ふことは大なる痛手であるが、此亦御國の爲ならば致方無之、同氏の武運長久を切に祈る次第である。（K）

建築と社會

第24輯　第6號

毎月1回1日發行　定價（送）　1冊　50錢（郵稅2錢）
12冊　6圓（〃　24錢）

昭和16年5月25日印刷　昭和16年6月1日發行

發行・編輯兼印刷人　戸川弘
大阪市北區朝日ビル日本建築協會内

印刷所　ブラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3　朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

グラビヤ（第1頁）	1頁	1回	55.00
グラビヤ（第2頁）	1頁	1回	45.00
後附	1頁	1回	25.00
後附	½頁	1回	15.00
記事中	¼頁	1回	20.00
アート（中挿）	½頁	1回	25.00
表紙2	¼頁	1回	25.00
表紙3	¼頁	1回	20.00
表紙4	¼頁	1回	30.00

廣告掲載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

●第二四集　第六号　掲載広告一覧（掲載順）

大阪窯業セメント
美素工業所
寧楽屋家具装飾店
松下電工
協和製作所
南満鉱業建材
三菱商事
南満建材工業所
柳々堂書店
平松釣戸車製造所
関城化学工業
萩工業貿易